

岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成11年度)

平成12年3月

岩手県教育委員会

序文

埋蔵文化財は、私たちの祖先より築かれてきた貴重な歴史的財産であります。私たちはそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき活用し、そして後世に伝えいかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は、近年の増大する大規模な開発等により厳しい状況に置かれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整を図るために、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示すことが必要であることはいうまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところですが、現在確認されている遺跡数は1万ヶ所余りにも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成11年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位から御指導御協力を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

平成12年3月

岩手県教育委員会

教育長 大隅 英喜

例　　言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成11年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000の地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレーナー配置図は、各事業所より入手した地形図あるいは工事平面図を原図として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の推定範囲についてはアミで示し、試掘溝は実線で示した。
- 6 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名のつけられているものについては遺跡名も併記した。
- 7 本事業の調査、整理、報告書編集等は岩手県教育委員会事務局文化課の佐々木勝主任文化財主査、中村英俊文化財専門員、佐藤嘉広文化財主査、金子俊二文化財調査員、金子昭彦研修員、戸根貴之文化財調査員が担当した。
- 8 図版について、個々の遺構図は1/60、遺物は1/3を原則とし、大きさにより若干スケールを変えて掲載している。尚、遺構配置、調査区位置図は任意縮尺とした。
- 9 本書の作成にあたり、次の方々の御指導・御協力をいただいた。(順不同)
熊谷常正、羽柴直人、佐々木　務、神原雄一郎、星　雅之、相原康二、鎌田　勉、神　敏明、浜田　宏、千田和文、日下和寿、丸山浩治、小田野哲憲
- 10 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目次

序文

例言

I 発掘調査

1 県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区（福田遺跡）	3
2 桜川ダム建設関連道路建設事業（大升沢B遺跡）	5
3 東北新幹線建設事業（葉の木沢Ⅲ遺跡）	6
4 県営ほ場整備事業人首川東部地区（前広田遺跡）	8
5 担い手育成基盤整備事業藤岡地区（八幡堂遺跡）	11
6 担い手育成基盤整備事業真城地区（館遺跡）	12
7 一般農道整備事業江刈中部地区（品井沢遺跡）	14
8 地方特定道路整備事業（西平Ⅱ遺跡）	16
9 市町村道整備代行事業（小鳥沢C遺跡）	18

II 試掘調査

1 広域農道整備事業東磐井地区（船丸館跡）	23
2 一般農道整備事業大森崎地区（大馬場遺跡）	24
3 ふるさと農道緊急整備事業要害地区（清田台遺跡）	25
4 林業地域総合整備事業林道草倉線開設工事（平清水館跡）	27
5 大区画ほ場整備事業長岡地区（沼田遺跡）	28
6 ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）（相田遺跡）	29
7 ほ場整備事業奥玉地区（奥玉北沢遺跡他）	30
8 地方特定道路整備事業（蔵屋敷・飯島遺跡）	32
9 畜産経営環境整備事業（西中沢塚群遺跡）	33
10 県営畜産経営環境整備事業胆江地区（天ヶ森遺跡）	34
11 緊急地方道路整備事業（山根館跡）	35
12 緊急地方道路整備事業（ゴッソー遺跡）	36
13 国営馬淵川沿岸農業水利事業（道白Ⅱ遺跡）	37
14 国営いざわ南部農地整備事業（下中沢Ⅰ・Ⅱ遺跡）	38
15 緊急地方道路整備事業（宮野日方八丁遺跡・上ノ山）	39
16 一般国道4号小鳥谷バイパス（五月館跡・仁昌寺Ⅱ・Ⅲ遺跡）	40
17 胆沢ダム建設（大清水・大清水上遺跡）	42
18 一般国道4号水沢東バイパス建設（北田Ⅱ遺跡）	44
19 東北新幹線建設事業（川原田平遺跡）	45
20 東北新幹線建設事業（川前・大崎Ⅱ遺跡）	46
21 地方特定道路整備事業（要害館B遺跡）	48
22 新交流ネットワーク道路整備事業（小松Ⅰ・Ⅱ遺跡）	49
23 一般国道45号大船渡三陸道路建設事業（丸森Ⅲ遺跡）	50

24	緊急地方道路整備事業（上宮守村道）・ほ場整備事業宮守川上流地区（上宮守遺跡）	51
25	県営ほ場整備事業飯豊地区（権現前遺跡）	52
26	緊急地方道路整備事業（浅石遺跡）	54
27	新幹線関連道路整備事業（長興寺Ⅰ遺跡）	55
28	担い手育成基盤整備事業二子地区（中村遺跡他4遺跡）	57
29	ほ場整備事業（担い手育成・区画整理型）姉体地区（漆林Ⅱ遺跡他2遺跡）	63
30	ほ場整備事業（担い手育成・区画整理型）姥沢上野地区（明後沢遺跡群）	64
31	担い手育成基盤整備事業（大道遺跡他）	68
32	ふるさと農道緊急整備事業下冬部地区（冬部田屋遺跡）	70
33	県営中山間地域総合整備事業浅沢地区（下ノ田館跡他）	71
34	ふるさと農道緊急整備事業砂川地区（丹内Ⅰ・Ⅱ・砂川Ⅲ遺跡）	73
35	ふるさと農道緊急整備事業水沢地区（上水沢Ⅱ遺跡）	74
36	ふるさと農道緊急整備事業館迫落合地区（町井Ⅰ遺跡）	75
37	県営ほ場整備事業高松第2地区（楓ノ木Ⅲ遺跡他）	76
38	県営ほ場整備事業西宮野目地区（先屋遺跡他）	77
39	県営ほ場整備事業宮野目第三地区（上似内遺跡）	78
40	県営ほ場整備事業八重畠地区（宿遺跡他）	80
41	主要地方道一関北上線緊急地方道路整備事業（館Ⅱ遺跡）	81
42	花巻空港整備事業（大西遺跡）	83
43	県営ほ場整備事業一関第2地区（里遺跡他）	84
44	県営ほ場整備事業猫川左岸地区（宇南田Ⅰ遺跡他）	87
45	ふるさと農道緊急整備事業要害地区（鳥喰Ⅲ遺跡）	90
46	町道織笠外山線道路改良工事（細浦Ⅳ遺跡）	91
47	湯舟沢火山砂防事業（けやきの平団地遺跡隣接地）	92
48	県単交通安全施設整備事業（太田Ⅵ遺跡）	93
49	家畜保健衛生所施設整備事業（砂込Ⅲ遺跡）	94
50	試掘調査一覧	95
51	分布調査一覧	101
	III 写真図版	115

I 発掘調査



1 県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区

福田遺跡 (KE 15-0217)

所在地：西根町寺田字福田地内

事業者：盛岡地方振興局農政部畜産課

調査期日：平成11年9月9日～13日（3日間）

遺跡は斗内川と寺沢に挟まれた丘陵地の西側緩斜面に広がる。現況は畑地で、標高は275～289mを測る。

今回の調査地は、現在ある農道の改良拡幅工事に当たっている部分を対象に行った。なお、分布調査では、全長約500mにわたり土器片等の散布が確認されている。

今回の発掘調査については、事前に実施した試掘調査結果をもとに調査範囲を定めた。先に試掘調査の内容を記述する。

試掘調査は、第2図に示した箇所にトレンチを設定し、遺跡の内容把握に努めた。

T 1・T 2は、表土中で土器片の散布を確認したが、遺構は検出されていない。

T 3・T 4は、地表面下約80cmにわたり擾乱を受けている。その下で十和田a火山灰がブロック状に散在し、また土器片の出土を確認したが、遺構は確認できなかった。

T 5～7・9・10では遺構・遺物ともに確認されなかった。T 8では擾乱土層中から縄文土器が出土した。

また、今回の試掘調査範囲の南端付近では、現地表面の段階で、事業予定からは外れるが、西側に張り出した尾根状の部分に隅丸方形の塚状の高まりが観察された。

上述の試掘結果を踏まえ、地表面でもっとも遺物の散布量が多かったT 1の南側付近の発掘調査を実施した。

調査期間の関係から、グリッド等の設定は行わず、遺構の平面記録についても調査区に近接する現道を起点に平板測量を実施した。

発掘調査の結果、検出された遺構は土坑2基、出土遺物は縄文土器・土器片が数点である。

遺構検出面は黒褐色土～黄褐色土で、黄褐色土を地山とする。今回検出された土坑は、円形と長梢円形を呈するものである。

円形を呈する土坑は、規模は開口部径約200cm、底部径約160cm、深さ約70cmである。埋土は黒褐色土を主体に暗褐色土が混在する。土層の堆積相は、明確ではないが自然堆積と思われた。

長梢円形を呈する土坑は、規模は長軸で約260cm、短軸で約120cm、深さは約30cmである。埋土は黒褐色土による単層であり、上部が破壊を受けた様相であることから、断面図は作成していない。

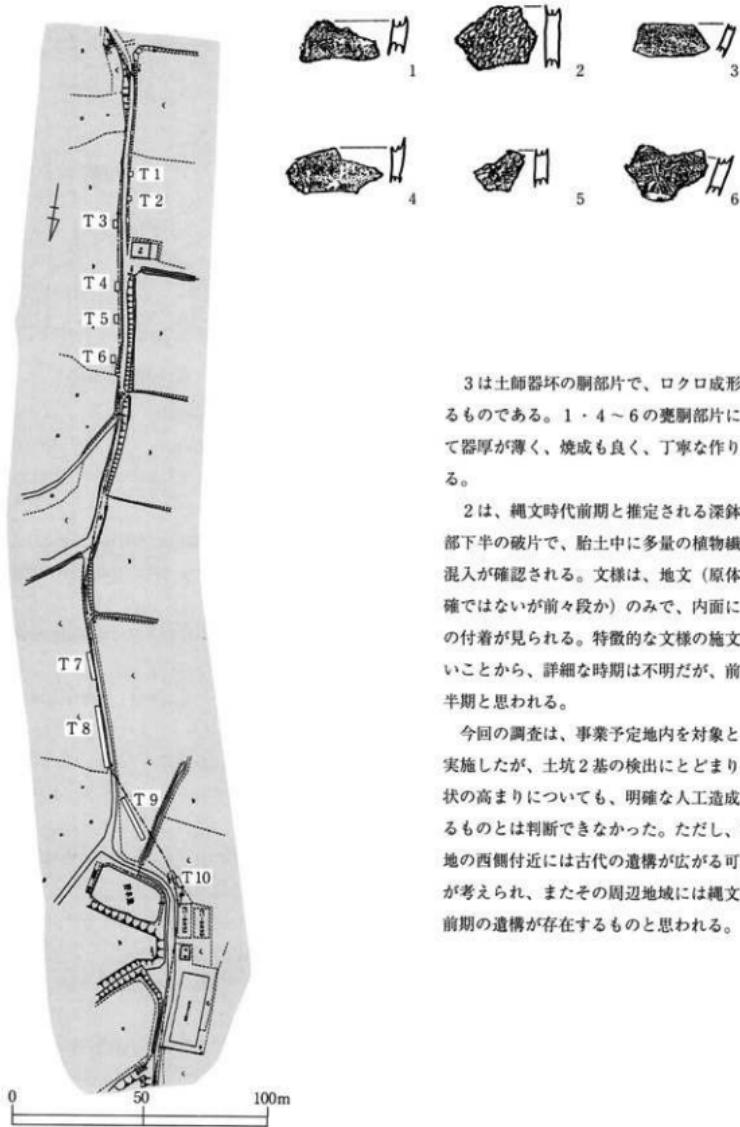
検出された土坑は、遺物等の出土がないことから、詳細な時期を特定できないが、何れの土坑についても古代に構築されたと推定される。

今回の調査で出土した遺物は、縄文時代前期の土器と平安時代と思われる土器片が、遺構検出作業時に黒褐色土中より出土した。出土した土器は、何れも小破片で、文様や調整痕も明瞭でないものがほとんどである。

1・4～6は、土器片の脇部片で、縦方向のケズリと思われる調整痕がわずかに確認される。4と6には、胎土中に細繙が含まれ、胎土が粗い様相を呈する。



第1図 福田遺跡位置図



第2図 西根町福田遺跡調査区位置図・出土遺物

3は土師器坏の胴部片で、ロクロ成形によるものである。1・4～6の甕胴部片に比べて器厚が薄く、焼成も良く、丁寧な作りである。

2は、縄文時代前期と推定される深鉢の胴部下半の破片で、胎土中に多量の植物繊維の混入が確認される。文様は、地文（原体は明確ではないが前々段か）のみで、内面には煤の付着が見られる。特徴的な文様の施文がないことから、詳細な時期は不明だが、前期前半期と思われる。

今回の調査は、事業予定地内を対象として実施したが、土坑2基の検出にとどまり、塚状の高まりについても、明確な人工造成によるものとは判断できなかった。ただし、調査地の西側付近には古代の遺構が広がる可能性を考えられ、またその周辺地域には縄文時代前期の遺構が存在するものと思われる。

2 築川ダム建設関連道路建設関連調査

大升沢B遺跡 (L E28-1309)

所在地：盛岡市川目字曾沢地内

事業者：岩手県盛岡地方振興局築川ダム建設事務所

調査期日：平成11年5月6日～11日（4日間）

遺跡は築川水系の沢が形成した小規模な扇状地上に立地する。標高は230～235mほどを測り、現況は畠地及び草地である。畠地においては縄文土器細片が表探できる。

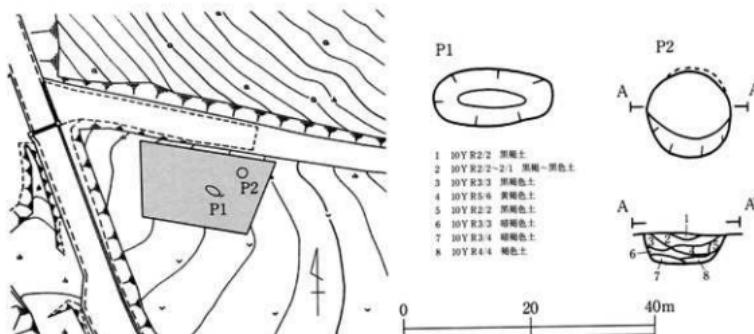
県営築川ダム建設のために国道106号が付け替えられるうことになり、遺跡内に道路の橋脚が設置されることになったため、橋脚部分に昨年11月試掘調査を実施したところ、土坑2基が検出されたため今年度発掘調査を実施した。

遺構検出面までは重機で土を除去し、その後人力で遺構検出を行った。扇状地末端部分に当たる調査区の西端を重機で掘り下げるところ、遺構検出面に巨礫層があり伏流水が湧き出るなど、沢の影響が強く見られた。このエリアは除き、徐々に東へ遺構検出を進めたところ、調査区中ほどで昨年の試掘調査で検出されていた土坑P1を確認した。断面観察のため半裁してみたが、湧水のため途中までしか掘り上げることができなかつたので、断面観察は断念し、プランの確認のみにとどめた。この土坑の規模は長径が190cmで短径が80cmの楕円形を呈するが、遺物は出土せず、時期や性格については把握することができなかつた。過去の調査例から、陥穴の可能性が考えられる。さらにP1の北東約6mのところで、昨年の試掘調査で検出されていた円形の土坑P2を確認した。規模は径130cmで深さが40cmである。墓坑の可能性を想定して掘り進めながら、断面からは自然堆積の様相が観察され、遺物は出土せず、時期や性格は不明である。

橋脚部分という狭い範囲の調査であったが、調査区全体で確認された遺構は土坑2基のみで、遺物については出土しなかつた。



第3図 大升沢B遺跡位置図



第4図 盛岡市大升沢B遺跡調査区位置図・遺構図

3 東北新幹線建設関連調査

葉の木沢Ⅲ遺跡 (KE 86-0303)

所在地：盛岡市下厨川字鍋屋敷地内

事業者：日本鉄道建設公団盛岡支社

調査期日：平成11年4月15日～20日（4日間）

遺跡は、岩手山を供給源とする火山灰台地上に立地する。標高は、200m前後である。

今回の調査は、平成10年12月に試掘調査を実施した結果、陥し穴状遺構が発見され、埋蔵文化財の現状保存が困難であると判断されたことから、やむを得ず緊急に記録保存を目的として実施したものである。

調査範囲は、東北本線の北側線である。西側には東北農業試験場の畠地が広がっている。

調査面積は、約285m²で、遺構は調査範囲の中央に検出された。

基本層序は次の通り。Ⅰ層：黒色砂質土20～30cm、Ⅱ層：黒褐色砂質土20～25cm、Ⅲ層：黄褐色土（地山）層厚不明。

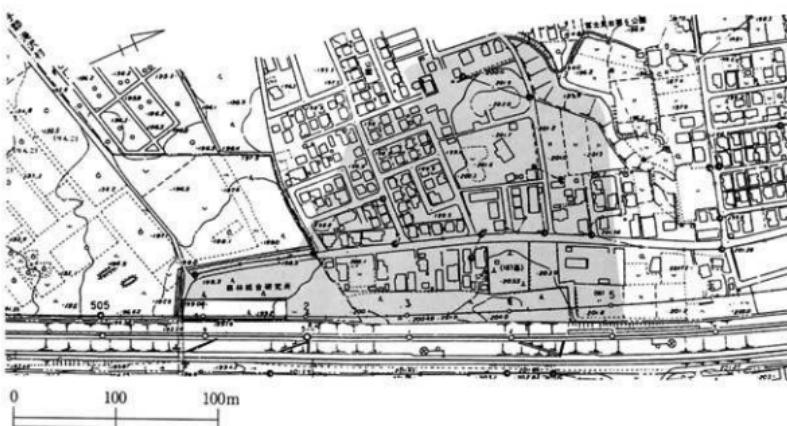
調査では、陥し穴状遺構が3基検出された。遺物は出土していない。

いずれも、平面形が溝状の長楕円形で、横断面形がY字形を呈するものである。1号は、規模が2×0.2m、深さ62cm、2号は、規模が2.6×0.35m、深さ62cm、3号は、2.46×0.42m、深さ62cmである。断面形は異なっているが、深さはなぜか一致している。位置も接接しており、特に2号と3号は、0.5m程度しか離れていない。いずれの遺構からも遺物は出土していないので、時期は特定できないが、これまでの類例から、縄文時代の可能性が高い。

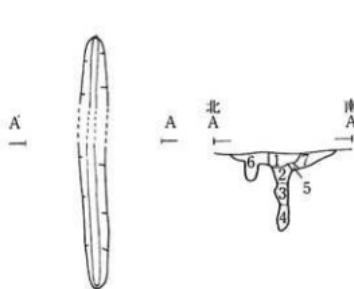
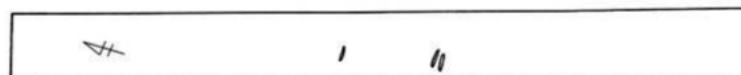
今回の調査区の北側は、県埋蔵文化財センターが平成10年10月1日～10月29日に調査している。今回と同



第5図 葉の木沢Ⅲ遺跡位置図

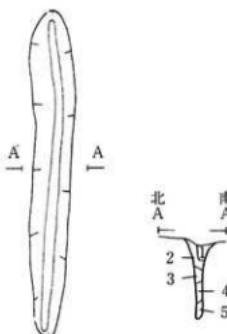


第6図 滝沢村葉の木沢Ⅲ遺跡調査区位置図



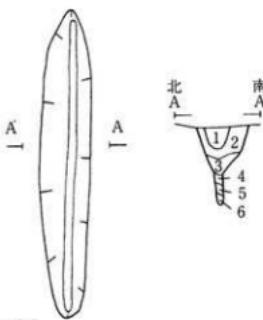
陥し穴1

- (10Y R1.7-1) シルト
- (10Y R2.3) 地に褐色 (10Y R4.6) のブロック。シルトやもろい、ロームブロック含む
- (10Y R2.2) 地に褐色 (10Y R4.6) の小さなブロック、シルト、やもろい、ローム粒含む
- (10Y R4.6) 黒褐色地に黒褐色 (10Y R2.3) のブロック、シルト非常にやもろい、ローム粒多
- (10Y R4.6) シルト非常にやもろい、根によるカララシ
- (10Y R3.3) 明顯シルト圓くまる、地山が改變を受けたもの (地盤現象) と思われる
- (10Y R5.6) 地に黒褐色 (10Y R2.3) のブロック、シルト。もろい、地山が根によるカララシを受けたもの



陥し穴2

- (10Y R2.3) 黒に小粒大的の黄褐色 (10Y R5.6) のブロック、シルト、ローム粒多
- (10Y R2.3) 黒に小粒大的の黄褐色、砂質シルト、ローム粒多、やもろい、
- (10Y R2.2) 黒褐色質シルトやもろい、
- (10Y R3.3) 黑褐色質シルトやもろい、ローム粒多
- (10Y R2.3) 砂質シルトやもろい、ローム粒多



陥し穴3

- (10Y R2.1) 黒シルト
- (10Y R2.2) 黒褐色に黄褐色 (10Y R5.6) のブロックシルト。ローム粒含む
- (10Y R5.6) 黄褐色シルト非常にやもろい、地山再堆積
- (10Y R5.4) に古い黄褐色和質シルトやもろい、地山再堆積
- (10Y R3.3) 堀縁と黄褐色 (10Y R5.6) 蓋土、シルトやもろい、ローム粒多
- (10Y R3.1) 黒縁と黄褐色 (10Y R5.6) の蓋土、シルトやもろい、ローム粒多

じ調査原因で、調査範囲は東北本線に沿って幅約30m、長さ約270m続く。調査対象面積は6,700m²と広かったが、遺構・遺物の密度が薄かったので、2×20mのトレンチを37本入れ、遺構が確認された部分のみ掘り広げるという方法を探った。

その結果、陥し穴状遺構6基、時期不明の溝跡2条が検出され、縄文土器二十数片、不定形石器十数点、凹石1点、磨石2点が出土している。

以上から、今回の調査範囲は、縄文時代の狩猟場あるいは植物採集、一次加工の場で、生活の拠点は別の場所にあったものと思われる。

参考文献

岩手県埋蔵文化財センター 1999『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成10年度)』(第311集)

第7図 湯沢村葉の木沢遺跡遺構図

4 県営は場整備事業人首川東部地区関連調査

前広田遺跡 (NE 07-0259)

所在地：江刺市愛宕字前広田地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成11年6月1日～6月8日（6日間）

遺跡は、人首川によって形成された沖積地中の微高地
上に立地している。

今回の調査は、は場整備に係る農道部分が対象である
(現道改良、拡幅)。平成11年4月に試掘調査の結果(図
中のT1～T6)溝跡を発見、埋蔵文化財の現状保存が
困難であると判断されたことから、やむを得ず緊急に記
録保存を目的として実施したものである。

調査範囲は、溝跡が発見されたT2付近の道路拡幅部



第8図 前広田遺跡位置図

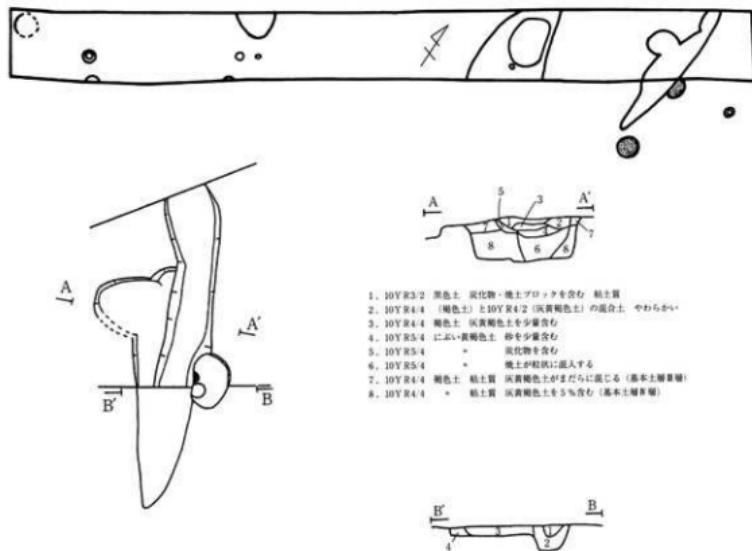


第9図 江刺市前広田遺跡調査区位置図

分、約400m²である。基本層
序は、I層：表土（耕作土）
30cm、II層：褐色土（漸移
層）10cm、III層：褐色土
(遺構検出面)10cm、IV層：
黄褐色土(地山)50cm、V層：
にぶい黄褐色土（粘土）
層厚不明。

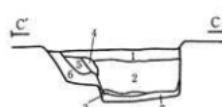
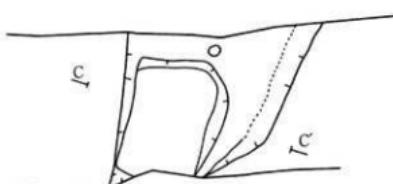
検出された遺構は、柱穴
状土坑5基、土坑4基、溝
跡2条である。

土坑4は、大溝下から検
出され、底から人骨と古銭
(鋳ひどく不明)が4枚出
土。大溝の埋土からは古銭
(永楽通宝)が1枚出土。
溝はいずれも下場がはつき
りしない。1基の柱穴状土
坑からは須恵器(第11図)
が出土。



1. 10YR3/2 黒色土、炭化物・地上ブロックを含む 粘土質
2. 10YR4/4 (褐色土) と10YR4/2 (灰青褐色土) の混合土、やわらかい
3. 10YR4/4 褐色土、灰青褐色土を含む
4. 10YR5/4 にふく灰褐色土、砂を含む
5. 10YR5/4 " 炭化物を含む
6. 10YR5/4 " 地上が粘土に入する
7. 10YR4/4 褐色土 粘土質 灰青褐色土がまだらに混じる (基本土層剖面)
8. 10YR4/4 " 灰青褐色土を含む (基本土層剖面)

1. 10YR3/2 黒褐色土 下層にいくにしたがい褐色土が混入する
2. 10YR3/2 (灰褐色土) と10YR4/4 (褐色土) の混合土・地上ブロック・土器片が含む
3. 10YR5/4 にふく灰褐色土 レンズ状に褐色土を混入する 地上ブロックを含む
4. 10YR5/4 " 灰褐色土が混入する 粘土質 (基本土層剖面)



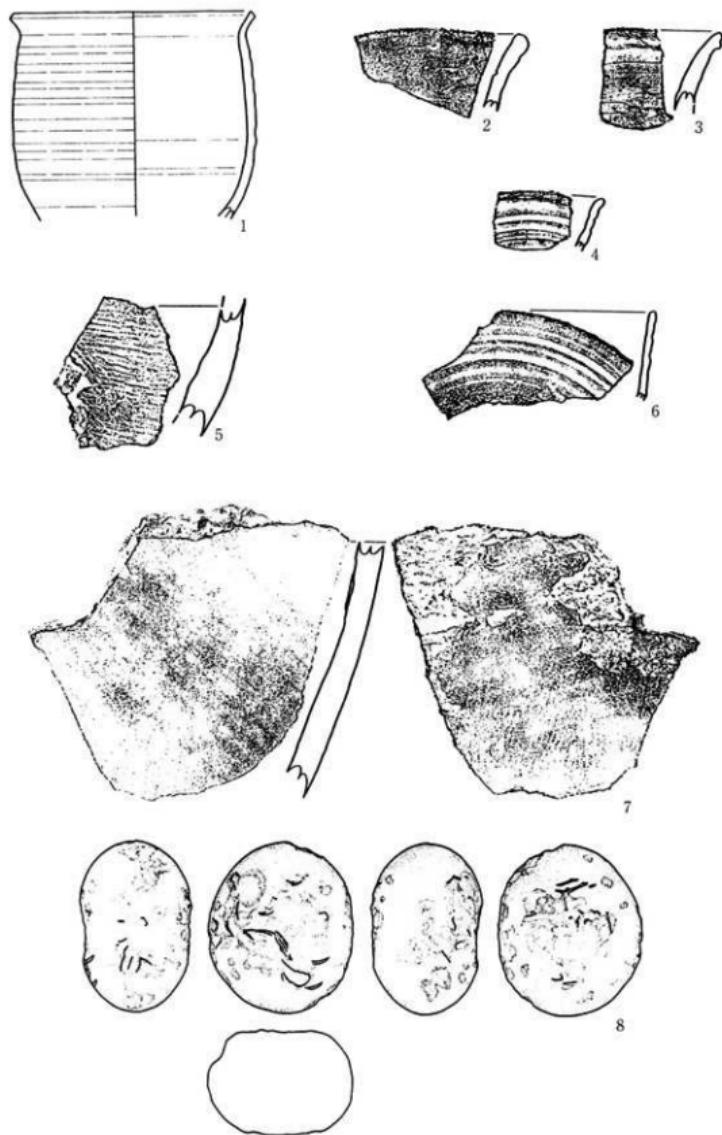
1. 10YR4/3 にふく灰褐色土、粘土質シルト 炭化物をわずかに含む 滲の底土
2. 10YR4/3 " " 10YR5/4 (にふく灰褐色土) がブロックで混入する
3. 10YR5/2 灰青褐色土 粘土質 基本土層V層の内層接着
4. 10YR4/2 " 粘土質シルト V層をブロックで混入する
5. 10YR4/3 にふく灰褐色土 "
6. 10YR4/4 褐色土、粘土質 灰青褐色土を5%含む (基本土層剖面)
7. 10YR5/4 にふく灰褐色土、粘土質 (基本土層V層)

その他、検出面からは、2の中世陶器(片口、内側に自然釉)、3の須恵器、6の土師器が出土している。1の土師器は、排土発見で、排土からは磨石状の加工石製品も出土。

また、今回の調査区の周辺から、平安時代の堅穴住居跡の一部と思われるカマド1基、柱穴状土坑1基、焼土1基が検出されている。5の須恵器はカマド袖、7の須恵器、8の敲石は焼土から出土。

以上から、遺構の時期の特定は難しいが、出土遺物から古代～中世の可能性が高い。

第10図 江刺市前広田遺跡遺構図



第11図 江刺市前広田遺跡出土遺物

5 担い手育成基盤整備事業徳岡地区関連調査

八幡堂遺跡（N E 35-2179）

所在地：胆沢郡胆沢町小山字徳岡地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査日：平成11年4月15日～16日（2日間）

八幡堂遺跡は、胆沢扇状地の中の河岸段丘上に立地している。遺跡のはば中央部に八幡神社が所在し、周囲を山林と水田によって囲まれている。

今回の調査は、担い手育成基盤整備事業に伴うもので、平成10年11月の調査において遺構が確認されていた部分について記録保存を図ったものである。

前年の調査では、事業予定地内に計18本のトレンチを設定しており、現在の水田部分の殆どに厚い盛土層を確認していた。

遺構は、陥し穴1基が神社への進入路から約25m西側の支道第114号脇のT5で検出された。その規模は、長軸約2.8m、深さ約1.1mで、通常見られる溝状の陥し穴である。底部付近では湧き水が見られた。基本層序は次のとおりである。

第1層：表土（耕作土）20cm前後、第2層：黒褐色土層（遺物包含層）0～5cm、第3層：黄褐色土層（地山、縄文時代の遺構検出面）

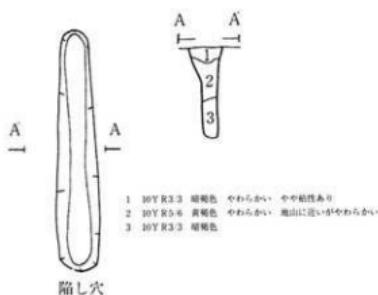
調査の結果、埋土は上部が黒色土であるが、以下50cmにわたり黄褐色の比較的湧りのない、柔らかい土がみられた。最下部は黒色土と黄褐色土が斑点状に混在していて、埋没直後の自然堆積によるものと推測される。

遺構で検出されたものはこの陥し穴1基だけであったが、遺物の出土はなかったものの、ここが縄文時代の狩場であったことが判明した。

なお、ここの隣接地にも遺跡が集中しているが、いずれも同事業の関連の試掘調査では遺構は検出されておらず、開田時に削平を受けたものと思われる。



第12図 八幡堂遺跡位置図



第13図 胆沢町八幡堂遺跡調査区位置図・遺構図

6 担い手育成基盤整備事業真城地区関連調査

館遺跡 (N E37-0010)

所在地：水沢市真城字北野地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成11年5月6日～7日

遺跡は、沖積地の中の微高地に立地している。標高は、37m前後である。

今回の調査は、平成10年12月に試掘調査を実施した結果遺構が発見され、埋蔵文化財の現状保存が困難であると判断されたことから、やむを得ず緊急に記録保存を目的として実施したものである。

現況は、主に水田で、今回の調査範囲は畑であった。

調査面積は、約50m²、基本層序は、以下の通り。I層：表土（耕作土）30cm、II層：黒褐色土（削平されて消失している部分有り）10cm、III層：にぶい黄褐色土（削平されて消失している部分有り）10cm、IV層：黄褐色土（地山、遺構検出面）層厚不明。

検出された遺構は、竪穴状遺構1基と柱穴群である。いずれも調査範囲の中央で発見された。

竪穴状遺構は、床面が平らで竪穴住居跡によく似るが、規模がずっと小さく、柱穴やカマド等の施設を持たない遺構である。規模は2.2×2m程度で、平面形は丸みを帯びた不正の六角形である。深さ約25cm。埋土は、II層によく似た土で、炭化物を含むものである。遺物は出土しておらず、時期の特定は難しい。

柱穴群は、直径20cm程度の柱穴状土坑が60基ほど検出されたもので、一部方形を描くように並び、建物跡の可能性もあるが、はっきりしない。埋土は、竪穴状遺構と同じである。一つの柱穴状土坑から平安時代の土器片が出土しているが（第16図1）、後世に紛れ込んだ可能性もあり、時期の特定は難しい。

出土遺物は、平安時代の土器片のみである（第16図1～4）。2は須恵器坏の破片、3は土師器で、摩耗して不明だが壺の破片か。4も土師器で、ロクロ成形による壺の破片である。

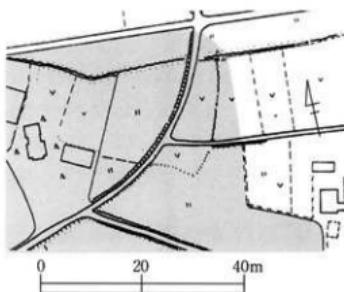
今回発見された遺構の時期は、出土遺物、埋土などから判断すると、平安時代～中世の可能性が高い。

本遺跡は、本ほ場整備事業に先だって行われた分布調査で、從来の、金田Ⅱ、館Ⅰ、館Ⅱ、畠田Ⅰ、畠田Ⅱ遺跡を統合したものである。これまで、土師器、須恵器、陶器、土壙、複郭、平場などが発見されており、古代（平安）・中世の集落跡と考えられている。今回の調査でも、これを裏付けるような結果が得られた。

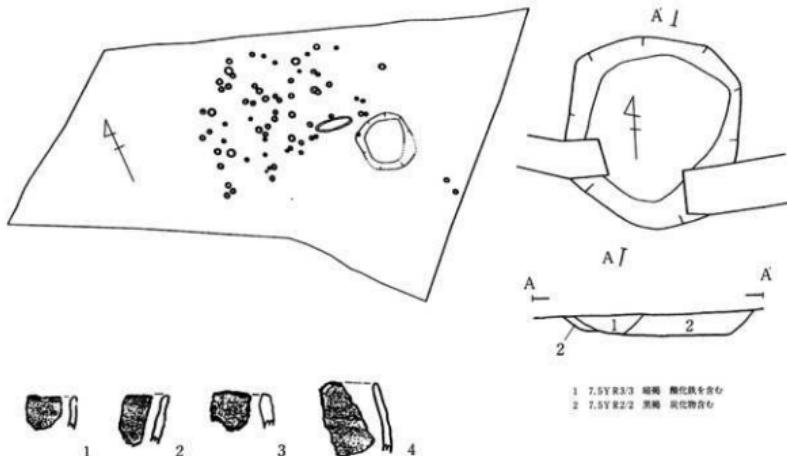
本遺跡の周辺では、ほ場整備などに伴って調査された遺跡が比較的多く見られ、特に約500m北側の北野Ⅳ遺跡では、平安時代の集落跡が検出されている（岩手県埋蔵文化財センター 1998、1999）。県営住宅建て替えに伴って6,100m²調査されたが、地形の変更を大きく受けしており、保存状況はあまり良くなかったようである。それでも、竪穴住居跡や井戸跡が発見され、また今回調査したとの同様の竪穴状遺構、柱穴群が発見されており、本遺跡を理解するのに大いに参考になる。



第14図 館遺跡位置図



第15図 水沢市館遺跡調査区位置図



第16図 水沢市館遺跡遺構図・出土遺物

参考文献

- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998『北野N遺跡発掘調査報告書』(第272集)
1999『北野N遺跡発掘調査報告書』(第298集)

7 一般農道整備事業江刈中部地区関連調査

品井沢遺跡 (K F 03-0363)

所在地：岩手郡葛巻町江刈第14地割

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成11年7月6日～15日（8日間）

遺跡は、馬淵川支流の品井沢左岸、南向きの緩斜面に立地している。標高は、512m前後を測る。

今回の調査は、農道敷設に係って平成10年7月に試掘調査を実施した結果遺構が発見され、埋蔵文化財の現状保存が困難であると判断されたことから、やむを得ず緊急に記録保存を目的として実施したものである。

現況は、主に牧草地である。調査範囲全体、草地造成の際に大きく削平されていた。調査面積は、約450m²だが、遺構、遺物は、斜面上半の約100m²から発見された。

基本層序は、以下の通り。I層：表土（草地造成の際動かされた土）25cm、II層：褐色土（地山、崖錐性堆積物、遺構検出面）層厚不明。II層は、所々上面に中振火山灰が堆積している。

検出された遺構は、堅穴住居跡複数棟、土坑5基である。

堅穴住居跡は、削平されており、柱穴状の土坑しか確認できなかったが、一部柱穴状土坑の底面がグライ化していることや、炉跡の残骸と思われる焼土ブロックがあちこちに見られたことから、単なる柱穴群ではなく、ここに堅穴住居跡があった可能性が高い。さらに、その数と並びから、住居跡は1棟だけではなく複数あったものと思われるが、正確にはわからなかった。柱穴から、縄文後期前葉土器片が出土している（第18図1、5）。

土坑1は、0.9×0.5m程度の隅丸長方形で、深さ約17cm、直径20cm、深さ10cmほどの小穴を持つ（第18図右上隅全体図の左下から3番目）。土坑2は、1.4×0.9m程度の長楕円形で、深さ約45cm。上面から多くの土器が出土した（第18図中段左）。

土坑3は、1×0.65m程度の不整楕円形で、深さ約33cm（第18図右上隅全体図の左下から2番目）。土坑4は、1.2×0.6m程度の楕円形で、深さ約40cm（第18図中段中央）。

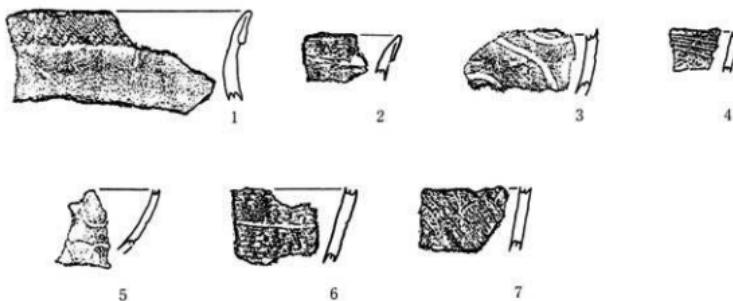
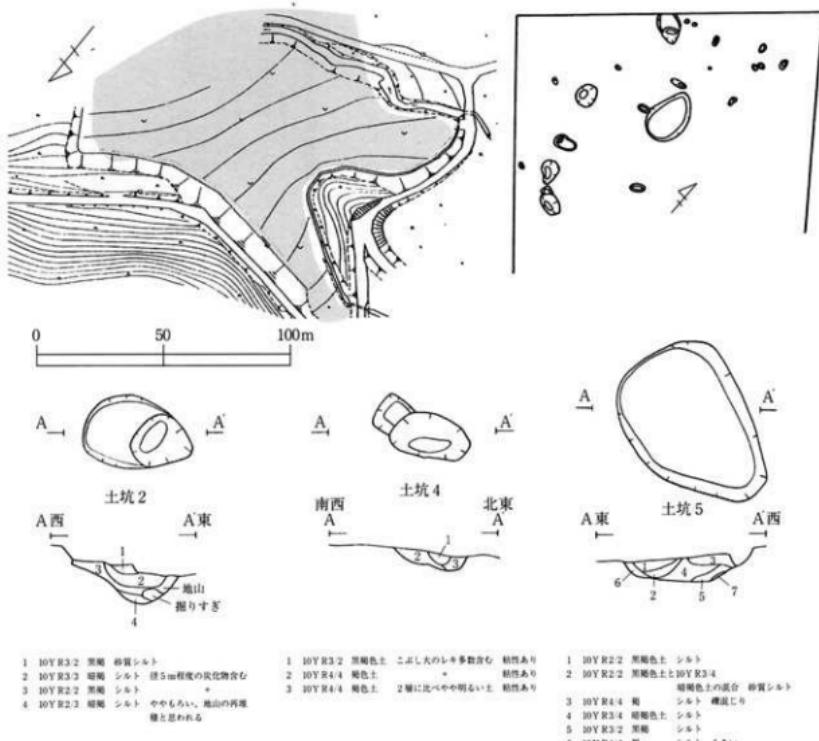
土坑5は、2.2×1.5m程度の隅丸長方形で、深さ約20cmの比較的大型のものである（第18図中段右）。埋土が明らかに人為的に埋め戻したことやその形から、墓穴の可能性が高い。底面直上に黒土が斜めに堆積し、焼土ブロックが含まれていた。遺物は、縄文後期前葉土器片が出土している（第18図3、6）。

遺物は、縄文土器が出土している（第18図）。1と5は、堅穴住居跡と推定された柱穴から出土。3と6は、土坑5から。4は、遺構外II層から。2は堆土、7は不明。3には、内外面にススが付着している。4は磨消縄文（L R）が施文されている。6は壺らしい。これらは、いずれも後期前葉の土器である（螢沢式）。4は若干新しく大湯式まで下るかもしれない。

以上から、今回の調査区は、縄文時代後期前葉の集落跡であったことがわかった。



第17図 品井沢遺跡位置図



第18図 葛巻町品井沢遺跡調査区位置図・遺構図・出土遺物

8 地方特定道路整備事業関連調査

西平Ⅱ遺跡（N E87-1165）

所在地：一関市舞川字下谷起

事業者：一関地方振興局土木部

調査期日：平成11年6月28日～7月2日

北上川と磐井川の合流点の北東に位置し、北上川左岸に形成された沖積地と標高116mの丘陵裾部の結節点に遺跡は立地する。遺跡の東側を丘陵から流れ出る沢が通っている。標高は20m前後を測り、現況は水田（休耕田）である。北上川は、本遺跡の南東側の一関市狐桜寺地区で川幅を著しく狭くしており、本遺跡の立地は、北上川が氾濫した際には頻繁に水のかぶりやすい地点である。

基本層序は1層で暗褐色土の表土があり、2層、3層とやはり暗褐色土が堆積している。ただし、3層の暗褐色土は、2層より若干色調は暗く、上層には炭化物を少量含んでいる様子が窺える。そして、3層の下に、4層として礫層が確認されている。

今回の発掘調査で検出された遺構は、土坑5基と溝1条である。

土坑1は、形状は隅丸方形を呈し、短軸1.7m、長軸2m以上を測る。なお、長軸については遺構が調査区外へ延びることから、実際の長軸は2m以上を測るものと思われる。遺構の埋土は、粘土層と炭化物混合層が交互に堆積している様子が窺えた。埋土中より縄文時代後期の土器が検出されており、遺構の年代もこの頃のものと考えられる。

土坑2は直径130cm前後を測り、平面の形状は円形を呈する。土坑3は長軸110cm前後、短軸80cm前後を測り、平面の形状は北西～南東方向に長軸を持つ楕円形を呈する。土坑4は直径90cm前後を測り、平面の形状は円形を呈する。上記3基の土坑2～4は、埋土上層には縄文土器が認められるものの、下層から近現代の陶磁器片が確認されている。以上のことから、これらの遺構の年代は近現代のものであり、確認された縄文土器は、流れ込みによるものであると考えられる。

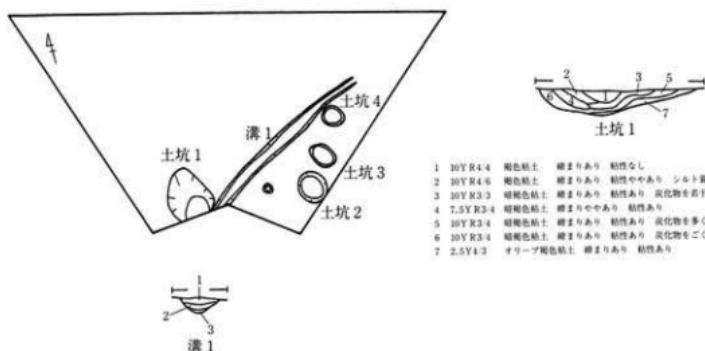
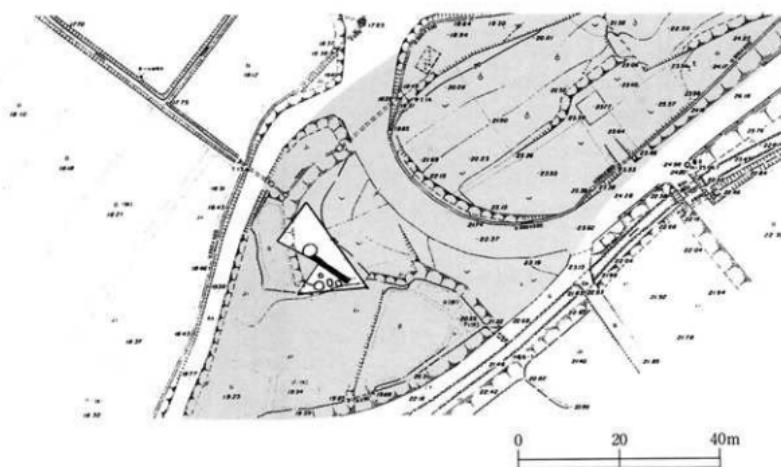
柱穴状土坑（？）は1基確認されている。直径は40cm前後を測り、平面の形状は円形を呈する。埋土中に遺物が含まれていないため、具体的な遺構の年代は不明である。

溝は、幅は50cm前後を測る。方向は東西を若干北にずらし、調査区外へ延びている。土坑1を切った状況で遺構は確認されている。縄文土器のはか、土師器も出土していることから、この溝は古代の遺構であると推定される。

このように、本遺跡は、少なくとも縄文時代及び古代の複合遺跡であることが明らかとなった。

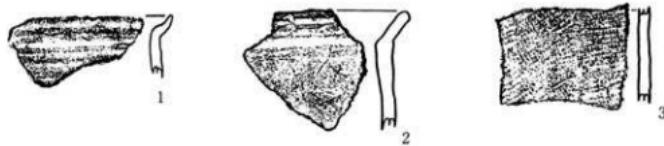


第19図 西平Ⅱ遺跡位置図



- 1 10Y R3-3 剛褐色粘土 硬まりあり 黏性あり
 2 10Y R3-4 剛褐色粘土 硬まりあり 黏性ややあり 氯化物を若干含む
 3 10Y R3-4 剛褐色粘土 硬まりあり 黏性あり 氯化物を若干含む

1 2.5T R4-4	剛褐色粘土	硬まりあり 黏性なし
2 10Y R4-5	剛褐色粘土	硬まりあり 黏性ややあり シルト質灰褐色粘土を若干含む
3 10Y R2-3	剛褐色粘土	硬まりあり 黏性あり 氯化物を若干含む
4 7.5T R3-4	剛褐色粘土	硬まりややあり 黏性あり
5 10Y R3-4	剛褐色粘土	硬まりあり 黏性あり 氯化物を多く含む
6 10Y R3-4	剛褐色粘土	硬まりあり 黏性あり 氯化物をごく少含む
7 2.5T 4-3	オーラープラ色粘土	硬まりあり 黏性あり



第20図 一関市西平Ⅱ遺跡調査区位置図・遺構図・出土遺物

9 市町村整備代行事業関連調査

小鳥沢C遺跡（KE87-2007）

所在地：盛岡市上田字松屋敷小鳥沢

事業者：盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成11年12月9日～17日

平成12年3月15日～17日

四十四田ダムそばの丘陵東側斜面に位置する。標高は175m前後を測り、現況は荒れ地である。

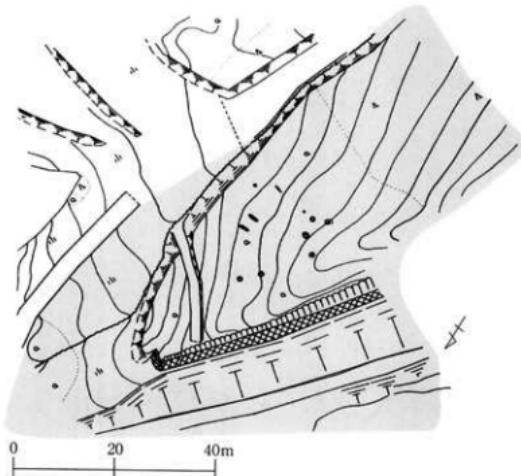
調査の結果、遺構として、土坑8基と陥し穴3基が検出された。

土坑は、P4、P6～P9、P11については、直径90cmから1m程度を測り、平面形状は円形もしくは梢円形を、断面はビーカー状を呈する。P10については、開口部の直径は1m程度、最深部の直径は1.5m程度を測り、形状はフラスコ状を呈する。これらの土坑の用途は、陥し穴若しくは貯蔵穴のものであったと考えられる。P5については、直径50cm前後、深さ10cm前後、形状は浅い皿状を呈する。用途は上記P4、P6～P9、P11と同様であったと思われるが、表土掘削の際に、多くを削り取られ、わずかに残った可能性が高いものと思われる。

陥し穴（P1～P3）については、長軸1.6mから2.3m、短軸40cmから60cm、深さ60cm前後を測る。形状は溝状を呈し、東側（斜面の下部側）が抉られるような断面を呈する。

なお、P4（土坑）とP3（陥し穴）については、埋土が他の土坑・陥し穴とは様相を異にすることから、他の遺構とは時期が若干ずれることが考えられる。また、P4については、遺構確認面も黒褐色土中であったことから、沢が埋没した後に形成された遺構の可能性も考えられる。

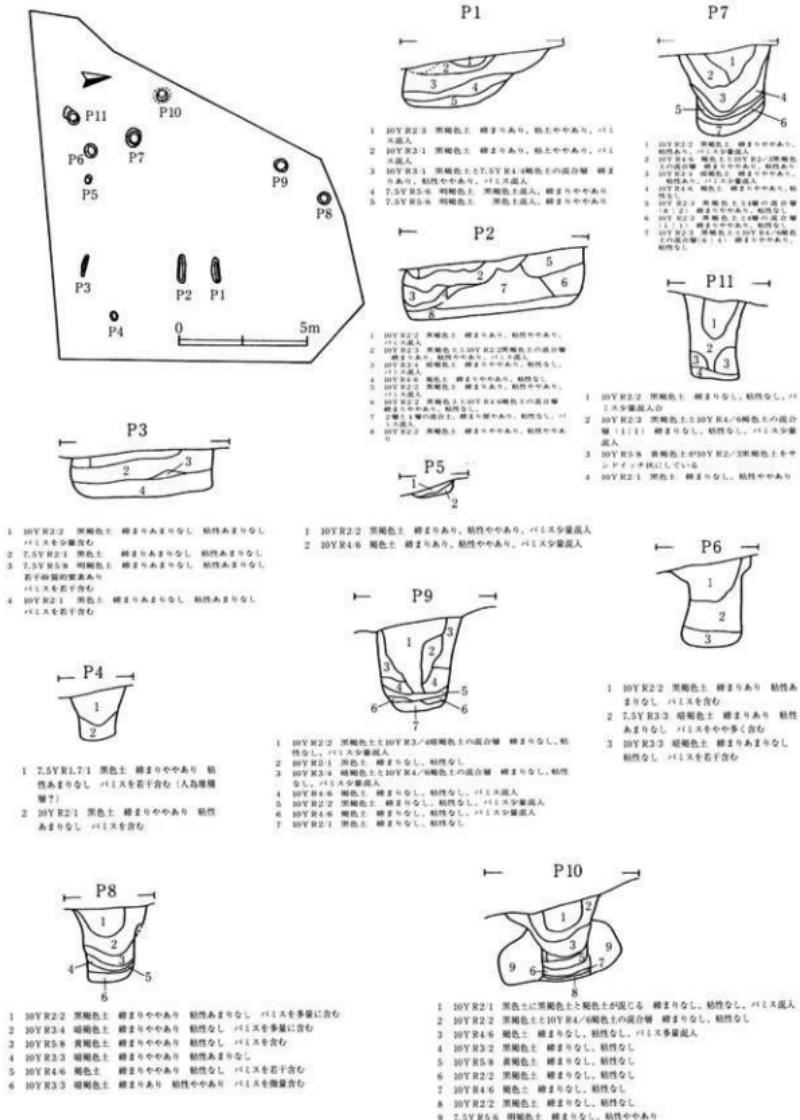
いずれの遺構からも遺物は検出されておらず、遺構の具体的な年代は不明であるが、陥し穴の形状などから、縄文時代の遺構と推定される。



第22図 盛岡市小鳥沢C遺跡調査区位置図



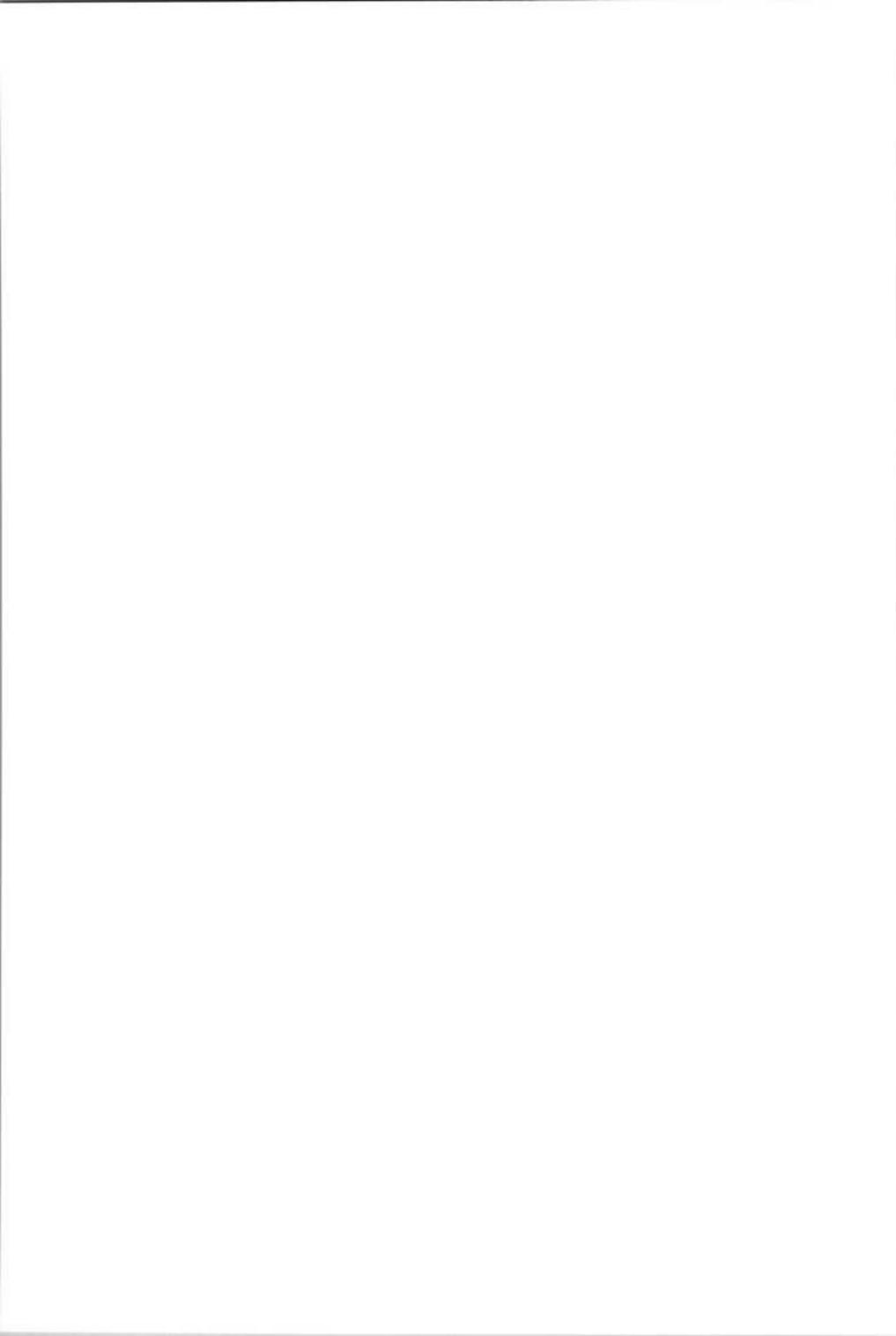
第21図 小鳥沢C遺跡位置図



第23図 盛岡市小鳥沢C遺跡遺構図



II 試掘調査



1 広域農道整備事業東磐井地区関連調査

船丸館跡 (N F81-2212)

所在地：東磐井郡千厩町奥玉字船丸地内

事業者；千經地方振興局千經農村整備事務所

調査期日：平成11年12月1日

遺跡は千厩川左岸の河岸段丘上に立地する。北側の段丘崖を利用し、南北方向に堀を掘り、郭をつくり出している。館の本体である主郭は、調査区西側の水田及び住宅となっている平場であると考えられるが、ここにはかつて郭を取り囲む形で土塁がつくられていたとのことがある。

今回は、堀及び副郭の一部が農道建設にかかるため試掘調査を実施した。なお、現況で堀や郭、小さな土塁が確認できるため、トレンチは平坦部に最小限設定し、重機による遺構検出を行った。

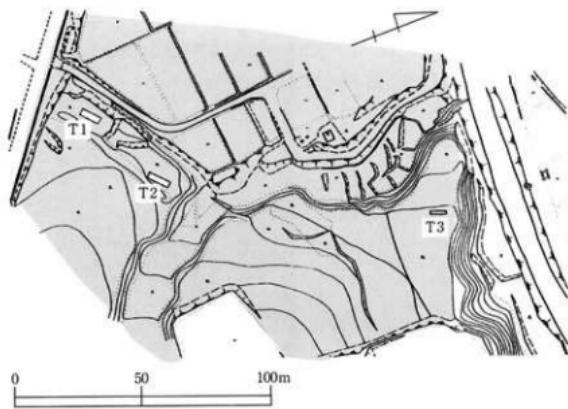
小さな堀を挟んで主郭の南側に位置する郭の平場に設定したT1・T2においては、遺構・遺物は確認できなかったが、第2層直下に整地層が見られ、人為的に作り出された平坦部であることが判明した。また、この2本のトレンチの東側に平行する形で、わずかではあるが現況で土壌状の高まりも確認できた。

大規模な堀を挟んで主郭の東側に位置する郭については、段丘崖縁部の平場にT3を設定したが、この区域はいくぶん削平を受けており、表土直下に地山が見られた。調査の結果、25cm前後の柱穴2基が検出された。遺物については出土しなかった。

遺跡内の農道建設部分については本調査を実施することとしたが、郭の平場については縁辺部がかかり、範囲もそれほど広くないため、館の構造や郭の機能を想定することは難しいかもしれない。（平成12年度本調査予定）



第24図 船丸館跡位置図



第25図 千厩町船丸館跡調査区位置図

2 一般農道整備事業大森跡地区関連調査

大馬場遺跡 (NF60-2318)

所在地：東磐井郡大東町沼沢大森跡地内

事業者：千葉県地方振興局千葉農村整備事務所

調査期日：平成11年9月21日

遺跡は、境の沢に面した南向きの緩斜面に立地している。標高145m前後。以前、須恵器、縄文土器が出土し、分布調査では、平安時代の窯跡、縄文時代の散布地となっている。

今回の調査は、一般農道の改良に伴うものであったが（拡幅等）、民家より東側の部分は、畑の作付けがまだ行われていたため調査できなかった。そこで、民家より西側の部分に限って調査を行った。

調査では、 $2 \times 4\text{m}$ 程度のトレンチを5ヶ所入れたが、いずれのトレンチからも遺構、遺物は発見されなかつた。

基本層序は、以下の通りである。T1～2、T5では、Ⅰ層：表土（耕作土）20～30cm、Ⅱ層：黄褐色土（地山、礫含む）層厚不明。T3、4の現況が水田の部分では、Ⅰ層：表土（耕作土、盛土）50cm、Ⅱ層：青灰色土（水田造成時の土と思われ、倒木含む）層厚50cm、Ⅲ層：黄褐色土（地山）層厚不明。

T1、T2では、地山起源の耕作土直下に地山が認められ、牧草地造成の際削平を受けていることがわかつた。

T3、T4の現況は休耕田であった。水田造成の際に元の地形を大幅に改良し、その上に土を盛って水田としていることがわかつた。

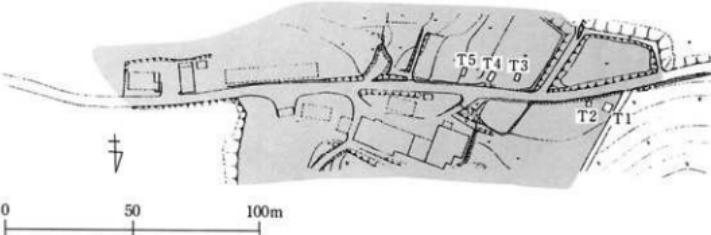
なお、この水田の中央より南側の地点から、水田改修の際に窯跡出土と考えられる須恵器が出土したようである。

T5は、現況は畑であったが、調査の結果西側は水田の続きで、東側のみ畑であったことがわかつた。畑造成の際に削平していたようで、耕作土直下から黄褐色の地山が認められた。

今回の調査では、遺構、遺物とも確認されなかつたが、未調査部分は宅地周辺の畑を中心とした場所であることから、残存状況は良いと推測され、今後埋蔵文化財が確認される可能性もある。



第26図 大馬場遺跡位置図



第27図 大東町大馬場遺跡調査区位置図

3 ふるさと農道緊急整備事業要害地区関連調査

清田台遺跡 (N F91-1291)

所在地：東磐井郡千厩町清田台地内

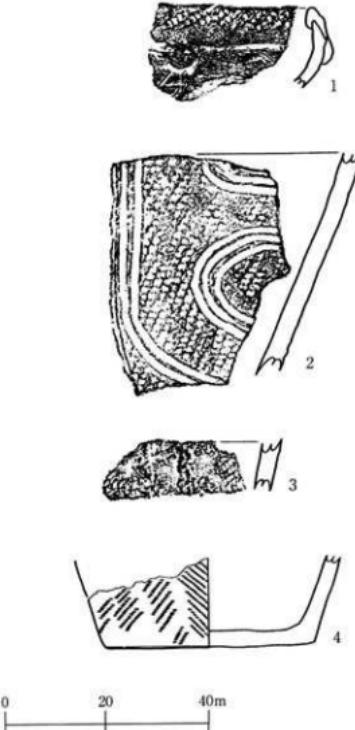
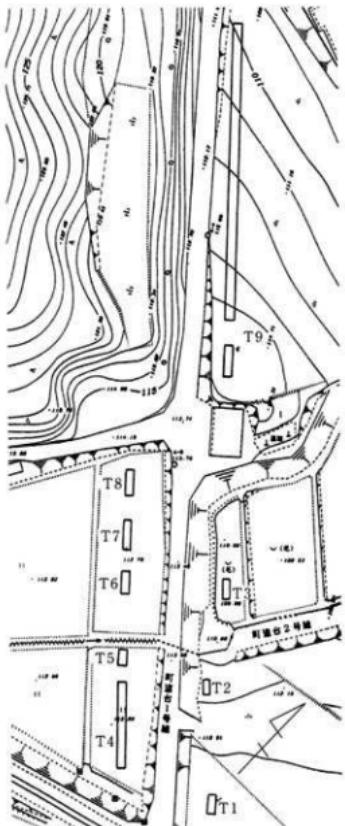
事業者：千厩地方振興局千厩農村整備事務所

調査期日：平成11年3月16日、5月6～7日(3日間)

遺跡は、JR大船渡線千厩駅の東北東約1.3mの位置にあり、千厩川の支流の金田川が形成した沖積地に南側から張り出した丘陵上に立地している。標高110m前後の丘陵裾に広がる緩やかな北東緩斜面に位置しており、小規模な沢によって複雑な地形が形成されている。現況は沢、緩やかな斜面であり、それぞれ谷地田、畠地とし



第28図 清田台遺跡位置図



第29図 千厩町清田台遺跡調査区位置図・出土遺物

て利用されている。畠地部分では、多量の縄文土器、石器が表採される。

周辺の遺跡には、鳥喰Ⅰ遺跡、鳥喰Ⅱ遺跡、鳥喰Ⅲ遺跡などの縄文時代の遺跡が比較的多く分布している。桃園遺跡は縄文時代中期の遺跡である。

試掘トレンチは事業予定地内の町道に沿って9カ所設定した。基本層位は次のとおりになる。1層：表土（耕作土）厚さ20cm、2層：暗褐色土層（遺物包含層もしくは遺構埋土）、小礫が入る。3層：黄褐色土層（地山）、4層：青灰色粘質土層（やや泥炭化、遺物を含む）。

その結果、トレンチ1では、遺構埋土と考えられる土層が40cm以上の厚さで堆積しているのが確認された。トレンチ2では、焼土、石組が確認されたことから、住居跡と考えられた。トレンチ3では、土器片や木片が出土した。トレンチ4、5では、遺物包含層と遺構が確認された。トレンチ6、7は、上部に砂の盛土があり、その下から暗灰色土層が確認された。トレンチ9では草地造成時にかなりの削平を受けており、遺構、遺物とも確認できなかった。

出土遺物には縄文中期中葉の体部破片、底部破片等がある。1は断面が緩く屈曲する口縁部破片で折り返し口縁になっており、縄文（RL）が施文されている。口縁部の下にはやや大型のボタン状貼付がされている。この粘土粒貼付の下は無文となっている。器種は深鉢と考えられる。内面調整はミガキである。大木7a式のものと思われる。2は深鉢の体部破片で縄文（LRL）施文後、沈線文で弧状のモチーフが描かれている。内面調整はミガキである。縄文中期大木8a式に属するものと考えられる。3は体部破片で、縄文（LR）が施文されている。内面調整はミガキとなっている。大木7b式と思われる。4は底部破片で、縄文（RL、L R）が施文されている。縄文は斜行するように施文されている。内面調整は荒いミガキである。底面には木葉痕、網代痕はみられない。

出土遺物、遺構の内容から、縄文中期を中心とする大規模な集落であることが予想され、遺構の重複も予想される。試掘トレンチ調査の結果からも、遺構密度がかなり高いことが推定され、遺物の出土量も豊富な集落であると考えられる。遺跡の立地する丘陵の東側に接する水田には本来、水場遺構や、有機質の遺物を含む遺物包含層、泥炭層が存在していた可能性もある。

遺跡範囲は鉄道・国道を越えて、さらに南側にも広がることが過去の調査により確認されており、この地域の拠点集落であった可能性が高い。

4 林業地域総合整備事業林道草倉線開設工事関連調査

平清水館跡 (MF83-0053)

所在地：遠野市小友町藤沢地内

事業者：遠野地方振興局林務部

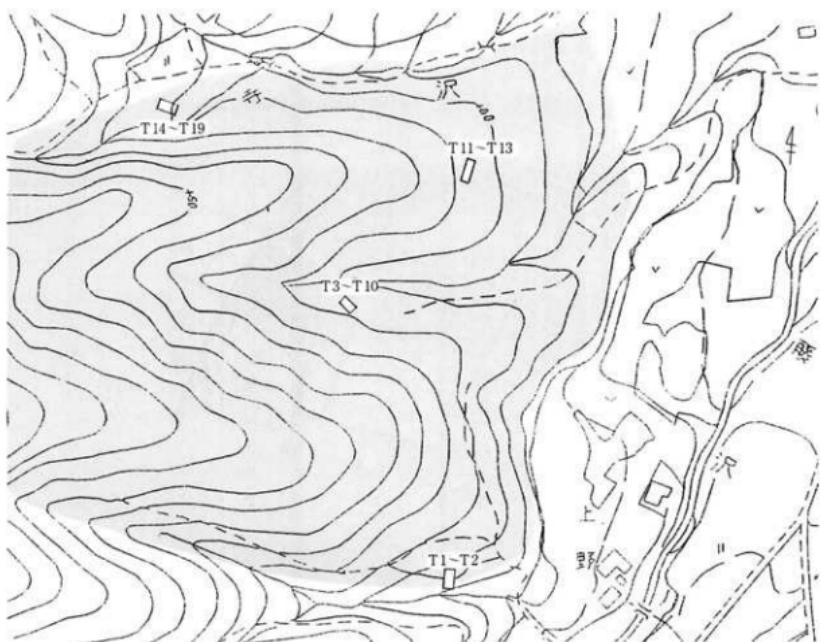
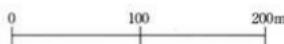
調査期日：平成11年12月15日～17日

遺跡は、大船渡街道を望む丘陵地の端に立地する。重機が入れず、人力で調査した。

調査では、平坦地および緩斜面にトレンチを19ヶ所入れた。その結果、明確な遺構は検出されず、遺物も出土しなかったが、T11およびその周囲から建物の礎石と思われる石が4点出土した。木根等で動いているようで、建物の構成はわからなかった。また、T13では、落ち葉の下に地山が検出され、人為的な地形の改変を受けていることは確実である。周辺を踏査した結果、この部分は狭小な階段状の平場で、上下に同じような平場が数段あり、一番上には40×15m程度の広い平場（郭？）があることがわかった。（平成13年度本発掘調査予定）



第30図 平清水館跡位置図



第31図 遠野市平清水館跡調査区位置図

5 大区画は塙整備事業長岡地区

沼田遺跡（L E57-2272）

所在地：紫波郡紫波町長岡地内

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成10年10月19日～30日

平成11年12月8日

遺跡は北上川左岸に形成された沖積平野に立地し、標高は約97mを測る。北上川との比高は4～5m前後である。遺跡の南西約4.25kmには日詰七久保遺跡が、西側約1.8kmには稻村遺跡が所在する。

今回の試掘調査では、30箇所にトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、概ね遺跡の中央やや西寄りの最も高い部分を中心に遺構・遺物が確認された。

T8では、古代と思われる堅穴住居跡が検出されている。

T18では、遺構の検出はなかったが遺物の散布状況などから遺構の存在する可能性は高いと思われる。

T20・T21では、古代の堅穴住居跡が検出されている。

T12では、古代と思われる堅穴住居跡を検出した。状況から推定して、T12周辺付近が最も遺構の密集する部分と思われる。

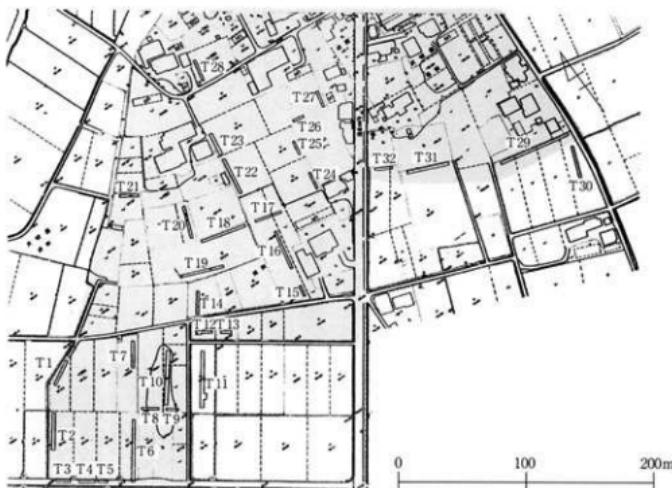
T1～T7・T23～T32では、遺構・遺物ともに確認できなかった。

本遺跡の性格としては、奈良～平安時代の大規模な集落跡と推定され、この時代の流れを理解する上で重要な遺跡になると思われる。

なお、本遺跡については、工法協議中であったことから平成10年度の報告書に掲載できなかったため、本報告書に掲載した。



第32図 沼田遺跡位置図



第33図 紫波町沼田遺跡調査区位置図

6 は場整備事業（担い手育成区画整理型）関連調査

相田遺跡（ME 76-2192）

所在地；北上市稻瀬町下門岡地内

事業者；北上地方振興局北上農村整備事務所

調査日；平成11年12月9日

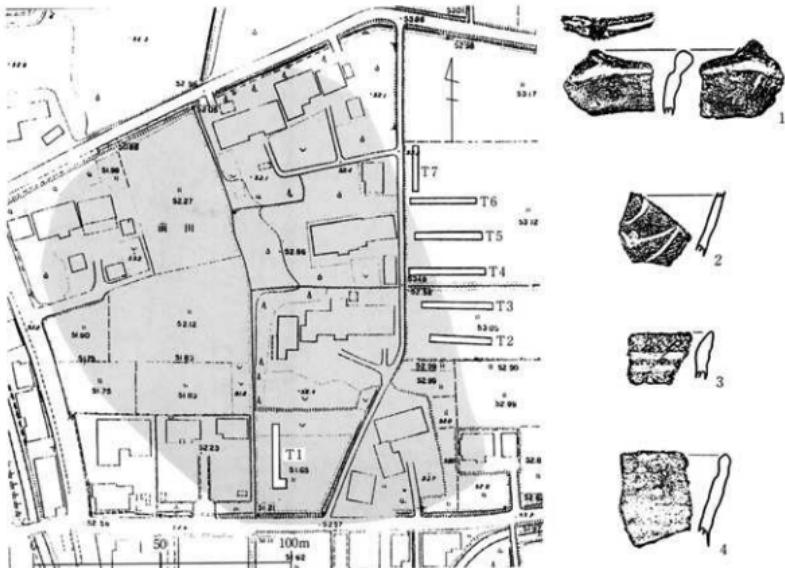
遺跡は北上川左岸の低位の河岸段丘上に立地し、標高は52m前後である。現況は主として宅地および畠地である。

今回、は場整備に関連して、試掘調査を実施した。試掘トレチは事業予定地内に7カ所設定した。基本層序は次のとおりになる。1層（耕作土） 厚さ15cm、2層は暗褐色土層（遺物包含層） 厚さ10cm、上部が削平されている箇所がある。3層は黄褐色土層（遺構検出面）で厚さ10cm前後、4層は暗青灰色土層でグライ化している。トレチ1では、時期不明の土坑1基、2では遺物包含層、3では縄文時代の土坑3基が発見され、小判形を呈しており、埋土から縄文時代晩期の土器が出土している。4から6では、1から3と同様の土層が検出されているが遺構、遺物は発見されなかった。

図示した遺物はいずれも破片資料であるが、1は口縁部で、壺と考えられる。2は磨消縄文の体部破片で、3は口縁部破片である。



第34図 相田遺跡位置図



第35図 北上市相田遺跡調査区位置図・出土遺物

7 ほ場整備事業奥玉地区関連調査

奥玉北沢遺跡（N F 81-2153）

花貫遺跡 (N F81-2173)

女聖遺跡 (N F 81-2185)

花貫 I 遺跡 (N F 81-2193)

所在地：東磐井郡千厩町奥玉

事業者；千葉地方振興局千葉農村整備事務所

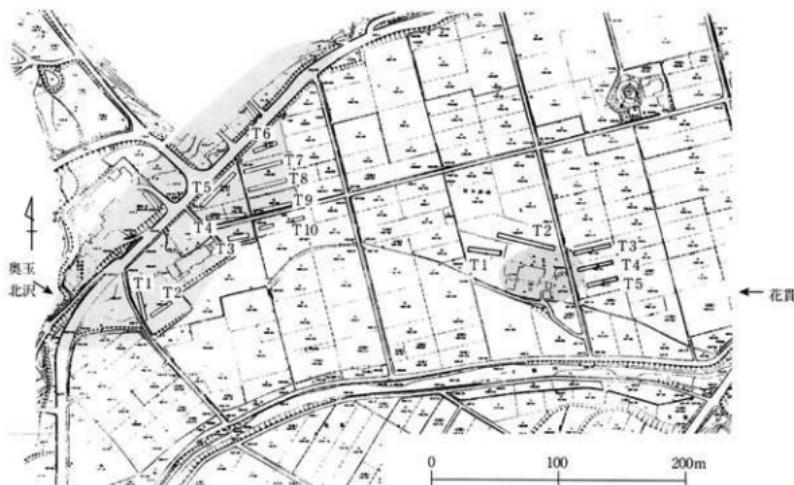
調査期日：平成11年11月1日～9日（5日間）

奥玉北沢遺跡は、千厩川右岸の丘陵裾に位置する。この付近で、千厩川は大きく蛇行しながら沖積地を形成する。遺跡付近は平坦な地形となることから、段丘地形のようにも見受けられるが、以前の開田等により、大幅な地形改変が行われていると予想される。

本遺跡では、トレンチを10本設定した。その結果、T1は表土下に砂層が認められたことから、遺跡形成がなされない範囲と推定した。T2では、旧表土であり一帯で堆積していたものの、黒褐色土、地山と見られる黄褐色土、T4は、基本的に南東に傾斜する地山が広く確認され、黒褐色土の間で、縄文土器及び土師器の細片が出た。地山が削平され、下層のグライ化した土壤が観察された。グライ化した暗褐色砂質土が厚く堆積し、その下層で青灰色粘土の二次堆積層も観察されたが、本来の遺物包含層



第36図 県営ほ場整備事業奥玉地区関連
遺跡位置図



第37図 千厩町奥玉北沢・花貫遺跡調査区位置図

ると判断された。

花貫遺跡は、千厩川右岸の自然堤防上の微高地に位置する。現況は宅地及び水田である。

本遺跡では、トレンチを5本設定した。その結果、T1 撥乱土層中から縄文土器片が1片出土した。T2では、遺構確認面が若干削平された状況下で、疊混じり黄褐色粘土層が所在する。T3～T5は、東側に向かって傾斜している状況で、低い部分にはグライ化した粘土質の土層が確認できた。遺構等は検出されなかった。

女聖遺跡は、千厩川に面した丘陵地の西向きの緩斜面上に位置する。標高は110m前後を測り、現況は水田及び畑地である。

本遺跡では、T1～T20のトレンチを設定した。その結果、T11で柱穴群が検出された。また、T8より柱穴状土坑が検出された。いずれも遺構の時期は遺物が出土していないために不明であるが、中世もしくは近世のものと考えられる。また、宅地に沿った地域（T6、T9など）には、青灰色粘土層が検出されていること、現地形の状況等から、沢が入っていたものと推測される。さらに、宅地より千厩町中心部よりのT1、T2周辺は、土層堆積などから、少なくとも1回は整地しているものと考えられる。遺物は全トレンチで確認されなかった。

花貫I遺跡は、千厩川左岸の沖積低地に位置する。西側は南側より千厩川に向かって小規模な谷を形成している。

本遺跡では、T1～T31のトレンチを設定した。その結果、T15～T16の範囲で、旧地形が比較的良好に残存し、黄褐色の地山上で柱穴状の遺構が複数確認されている。円形の掘方を伴う小規模のもので、近世末～近代頃の陶器が少量出土することから、作業小屋の性格を持つ建物跡の可能性もある。T21では、グラウジ化しているやや深い土層中から、弥生土器片（蓋）と考えられる小片が出土しているが、原位置をとどめているものではない。

その他のトレンチは、基本的に暗青灰色のグラウジ化した土壤が主体であり、遺物も確認されなかつた。



第38図 千厩町女聖・花貫遺跡調査区位置図

8 地方特定道路整備事業関連調査

藏屋敷遺跡 (ME64-0148)

飯島遺跡 (ME64-0156)

所在地：北上市長沼9地割

事業者：北上地方振興局土木部

調査日：平成11年7月21日、11月18日

藏屋敷遺跡は、和賀川左岸の河岸段丘上に立地する。

現況は宅地及び水田であり、標高は85m前後を測る。今回の調査では、市道交差点付近及び東側水田部分に2本のトレンチを設定した。

調査の結果、T1では、表土下に若干の擾乱層が認められたものの、遺物を含む黒色土層が厚く観察され、遺物も出土している。時代は明らかではないが、弥生時代の遺物包含層若しくは竪穴住居跡と考えられる。T2では、厚く盛土層が確認され、その直下はグライ化した粘土層である。このことから、水田を造成する際に1m以上盛土したものであることが判明した。

上述のことから、T2付近の状況は明らかではないが、T1以北の道路改良部分のはほとんどで埋蔵文化財が所在する可能性が高い。

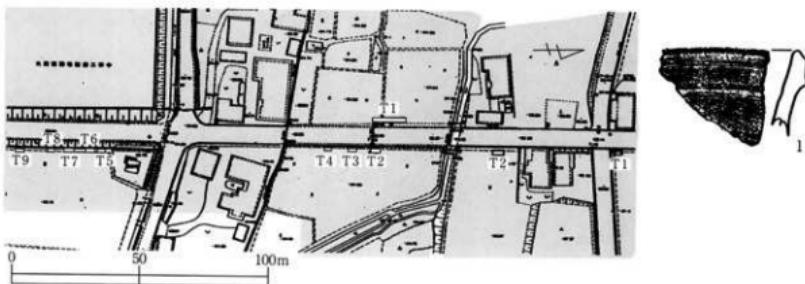
飯島遺跡は、和賀川左岸の沖積地上に位置する。現況は宅地及び水田であり、標高は84m前後を測る。

道路西側には、1本のトレンチを設定した（T1）。その結果、南から北にかけて緩やかに傾斜し後背湿地に下がっていく状況が観察され、旧地形の高まりの部分に遺物包含層が形成されている。北側は湿地となり、遺物もほとんど出土しなくなる。湿地への落ち際では、本来の遺物包含層直下にグライ化した土壤が観察されるが、遺物は一部この層にもぐる形で出土することもある。

道路東側には2m四方のトレンチを3箇所（T2～T4）と幅1.5m、長さ3～4mのトレンチを5本（T5～T9）設定した。その結果、T2～T4では、黒色土中から遺物が出土し、その下層に黄褐色の地山層が確認された。この付近では、住居跡等の遺構が所在することも予想される。T5～T9では、表土直下に基盤層が確認され、遺構・遺物は発見されなかった。このことから、T5～T9の範囲は、水田造成時に大きく削平されていること、基盤層の様子から、和賀川の氾濫源であったことが推定される。（平成12年度本調査予定）



第39図 飯島・蔵屋敷遺跡位置図



第40図 北上市飯島（左側）・蔵屋敷遺跡（右側）調査区位置図・出土遺物

9 畜産経営環境整備事業関連調査

西中沢塚群遺跡（N F91-0094）

所在地：東磐井郡千厩町千厩字西中沢地内

事業者：千厩地方振興局農林部

調査期日：平成11年6月29日～30日（2日間）

遺跡は、千厩川左岸の丘陵尾根頂部及び斜面に位置している。現況は主に畠地であり、調査地の標高は134～136mの緩斜面である。

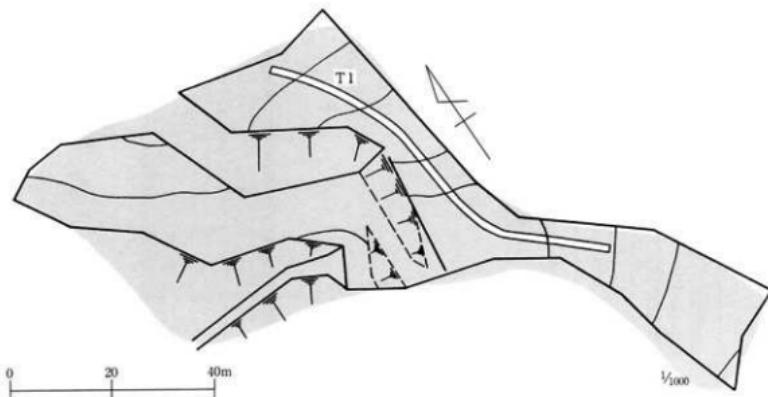
遺跡台帳では、近世塚群の分布が周知されているが、今回の事業予定地約3,000m²内では、すでに過去に草地造成が行われていたこともあり、所在は確認されていない。

大きく2ヶ所に分かれる事業予定地のうち、下段については明らかに地山を深く削り出して草地造成が行われていることから、試掘トレンチは設定しなかった。上段の比較的の削り出しの浅い、平坦な尾根状を呈する部分に試掘トレンチを設定した。

調査の結果、南北両端の地山が高まる部分については、削平が行われ、中央の尾根鞍部に盛土されていることが明らかとなった。中央北寄りの南向き斜面の一部に、方形及び円形の土坑が地山上で検出された。そのうち、円形土坑についてサブトレンチで確認したところ、下方に広がるフラスコ状の形状を呈していることから、縄文時代の貯蔵施設と考えられるいわゆるフラスコ土坑の可能性が高いと判断した。この遺構の埋土は、暗褐色土を基本とする。方形の土坑は、遺構同士の切り合いから、より古いものであり、褐色の土壤が埋土として認められた。



第41図 西中沢塚群遺跡位置図



第42図 千厩町西中沢塚群遺跡調査区位置図

10 県営畜産経営環境整備事業胆江地区関連調査

天ヶ森遺跡 (ME 94-1160)

所在地；胆沢郡金ヶ崎町大字西根字天ヶ森

事業者；水沢地方振興局農政部

調査期日；平成11年9月10日、10月20日

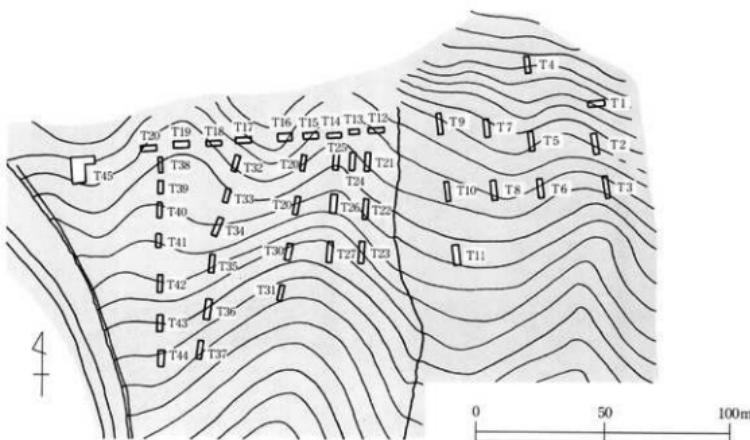
駒ヶ岳から流れ出る黒沢川をはじめとするいくつかの沢・河川によって形成された扇状地の扇端部に位置する。標高は145m～160m前後を測り、現況は牧草地である。今回は、遺跡範囲のうちの事業予定範囲に、斜面に平行に35本、垂直に10本の計45本のトレンチを設定した。なお、垂直に設定したトレンチのうちの1本については、斜面に平行になるように範囲を拡大してトレンチを入れた。土層は厚さ5～20cm前後の黒褐色土（表土）

と暗褐色土が確認され、その下層に地山にあたる黄褐色粘土が確認された。

調査の結果、T43で溝状の遺構らしきものが認められた。そこで、周辺部を拡張し、断面を確認するために、サブトレンチを設定した。その結果、確認面より10cmほど下で湧水が確認されたとともに、覆土中にシルト化した青灰色粘土が含まれている部分があることが判明した。以上のことから、溝状のものは、遺構ではなく、沢などの自然流路であることが判明した。このトレンチからは縄文土器が2点確認されているが、遺構に伴ったものではなく、沢の上流からの流れ込みであると考えられる。上記以外のトレンチでは、遺構・遺物は確認されなかった。



第43図 天ヶ森遺跡位置図



第44図 金ヶ崎町天ヶ森遺跡調査区位置図

11 緊急地方道路整備事業関連調査

山根館跡 (J F 68-2228)

所在地：久慈市山根町字下戸領地内

事業者：久慈地方振興局土木部

調査期日：平成11年12月13日

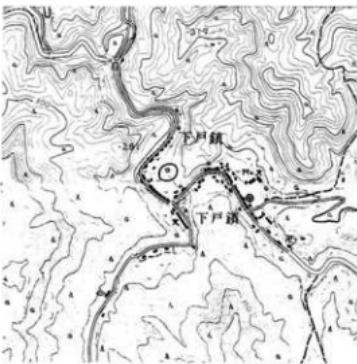
遺跡は丘陵南端部の周囲を流れる長内川によって形成された河岸段丘崖及び丘陵尾根部を利用してつくられた山城である。この地は、近世においては街道の交差する交通の要衝で馬廻所でもあった。このようなこの地の様子は、おそらく中世以前においても同じであったと思われる。

調査は、長内川に沿って走る県道を直線に切り替えるにあたり、館跡の一部に工事がかかるため実施したものである。現況で郭の平場及び西側に2重の空堀と土塁が確認できるため、土塁の西側の緩斜面に該期あるいはその他の時期の遺構が所在するかどうかを確認する目的でトレンチを設定した。

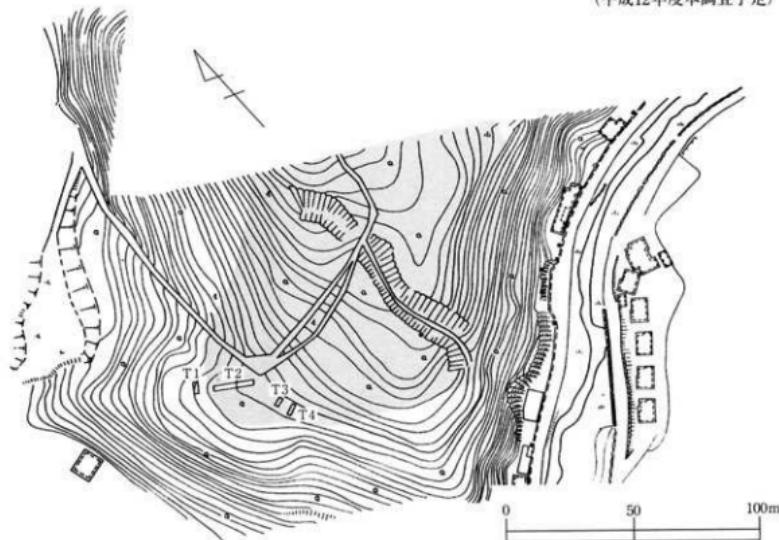
尾根先端部にある平坦部に設定したT1においては、表土直下に人頭大の段丘疊層が見られ、遺跡の範囲外であることが判明した。T2～T4は土塁西側の緩斜面に設定した。調査の結果、T2において柱穴になると思われる遺構を2基検出したが、T3・T4においては遺構は確認されなかった。遺物については、いずれのトレンチからも出土しなかった。

以上の調査結果から、現況で確認できる郭・堀・土塁及び緩斜面の一部を本調査範囲とすることとした。

(平成12年度本調査予定)



第45図 山根館跡位置図



第46図 久慈市山根館跡調査区位置図

12 緊急地方道路整備事業関連調査

ゴッソー遺跡（I F 58-0341）

所在地：九戸郡種市町第18地割字小路合地内

事業者：久慈地方振興局土木部

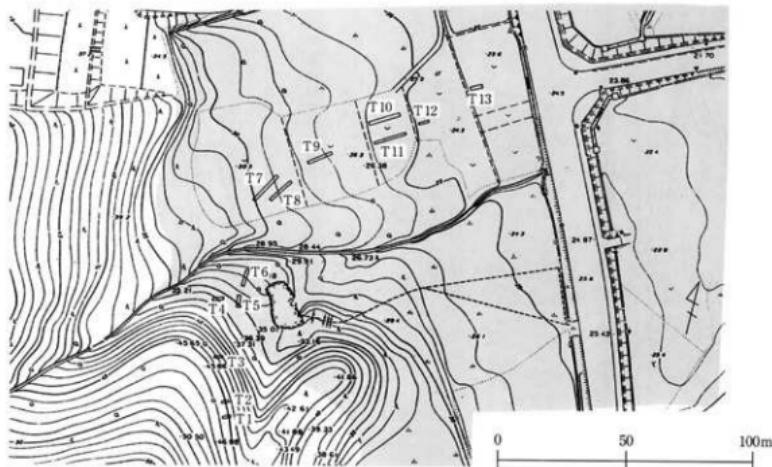
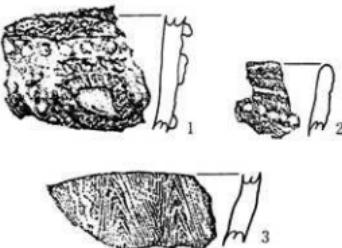
調査期日：平成11年6月18日

遺跡は海岸段丘と東向き丘陵裾部の扇状地上に立地し、標高は20~45mを測る。調査は町道の延長線上に国道45号を挟んで新たに県道を建設するに当たり、新設道路部分に任意にトレンチを設定し実施した。

遺跡の範囲外であるが、地形の様子からT 1~T 3を設定した。いずれのトレンチも黒褐色土の堆積が厚く、崖縁の巨礫が見られ重機で掘り下げるのに困難をきわめた。これらのトレンチからは遺構・遺物ともに確認されなかった。遺跡範囲内にはT 4~T 13までの10本のトレンチを設定した。調査の結果、遺構についてはT 6南端で焼土跡1基、T 8西端で溝状の落ち込み1条、T 13西端で竪穴住居跡1棟が検出された。また、遺物については、T 6~T 12の第1・2層が遺物包含層となっており、多量の繩文土器（前～中期）が出土した。（平成12年度本調査予定）



第47図 ゴッソー遺跡位置図



第48図 種市町ゴッソー遺跡調査区位置図・出土遺物

13 国営馬淵川沿岸農業水利事業関連調査

道白Ⅱ遺跡（J E 79-0383）

所在地：二戸郡一戸町平糠地内

事業者：東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所

調査期日：平成10年10月12日～平成11年4月27日

(4日間)

道白Ⅱ遺跡はJR奥中山駅の東3kmに位置し、南から流入する宇別川左岸の自然堤防状の平坦地に立地している。北・西・東側は宇別川の流路以外は全て標高400m前後の山地に囲まれている。遺跡の標高は377m前後で、現況は畑地及び牧草地である。調査区域は大志田ダムの湛水域にあたる。

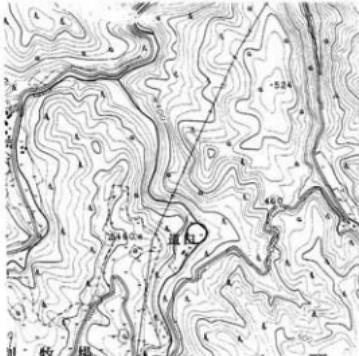
本調査区域は、平成10年度に一部範囲の調査を実施したが、建物等が残っていたため全域の調査ができなかったことから、今年度再度調査を実施した。

調査においては調査区域内に29箇所のトレンチを設定した。そのうちT1～7は平成10年度調査のトレンチである。この付近では縄文土器が2～3片出土したほか、T3の表土直下で焼土が検出されている。

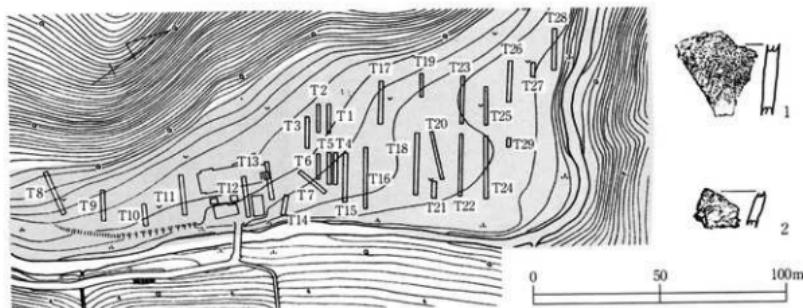
今年度の調査は、本発掘調査の必要な範囲を特定することを目的として実施した。

調査の結果、遺構が確認されたのはT18・24・29で、自然堤防の先端近くに限定された。T8～11では、崖錐性の疊混じり層が厚い部分があり、黒色土中でも遺物等は観察されなかった。T17・19・23・25・26などでは、同様に丘陵裾緩斜面状の堆積状況を示し、特に小道にあたる部分は後背湿地状の沢地形を呈している。T18～29の張出部分では、それぞれのトレンチほぼ中央で地山の高まりが認められるが、この部分では2層の黒色土以下が削平されていることが多く、地山が表土直下で検出される場合もある。T29で縄文時代中期の堅穴住跡が検出された。

掲載遺物はいずれも粗製の深鉢の胸部破片である。（平成12年度本調査予定）



第49図 道白Ⅱ遺跡位置図



第50図 一戸町道白Ⅱ遺跡調査区位置図・出土遺物

14 国営いさわ南部農地整備事業関連調査

下中沢Ⅰ遺跡（NE34-2127）

下中沢Ⅱ遺跡（NE34-2134）

所在地：胆沢郡胆沢町小山地内

事業者：東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所

さわ南部農地整備事業建設所

調査期日：平成11年11月26日～30日（3日間）

両遺跡は東西に隣接しており、胆沢扇状地西南端に近い、なだらかな起伏を繰り返す古い段丘面に位置している。両遺跡とも、中心は集落あるいは宅地となっている。

調査は、は場整備に係るもので、事業予定地の大部分は、水田あるいは畑地である。

下中沢Ⅰ遺跡は、南西向きの緩斜面に立地している。
試掘トレンチを24本設定した（下図左）。

その結果、T6、T16で陥し穴が検出された。西側斜面のT12、13、22、23付近では、水田造成以前に土器片が採取されたらしいが、今回は出土しなかった。T14では、炭化材および小量の焼土集中が認められたが、ごく近年の炭窯跡と判断された。

下中沢Ⅱ遺跡は、下中沢Ⅰ遺跡の西側に隣接し、細入川に面する南向きの緩斜面に立地している。幅約1.5mのトレンチを35ヶ所いた（下図右）。

その結果、分布調査で遺跡としていた範囲より北側のT21、23～26、28、29、34で遺構が発見された。付近で最も標高の高い部分である。

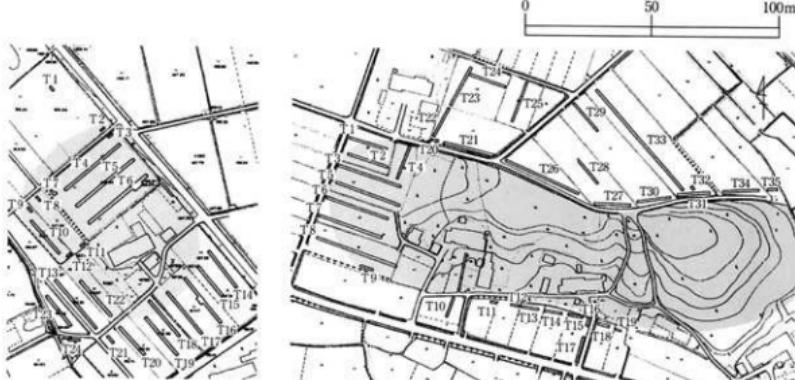
ほとんどが縄文時代のものと思われる溝状の陥し穴状遺構だが、T25、26では直径1m程度の円形の土坑が発見された（T26では溝状の陥し穴も検出）。いずれのトレンチからも遺物は出土していない。今回調査した範囲は、ほとんど全て削平されていたが、T26の北端、T34では若干黒土が残っていた。

両遺跡とも、事業予定地内はごく散漫な狩猟場として性格づけられる。

両遺跡とも、盛土などの工法変更により遺構が保存される予定である。



第51図 下中沢Ⅰ・Ⅱ遺跡位置図



第52図 胆沢町下中沢Ⅰ(左)・Ⅱ(右)遺跡調査区位置図

15 緊急地方道路整備事業関連調査

宮野目方八丁遺跡（ME06-2269）

上ノ山遺跡（ME06-2297）

所在地；花巻市宮野目方八丁、葛字上ノ山

事業者；花巻地方振興局土木部

調査期日；平成11年9月24日

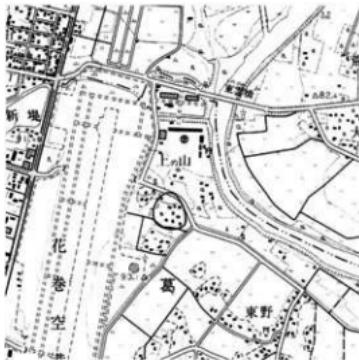
平成12年1月18日～19日

宮野目方八丁遺跡は、北上川右岸の河岸段丘上に位置する。標高は80m前後で、現況は高校・原野・空港である。

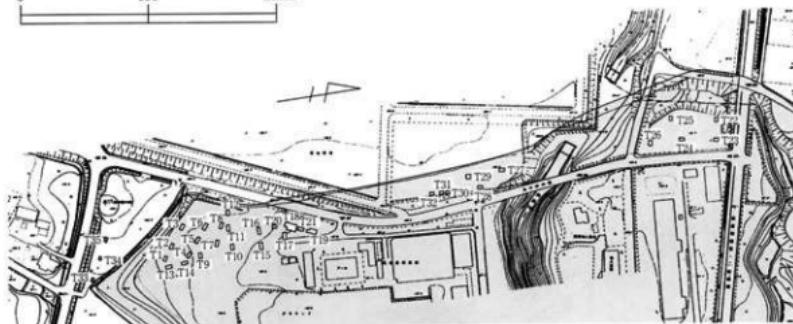
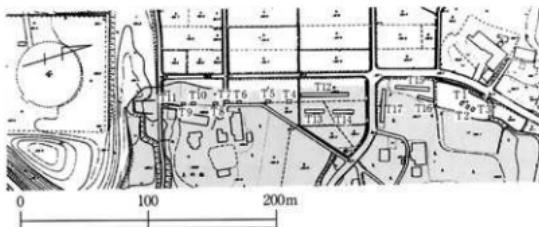
調査の結果、T18、T19で溝状遺構が確認されている。T18の溝は幅4～5mで旧地形の谷とほぼ直交する形であり、自然流路を生かした堀の可能性もある。須恵器が遺物として確認されているものの、流れ込みで入ってきている可能性も考えられる。T19の溝については、幅は30cm前後であるが、埋土中から土師器壺等が多量に出土している。器形等の特徴から平安時代の遺構で、堅穴住居に関連する可能性がある。他の部分では、整地削平後に盛土を行っているようであり、遺構・遺物は確認されていない。（平成13年度本調査予定）

上ノ山遺跡は、北上川右岸の段丘上に位置する。標高は85m前後で、現況は水田・荒れ地である。

調査の結果、いずれのトレンチも湿地を整地後水田としていたと見られ、遺構・遺物は確認されなかった。



第53図 宮野目方八丁遺跡位置図



第54図 花巻市宮野目方八丁遺跡(下)・上ノ山遺跡(上)調査区位置図

16 一般国道4号小鳥谷バイパス関連調査

五月館跡（JF40-0005）

仁昌寺Ⅱ遺跡（JF30-2094）

仁昌寺Ⅲ遺跡（JF30-2061）

所在地：二戸郡一戸町小鳥谷地内

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成11年9月24日～11月22日（5日間）

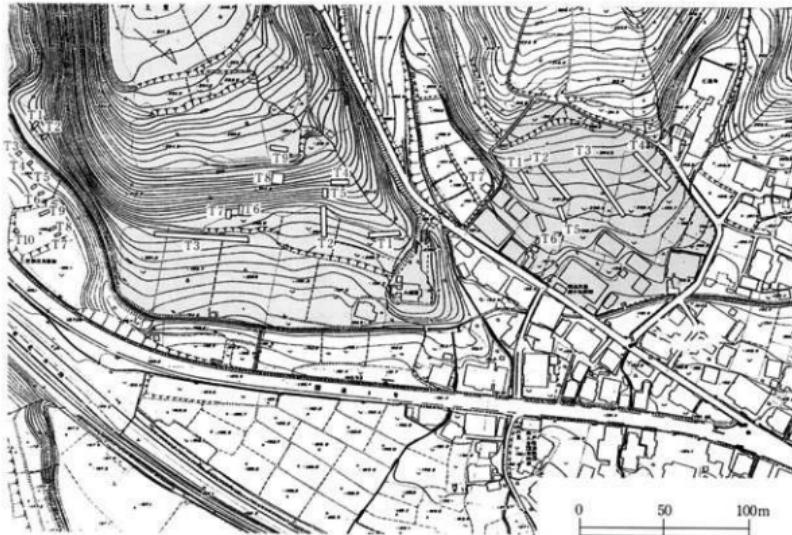
遺跡は小鰍川に向かって張り出す丘陵上及び斜面に形成されている。この城館跡は古記録に伝えられている五月館に比定されている。

調査の結果、幅3m程の帯郭状の平坦地に設定したT5～7では、傾斜して堆積する黒色土中にわずかに地山の黄褐色土の再堆積層が観察されることから、平坦部を形成する際の地山の切り出しと考えられる。T4では、表土直下に薄い粘土層が2層観察される箇所があり、間層として炭化物混じりの層が認められることから、城館形成に伴う整地層と考えられる。T8では、地山は急な傾斜ながらもわずかに段形成され、黒色土によって平坦部を作り出している。地山上で径30cm程度の円形の落ち込みと幅20cm前後の溝状遺構が検出されたことから、柵木列と判断した。

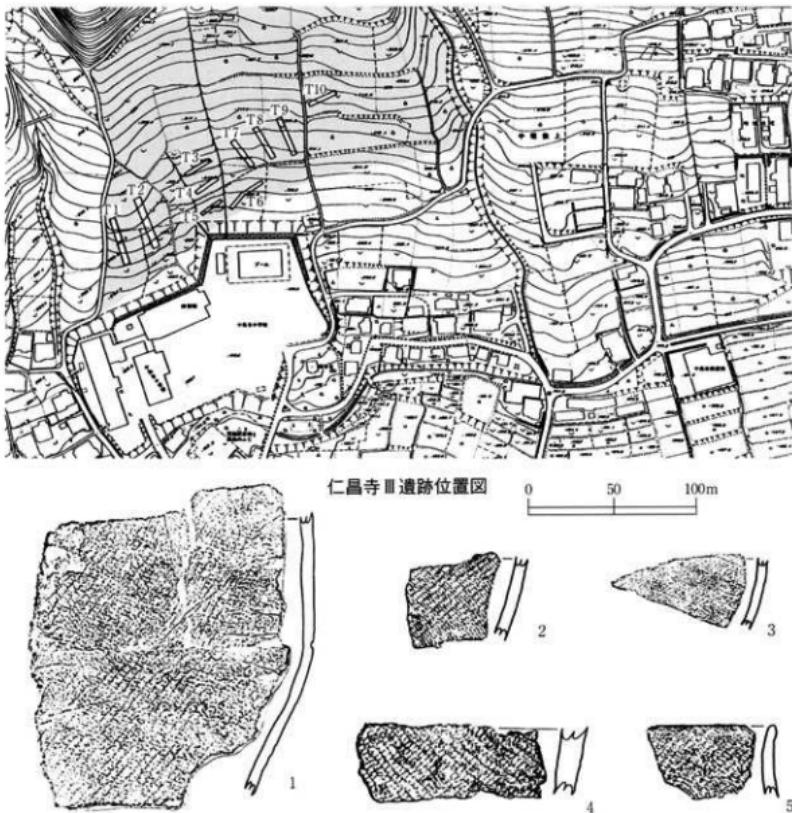
仁昌寺Ⅱ・Ⅲ遺跡は馬淵川と小鰍川の合流点付近に広がる丘陵据緩斜面に位置する。調査の結果、仁昌寺Ⅱ遺跡のT1～4は、いずれも西側山際に近い部分を中心に黒色土の削平がみられ、南東側ほど黒色土が厚い。この黒色土は繩文土器等を含む場合がほとんどである。T1では、黒色土が落ち込む部分が確認され、



第55図 五月館跡・仁昌寺Ⅱ・Ⅲ遺跡位置図



第56図 一戸町五月館跡(左側)・仁昌寺Ⅱ遺跡(右側)調査区位置図



第57図 一戸町五月館跡・仁昌寺Ⅱ・Ⅲ遺跡・出土遺物

人頭大の礫がまとった箇所が認められ遺物も出土することから住居跡の可能性がある。T 3・4では地山上で部分的に遺物を含む黒色土が4箇所確認されており、住居等の造構であると考えられる。T 6では炭化物が混じる径80cm程の暗褐色土の円形の落ち込みがみられ、土坑と考えられる。

仁昌寺Ⅲ遺跡では、尾根状の地形を呈していたと思われる部分に入れたT 1・2では、若干の黒色土の落ち込みが見られたが、明確な造構を形成するものは認められなかった。沢状の地形を呈していたと考えられるT 3～7では地山に礫が含まれるが、黒色土が削平を受けている。T 10で2層中より古代の住居跡が1棟確認されているが、煙道及び柱穴が残るのみで壁は削平されている。T 8・9では擾乱を一部受けながらも黒色土が薄く堆積している。

遺物3は網目状撚糸文が施された深鉢の胴部破片である。他はすべて粗製土器で、5は口縁部である。
(平成12年度本調査予定)

17 胆沢ダム建設関連調査

大清水遺跡（N E 22-2289）

大清水上遺跡（N E 22-2289）

所在地：胆沢郡胆沢町若柳字慶存地内

事業者：建設省東北地方建設局胆沢ダム工事事務所

調査日：平成11年9月30日～31日、10月4日～5日

(4日間)

大清水遺跡は胆沢川右岸の中位段丘上に立地する。本来若干起伏のあった地形を平坦地に変更し、宅地や桑畠・草地として利用してきたところである。調査は胆沢ダム建設に際し、コア材として段丘礫を採取するため遺跡が消滅することになり実施したものであり、トレンチは遺跡全面に任意に設定した。

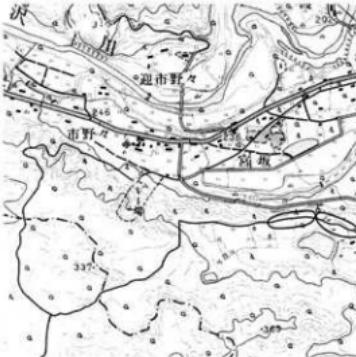
T1～T10は旧地形を残し雑木林となっていたところに設定したが、土層は自然堆積の様相をそのまま残していた。調査の結果、遺構はT3の南端でおおよそ東西方向に長軸をもつ陥穴1基を検出した。また、T3・T4では縄文土器（中期）が出土している。この区域は狩り場となっていたものと思われる。

T11～29は遺跡の中でも一段低い面に設定した。この区域は地形の変更を受けしており、かつては水田として利用されていたところである。T11～T14は第1層の黒褐色土の堆積が厚く、湿地的な様相を呈していた。また、T15～T27は表土直下に旧河川によって運ばれたと思われる人頭大的段丘礫が随所に見られた。この区域においては、いずれのトレンチからも遺構や遺物は確認されなかった。

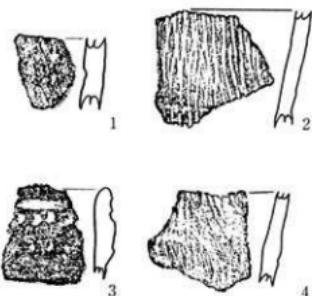
T30～T59は一部旧地形を残す杉林が残るもの、ほとんどは桑畠として地形の変更を受けているところである。この区域は地山まで削平されており、遺構や遺物は確認されなかった。

T60～T92は草地などとして地山まで削平を受けており、旧表土等は北側に押されていた。調査の結果、遺構はT87で陥穴1基、T88で不整形の落ち込みが確認された。遺物はT87・T88・T89・T92でそれぞれ縄文土器（前・中期）が出土した。なお、T89では表土直下に大量の土器を含む遺物包含層を確認している。（平成12年度本調査予定）

大清水上遺跡は大清水遺跡の西側に隣接する遺跡である。本遺跡は桑畠やリンゴ園のために地形の変更を受けているが、これらの造成に当たっては、岩手大学や胆沢町教育委員会によって発掘調査が実施されており、縄文時代の集落跡が確認されている。調査は、大清水遺跡と同様胆沢ダム建設のためのコア材採取によって遺跡が消滅するために実施したものである。過去の調査範囲については調査区域から除き、それ以外の区域全面に任意にトレンチを設定した。



第58図 大清水・大清水上遺跡位置図



第59図 胆沢町大清水・大清水上遺跡出土遺物



第60図 胆沢町大清水・大清水上遺跡調査区位置図

T1～T4は第2層までは削平されているものの、遺構や遺物が確認された区域である。遺構はT4において陥穴1基が検出された。また、遺物についてはT1・T3・T4において縄文時代前期のものと思われる土器小片が出土している。

T5～T11は現在杉林となっており、旧地形を残している区域である。遺構は検出されなかったものの、T5・T6・T11で縄文土器（前期）が出土している。特に、T11ではまとまって出土している。（平成12年度本調査予定）

18 一般国道4号水沢東バイパス建設関連調査

北田II遺跡 (N E 17-2038)

所在地：水沢市佐倉河字北田地内

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

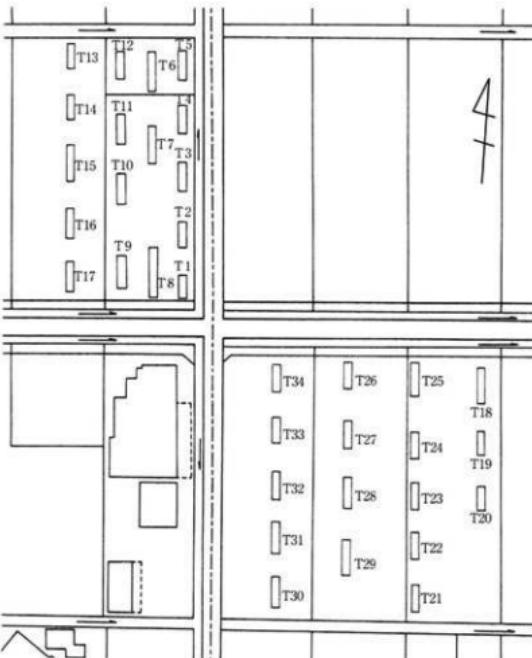
調査期日：平成11年10月27日

遺跡は北上川に注ぐ支流によって形成された河岸段丘上に立地する。西側が若干高かったと思われる地形を平坦地に改変し、水田として利用している。今回の調査は水沢東バイパス建設に伴うもので、用地取得済の水田に任意のトレンチを設定し実施した。本調査区東側において、倉庫建設のための確認調査が水沢市教育委員会によって実施されており、2本の旧河道が確認されているが、本調査においても旧河道延長が確認された。調査の結果確認された遺構と遺物は以下のとおりである。

遺構については、A区のT8・T9・T15・T17において径20cm前後の柱穴が多数検出されているが、この区域から遺物は出土しておらず時期については不明である。また、B区においてはT25において土師器を

伴う土坑が2基、T18・T26においてそれぞれ土師器の包含層を確認した。

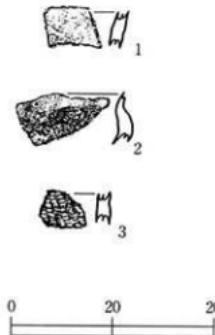
遺物については、B区のT18・T25・T26において平安時代の土師器が、T23において縄文土器（晩期）が出土している。（平成12年度本調査予定）



第62図 水沢市北田II遺跡調査区位置図・出土遺物



第61図 北田II遺跡位置図



19 東北新幹線建設事業関連調査

川原田平遺跡（JE19-0145）

所在地：二戸郡一戸町鳥越字川原田平地内

事業者：日本鉄道建設公団盛岡支社

調査期日：平成11年6月17日、10月19日～20日、

12月22日（4日間）

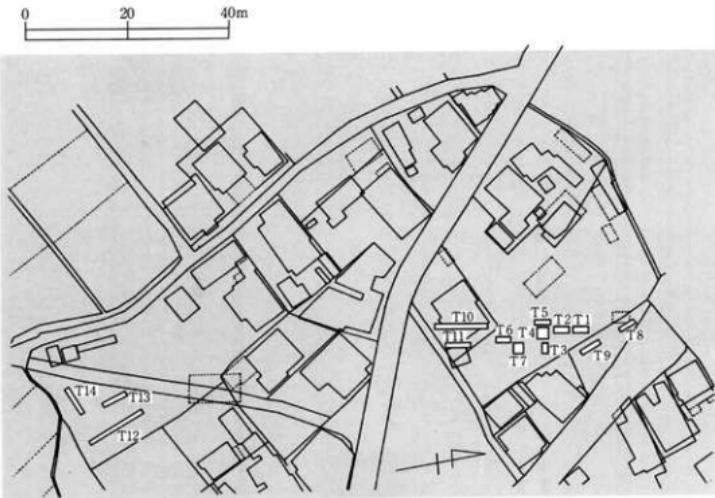
遺跡は馬瀬川右岸に形成された西向きの河岸段丘上に立地する。調査は、東北新幹線建設に係る本線部分と家屋移転先の2箇所に任意のトレンチ14本を設定し実施した。

T 1 ~ T11は新幹線本線部分に設定した。調査の結果、T 1・T 2では、厚さ10cmの十和田a火山灰が水平方向に広がりを見せて堆積しており、遺構の存在をうかがわせたが、周囲で土器片・炭化物・焼土等は確認されなかった。そこで、さらにこの層の下まで掘り下げたところ、中揮火山灰層が見られ、この地域の標準的な土層が整然と水平に堆積しており自然堆積の様相であった。また、T 3・T 6では南部浮石層まで掘り下げたが、やはり自然堆積の様相であった。これらのいずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。また、T 10・T 11は住宅を取り壊した跡地に設定したが、第2層まで擾乱を受けており、第3層以下は残っていたもののやはり遺構・遺物は確認されなかった。

T12~T14は家屋移転先に設定したが、この区域は本遺跡の南端に当たる。調査の結果、T13において15cmほどの耕作土直下で、隅丸方形のコーナー部分になると思われる範囲で多量の十和田a火山灰が確認された。重機でさらに掘り下げたところ多量の炭化物や焼土も検出され、竪穴住居跡であることが判明した。しかし、この住居跡に伴う遺物については確認できなかった。(平成12年度本調査予定)



第63図 川原田平遺跡位置図



第64図 一戸町川原田平遺跡調査区位置図

20 東北新幹線建設事業関連調査

川前遺跡（K E 77-0070）

大崎Ⅱ遺跡（K E 76-0386）

所在地：岩手郡滝沢村滝沢字大崎

事業者：日本鉄道建設公団

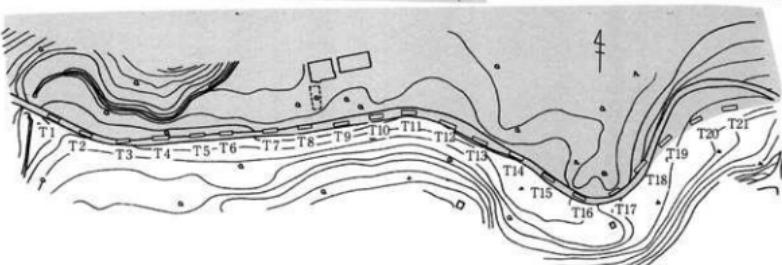
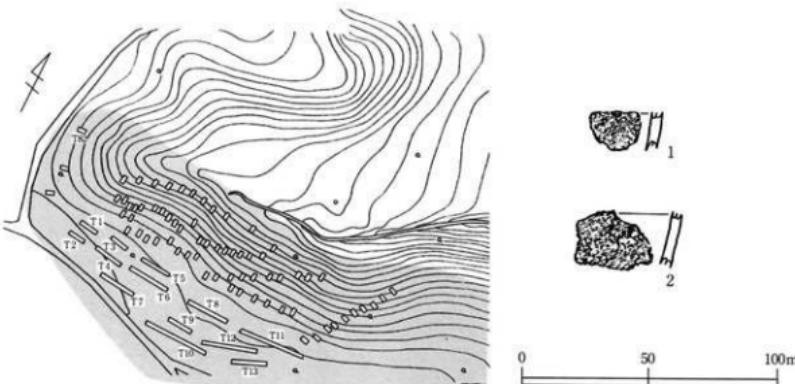
調査日：平成11年6月15日、7月5日・16日

大崎Ⅱ遺跡は、北上川に注ぐ沢によって開析された段丘、丘陵緩斜面、丘陵の尾根部及び河岸段丘状を呈する裾部に位置する。現況は段丘・丘陵緩斜面部が山林・原野・道路であり、丘陵尾根部・河岸段丘を呈する裾部が水田及び原野である。標高は段丘及び丘陵緩斜面部が212m～227mほどを、丘陵の尾根部及び河岸段丘上を呈する裾部が、212～219mほどを測る。丘陵尾根部については、4月より県埋蔵文化財センターの調査が実施されており、堅穴住居跡や多数の土坑が確認されている。

段丘・丘陵緩斜面部には、21本のトレンチを設定した。T1～T15までは、遺構検出面と想定される3層（スコリアを含んだ黒褐色土）および4層（スコリアを含んだ暗褐色土）まで残っていたが、遺構・遺物と



第65図 大崎Ⅱ・川前遺跡位置図



第66図 滝沢村大崎Ⅱ(下)・川前遺跡(上)調査区位置図・出土遺物

もに確認されなかった。なお、T6・T8では湧水が見られ、沢の影響が伺えた。また、T16～T18は現道建設に際し既に地山まで削平を受けていることが判明した。

遺跡範囲外への道路切り替え部分のT19～T21については、スコリアを含んだ黒褐色土層以下が残っていながら、遺構・遺物ともに確認されなかった。

今回の調査区では埋蔵文化財は確認されなかったが、滝沢村教育委員会の職員によって、T2～T5付近の拡幅した部分の法面で縄文土器（後期）が表採されており、遺跡の範囲は南の丘陵緩斜面部分へ延びると考えられる。

北上川に注ぐ沢によって開析された丘陵の尾根部及び河岸段丘状を呈する裾部については、7本のトレンドチを事業予定地内に任意に設定した。

黒褐色土層が消失していたり、水田造成のために削平を受けていて、旧耕作土直下で黄褐色土の地山が見られたりしたトレンドチがほとんどで、遺構・遺物とともに発見されなかった。

川前遺跡は、北上川に向かって張り出す丘陵の尾根部及び裾部に位置する。標高は尾根部が214m～229mほどを測り、裾部が208m前後を測る。現況は、丘陵尾根部が山林、裾部が原野となっている。

丘陵尾根部には、合計81本のトレンドチを設定した。平坦部に設定したT1～T13では、T6で、柱穴と土坑がそれぞれ1基、T7で、溝跡1条と陥し穴1基、T11で陥し穴1基が検出されている。また、遺物として、T7の暗褐色土中（3層）より縄文土器（後期）が4点出土している。これらの出土遺物より、遺構についても該期のものと推定される。斜面部に設定したトレンドチ68本からは、いずれのトレンドチからも遺構・遺物は確認されなかった。

丘陵裾部には5本のトレンドチを設定した。黒褐色土の厚い堆積が認められたものの、遺構・遺物はいずれのトレンドチからも確認されなかった。

21 地方特定道路整備事業関連調査

要害館B遺跡（O F22-1181）

所在地：東磐井郡藤沢町保呂羽字上野平地内

事業者：岩手県千厩地方振興局土木部

調査期日：平成11年12月2日

遺跡は南側に張り出す丘陵の頂部から裾部にかけての斜面に立地し、標高は220m～230mほどを測る。城域は約110m×90mほどの範囲であり、南側を除く周囲には空堀を巡らしている。上部の郭は20m×70mほどで北側背後に空堀がある。その郭から順次下に帯郭が5～6段つくられている。伝承によれば小野寺主計頭の居館とされているが詳細は不明である。

調査区は、県道建設ルートにかかっている帶郭や堀跡・

土壘などである。調査は重機を使用して行ったが、おもに郭の平坦部分に3本のトレンチを設定した。

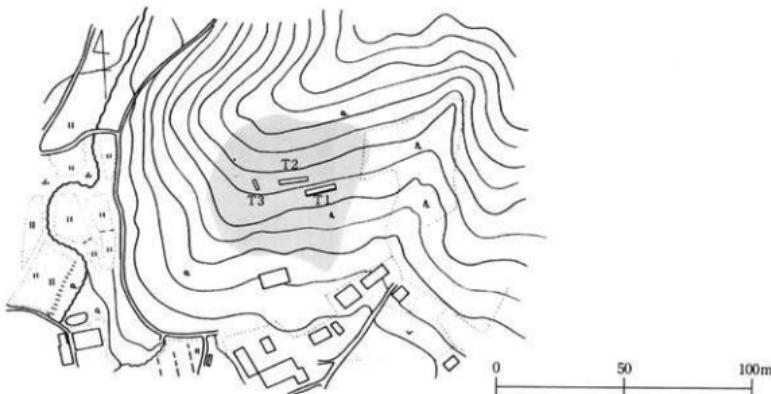
調査の結果、T 1を設定した区域は斜面を削平して平坦部がつくり出されており、埋土に炭化粒を含む径25cm前後の柱穴を3基検出した。このトレンチからは遺物が出土しなかったため、この柱穴の時期については不明であるが、しっかりした埋土であり、該期の掘立柱建物跡を構成する柱穴である可能性が非常に高い。

T 2・T 3も同様の平坦地に設定したが、いずれも人工的につくり出された平坦部であることが判明した。これらのトレンチについては今回の試掘調査では遺構については確認できなかった。また、遺物も出土しなかった。

T 3の西側に、現在作業道として使われている堀跡状のくぼみと土壘状の高まりが確認できるが、これらが該期の遺構かどうかについては現況からは判断できず、本調査結果を待ちたい。（平成12年度本調査予定）



第67図 要害館B遺跡位置図



第68図 藤沢町要害館B遺跡調査区位置図

22 新交流ネットワーク道路整備事業関連調査

小松Ⅰ遺跡（NF 07-0030）

小松Ⅱ遺跡（NF 07-0023）

所在地：気仙郡住田町上有住字小松地内

事業者：岩手県大船渡地方振興局土木部

調査期日：平成11年11月15日、12月9日（2日間）

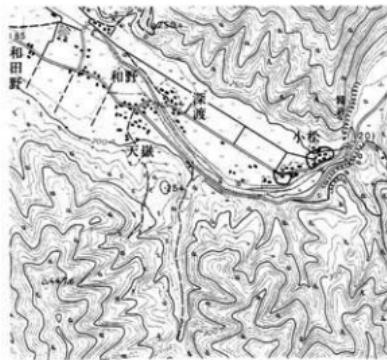
小松Ⅰ遺跡は気仙川右岸の河岸段丘及び丘陵裾部の南向き緩斜面上に立地する。調査は、県道計画路線にかかる畑地や水田に任意に8本のトレンチを設定し実施した。

水田に設定したT1・T2は耕作土下に厚い礫層が見られ、河川の影響を受けていることが判明した。

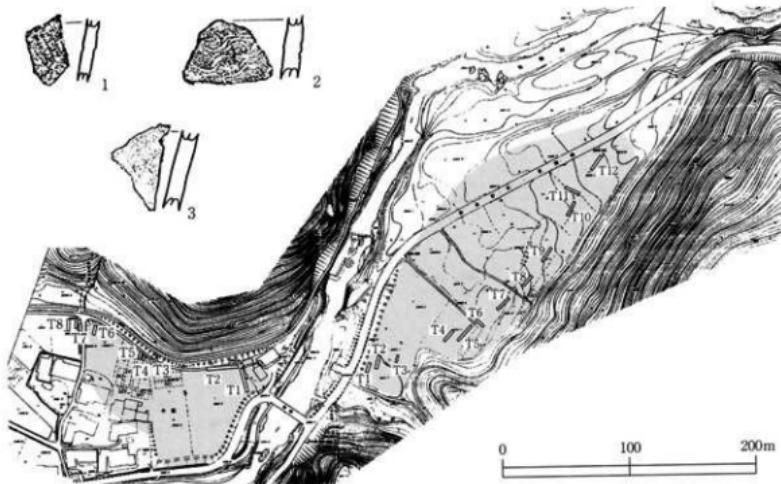
T3～T8は丘陵裾部の畑地に設定したが、調査の結果、T5で縄文土器（前期）を伴う落ち込みが確認された。これは該期の堅穴住居になる可能性が高いと考えられる。また、T6で径60cmほどの土坑1基、T8で径25cmほどの柱穴を3基検出した。

小松Ⅱ遺跡は気仙川左岸の河岸段丘上に立地する。本遺跡の南側には周知の小松洞窟遺跡が所在する。計画路線にかかる畑地や草地に任意にトレンチ12本を設定した。

調査の結果、T1・T2は若干削平されているものの自然堆積の様相が見られ、T2において土坑・陥穴各1基が検出され、縄文土器（前期）が出土した。また、T3～T5は部分的に旧河道の砂疊層が見られ、遺構は検出されなかったが、耕作土下の黒褐色土中から縄文土器片が出土している。T6～T12については、いずれのトレンチにおいても礫層が厚く堆積しており、遺構・遺物ともに確認されなかった。（両遺跡とも平成12年度本調査予定）



第69図 小松Ⅰ・Ⅱ遺跡位置図



第70図 住田町小松Ⅰ(左)・Ⅱ遺跡(右)調査区位置図・出土遺物

23 一般国道45号大船渡三陸道路関連調査

丸森Ⅲ遺跡 (N F 59-2042)

所在地：大船渡市大船渡町丸森地内

事業者：大船渡地方振興局土木部

調査日；平成11年7月21日、10月8日（2日間）

遺跡は大船渡湾を臨む丘陵の尾根及び裾部の東向き緩斜面上に立地し、標高は57m～69mほどを測る。調査は、大船渡三陸道路建設に伴い実施したもので、本線部分（T1～T8）及び関連道路部分（T9～T18）に任意に18本のトレンチを設定した。

T1～T5は丘陵が沢によって開削された緩斜面に設定した。調査の結果、T1・T2からT16にかけて隠れた沢が入っており、T3～T5では黒褐色土中で人頭大の崖錐性礫層が見られ、遺跡の立地としては適さない範囲であることが判明した。この区域では遺構・遺物ともに確認されなかった。

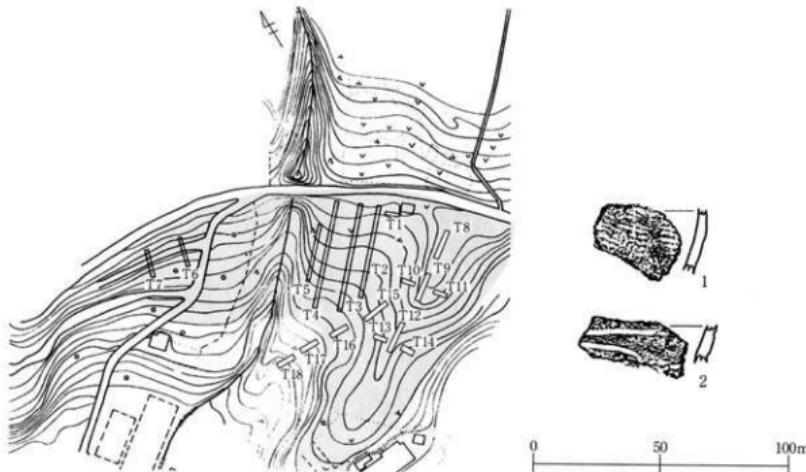
沢を挟んで対岸に設定したT6・T7についても同様に、黒褐色土直下に人頭大の崖錐礫が多量に見られ、遺構・遺物ともに確認されなかった。

T8～T14は尾根頂部に設定した。調査の結果、いずれのトレンチにおいても黒褐色土は流出しており、表土直下で黄褐色土の地山が見られた。これらのトレンチでは、遺構・遺物ともに確認されなかった。

T15～T18は尾根頂部から沢に向かう緩斜面に設定した。調査の結果、T17・T18では尾根からの流れ込みによる黒褐色土の厚い堆積が見られ遺構・遺物ともに確認されなかつたが、T15中央部で竪穴住居跡になると思われる落ち込みが検出され、縄文土器（後期）が出土した。また、T16北端の黒褐色土中から流れ込みによると思われる縄文土器片（後期？）が出土している。（平成12年度本調査予定）



第71図 丸森遺跡位置図



第72図 大船渡市丸森遺跡調査区位置図・出土遺物

24 緊急地方道整備事業（上宮守村道）・ほ場整備事業

（担い手育成区画整理型）宮守川上流地区

上官守遺跡（MF32-1052）

所在地；宮守村上宮守19地割

事業者；遠野地方振興局遠野土木部・遠野農村整備事務所

調査期日；平成11年8月17日・11月4日

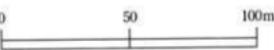
遺跡は宮守川上流の右岸で、丘陵裾部の南向き緩斜面地上に立地する。標高は244～250mを測る。

今回の調査は、緊急地方道整備事業に伴う村道道路改良部分とは場整備事業に際し遺跡内で切り土になる水路部分、及び遺跡範囲確認のため隣接地部分にトレンチを設定した。

T1は、現在の水田造成の際に、1m以上盛土されていることを確認した。T2では、東側で黒色土による沢状の落ち込みが検出されたが、自然の窪地と判断される。T3では、黒褐色中にグライ化した酸化鉄を含むことから、旧水田土壤もしくは遺構検出面であると思われる。T4では、東側より縄文土器（早期～前期と推定される）が出土し、その付近より径1m程の円形の土坑状の落ち込みが確認された。T5では、盛土造成が厚く、地山までの掘削は危険と判断されたことから、調査を中断した。T6では、表土直下で地山となり、その上面で溝状の落ち込みが確認された。T7・T8では、盛土造成による地形の変更が著しく、遺構・遺物ともに検出されなかった。T9では、盛土により平坦部をつくり出しているが、トレンチ南端では急激に下がり、旧河道に向かう斜面となっている。T10～T12では、旧地形的にみて地山面が上がる（高くなる）部分に相当する。T11で陥入穴1基を検出した。遺跡の範囲確認のため設定したT13～T21では、耕作土下にグライ化した粘土層が見られ、沢の影響を受けている範囲であることが判明した。



第73図 上宮守遺跡位置図



0 50 100m

第74図 宮守村上宮守遺跡調査区位置図・出土遺物

25 県営は場整備事業飯豊地区関連調査

権現前遺跡 (MF 46-1062)

所在地：遠野市青笹町糠前字権現前地内

事業者：岩手県遠野地方振興局遠野農村整備事務所

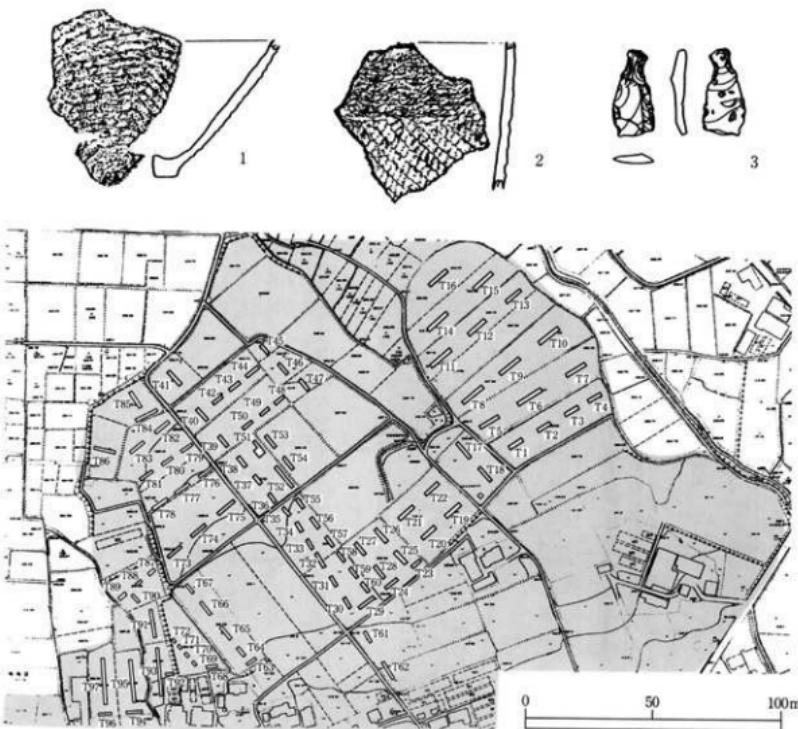
調査期日：平成11年11月8日～9日（2日間）

遺跡は五日市川左岸の微高地上に立地し、標高は305m～310mを測る。調査は、は場整備実施に伴い切土になる水田と計画水路及び計画道路部分に97本のトレンチを任意に設定し実施した。

調査の結果、標高305m～306mの範囲では随所に砂礫層や湿地粘土層が見られ、旧河道あるいはその影響をうけた区域であることが判明した。遺構・遺物が確認されたのは、遺跡中央部で現在も一段高くなっている標高



第75図 権現前遺跡位置図



第76図 遠野市権現前遺跡調査区位置図・出土遺物

308m～310mの範囲である。確認された遺構・遺物は次のとおりである。

T22において、径60cmほどの土坑が1基検出された。土坑の埋土中から、第76図1の縄文時代早期の底部破片が出土している。早期末葉の尖底土器で、原体はLR（0段多条）斜め回転が施され、底部は乳頭状を呈する。胎土中には、粗繩・繊維が少量混入する。

T51においては、径3mほどの縄文時代早期の堅穴住居跡が1棟検出され、該期の土器が出土している。また、同トレンチからは、縄文時代前期前葉の土器片（第76図2）や、石匙の欠損品（第76図3）が出土している。2は、口縁部文様帯に不整撚糸文を施し、胴部にRLR（横回転）が施される。胎土中には、繊維が少量混入され、土器内面にはわずかに煤の付着が確認される。3は頁岩製の石匙で、刃部は片刃で両側縁にもうけられ、先端部が欠損している。つまみ部の作りは粗く、未製品の可能性も考えられる。

T52において、縄文時代早期の土器が出土し、焼土跡が検出された。（平成12年度本調査予定）

26 緊急地方道路整備事業関連調査

浅石遺跡（J E 18-0398）

所在地：二戸市似鳥字浅石

事業者：二戸地方振興局土木部

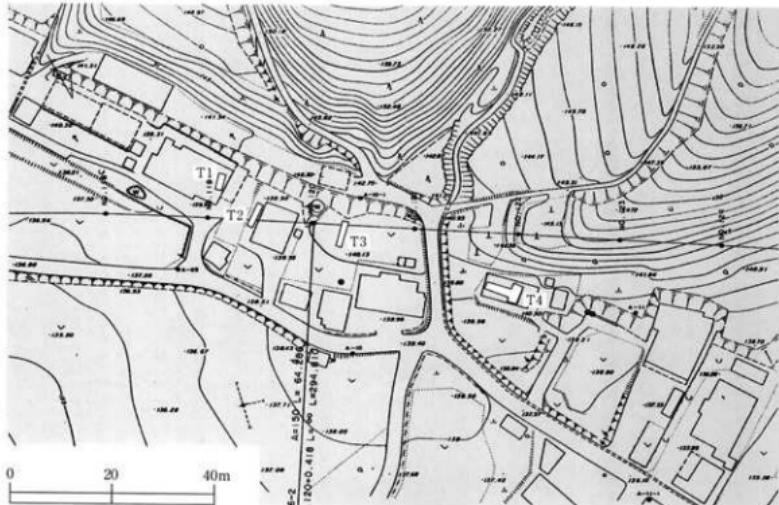
調査期日：平成11年11月15日

安比川右岸の河岸段丘面に位置する。標高は140m前後を測り、現況は、宅地・畑地・荒れ地である。

調査の結果、T 1～T 3 の範囲は狭小な扇状地が山から流れ出る沢によって形成されており、黒褐色土以下は安比川に向かうにつれて、地盤が下がることが判明した。さらに、T 1 の東側及びT 3 と T 4 の間に沢が流れていることが判明した。遺構は確認できなかったものの、T 1～T 3 の黒褐色土中より縄文土器及び土師器が多量に出土していることから、少なくとも遺物包含層が存在することが明らかとなった。（平成12年度本調査予定）



第77図 浅石遺跡位置図



第78図 二戸市浅石遺跡調査区位置図・出土遺物

27 新幹線関連道路整備事業関連調査

長興寺 I 遺跡 (J F 12-1110)

所在地：九戸郡久戸村長興寺地内

事業者：二戸地方振興局土木部

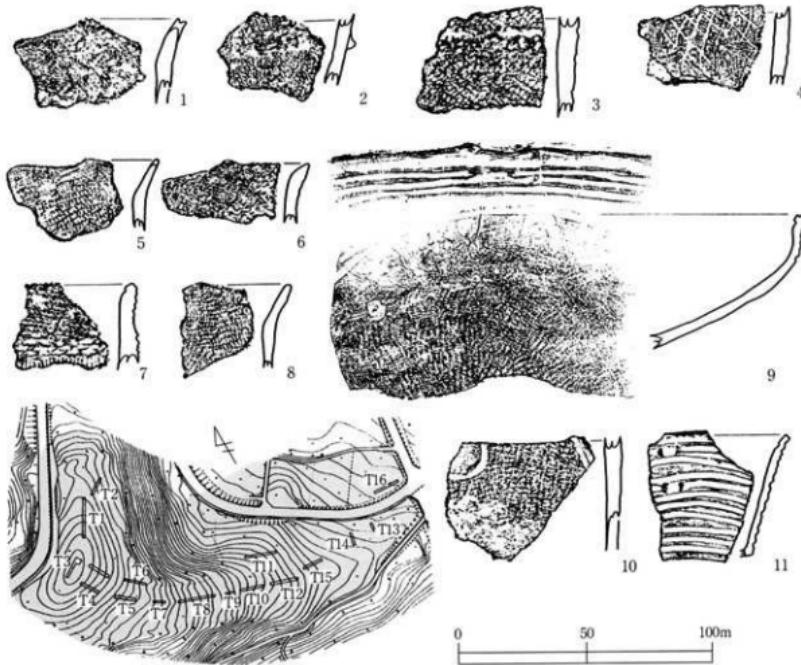
調査期日：平成11年5月25日～26日、6月24日

遺跡は、西側折爪丘陵より瀬内川に向かって緩やかに延びる丘陵斜面に立地する。

調査の結果、T15では、5層と6層の漸移的な部分で、複数の落ち込み跡が認められた。T2では、時期不明の土坑らしきものが1基確認された。丘陵頂部からの土砂の流れ込みが顕著であり、丘陵の低い部分では、現表土下に旧表土が確認されることがそれを裏付けるものと思われる。従って、丘陵裾部(T13～T16)で発見された土器は、流れ込みとみられると同時に、丘陵頂部でも土器片が採集され、かつ土坑が残存していることから、丘陵頂部は削平を受けつつも遺構残存の可能性が高いことも指摘できる。出土遺物は多量で、縄文前



第79図 長興寺 I 遺跡位置図



第80図 九戸村長興寺 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

期前半、中期、晩期～弥生時代の土器片を中心とする。以上のことから、丘陵斜面部は削平を受けているために遺構残存の可能性は低いとみられると同時に、丘陵頂部と裾部については、遺構残存の可能性は高いとみられる。

第80図には、出土した土器の中から代表的なものを図示した。

1～4、6、7は縄文時代前期、10は縄文時代中期、5、8、9、11は縄文時代晩期～弥生時代の土器である。

1・6は口縁部片で、菱形状に撚糸文が施文され、胎土中には、纖維を少量混入する。

2は胴部片で、横位に隆帯が巡り、L R 斜回転が施される。胎土中には纖維が多量に混入される。

3は、結束羽状縄文（L R・R L）が施文されるもので、円筒下層B式に相当するものと思われる。

4は、網目状撚糸文が施文され、胎土中には纖維が微量混入される。

5・8は、弥生時代初頭と思われる口縁部片で、波状を呈し、やや外反気味に立ち上がる器形である。

7は、口縁部に絡条体圧痕文、頸部に刺突列、胴部に撚り糸文が施文される。円筒下層D式に相当するものと思われる。

10は、無文帯による曲線的なモチーフが描かれ、R L 縦回転が施文される。中期末葉のものと思われる。

9は、浅鉢型の土器で、口縁部に工字文が施文され、口辰部及び口縁部裏側に溝状の沈線がめぐる。底部は欠損しているが、台付きになる可能性もある。縄文時代晩期後葉のものと考えられる。

11は、浅鉢型の土器で、口縁部～胴部にかけて変形工字文が施文され、口縁部裏側に溝状の沈線がめぐっている。弥生時代初頭のものと考えられる。（平成12年度本調査予定）

28 担い手育成基盤整備事業二子地区関連調査

中村遺跡(ME56-1385)

千刈遺跡(ME56-2343)、新規遺跡(ME56-1289)

野田Ⅰ遺跡(ME56-2213)

中居俵Ⅲ遺跡(ME56-2249)

所在地：北上市二子町地内

事業者：北上地方振興局北上農村整備事務所

調査日程：平成10年12月14日～12月15日（2日間）

平成11年2月24日～2月25日（2日間）

平成11年3月10日～3月11日（2日間）

平成11年6月22日～23日（2日間）

<中村遺跡>

担い手育成基盤整備事業二子地区の実施計画に伴い、平成9年度に事業対象地域について埋蔵文化財所在等に

係る詳細分布調査の結果、25箇所に及ぶ埋蔵文化財包蔵地が確認されていた。今回の調査範囲は、中村遺跡として周知されている範囲及びその西側に広がる水田部分である。遺跡は、北上川右岸の自然堤防状の微高地に位置し、低地部分とは1m程度の比高差がある。2月24日～25日にかけての調査では、遺跡の東側から西側にかけて30箇所のトレンチを設定した。

基本層序は以下のとおりである。

第1層：表土（耕作土）15cm前後、第2層：盛土整地層（旧は場整備による）30～50cm、第3層：黄褐色砂質土層（地山、遺構確認面）。



第82図 北上市中村遺跡調査区位置図



第81図 中村・千刈・野田Ⅰ・中居俵Ⅲ遺跡位置図

その結果、T1では溝跡及び焼土が地表から90cmのところで、T9・T10で土坑が同じく33cmでそれぞれ検出されたほか、焼土が複数のトレンチで確認された。T5では、2層と類似する遺物包含層中から、須恵器壺が出土した。ただし、T6～T10付近では2層が殆ど見られず、遺構の残存も良好であるが、その他のトレンチでは表土と地山の間に厚い擾乱層が観察され、さらに畑耕作の際のトレンチャー等による溝跡等も検出できた。

T14より西側はこの遺跡範囲か

らははずれる。以上のことから遺跡範囲は、東側37~41区画が中心となるものと考えられる。

<千刈遺跡> <ME56-1289>

対象となる遺跡は2つに分かれ、東側が千刈遺跡(ME56-2343)、西側が新規遺跡(ME56-1289)となっている。この2遺跡は連続しているため一括して扱うこととする。

両遺跡は北上川右岸の微高地上に立地しており、今回の調査範囲のはば中央付近のやや低くなっている部分で分けられている。現況は宅地を中心とする部分と水田・畑を中心とする部分に分かれる。

今回の調査は、担い手育成基盤整備事業二子地区に係るもので、10年12月に調査したものと、調査未了であった部分を翌年3月に行ったものからなり、この2遺跡で全部で71箇所もの試掘トレンチを設定している。基本層序は以下のとおりである。

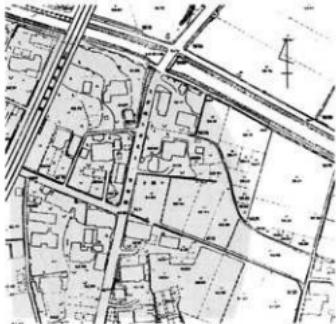
第1層：耕作土20cm、第2層：整地層10cm、第3層：暗褐色土35cm、第4層：褐色土（地山）

その結果、広範囲にわたって遺物の散布が確認されている。T1~T9付近は土器片を微量含む厚い土層

が観察され、旧来は後背湿地であった部分と考えられる。遺構及び遺物はこの区域以外の殆どのトレンチから検出された。T7~T9では平行する溝状遺構が土師器を伴い、多数検出されており、畑遺構の可能性がある。T10では住居跡が3棟、地表から65cmのところから確認された。その中心の住居埋土には多量の焼土が伴われていた。T28~T29でも土師器片を伴った焼土遺構が検出されており、付近に同様の住居跡が所在したものと推測される。T45付近では土器が多量に出土し、隣接するT46、T20、T21では住居跡2棟とそれに伴う煙道が検出された。この遺構・遺物の検出面は比較的深く、遺構は主に平安時代に属するものであるが、縄文土器の散布



第83図 北上市千刈遺跡調査区位置図



第84図 北上市野田I遺跡調査区位置図・
遺構図

今回の立会調査は、担い手育成基盤整備事業二子地区に係るもので、対象となる遺跡は2つに分かれ、西側が野田I遺跡(ME56-2213)で立会箇所が1カ所、東側が中居依Ⅲ遺跡(ME56-2249)で立会箇所が2カ所の計3カ所に分かれている。この2遺跡も連続しているため一括して扱うこととし、いずれも宅地周辺の用水路部分が調査対象となった。(うち、1カ所は別図の範囲から東南約200mに位置) 基本層序は以下のとおりである。

第1層：表土(耕作土)30cm、第2層：黒褐色土層(遺物を包含する。場所によって検出されないところあり。)0~10cm、第3層：褐色土層(遺構検出面)20cm、第4層：黄褐色土層(地山)(2遺跡とも)

最初に、一番西側に設定したトレンチでは、東側から重機で表土を除去して遺構検出を行ったが、予定調査面積の1/3ほど剥いだところで古代の竪穴住居跡2棟、土坑1基を検出し、遺構の密度が非常に濃いことがわかった。土坑の方は、この時期にはやや珍しい墓と思われる。このように重要な埋蔵文化財が発見されたためこの時点で調査を終了してそのまま埋め戻している。(その後、工法変更で遺構保存を図った)

次に、中居依Ⅲ遺跡に設定したトレンチについて触ることとする。2つめのトレンチでは、1~3層の殆どが削平されており、表土はてん圧した土であった。北隅から竪穴住居跡或いは溝らしい遺構が検出された。さらに精査の結果、南側部分は古代の竪穴住居跡の一部とわかったが、その北側はより新しい遺構が重複しており、住居跡よりずっと深く、調査範囲が狭いこともあってこれが何であるかはっきりしなかった。

(別図1号住参照)ただし、遺物は竪穴住居跡よりもこの遺構の方から多く出土しており、爪の先程の土師器片が十数点発見されている。

最後に一番東側のトレンチでは、試掘範囲のはば中央から平安時代の竪穴住居跡が検出されている。規模と形状は、一辺の長さが4mの隅丸方形と推測される。(別図3号住参照)この住居は、その東壁にくり抜き式のカマドを持ち、下腕部程の大きさの縄をカマドの袖の芯とし、焚口は燃焼を強く受けており、直径40cm、厚さ6cm程の焼土が検出された。

一方、遺物の方はカマドの北脇からはほぼ完形の長胴カメが入れ子状に出土している。この長胴カメは全部で3体で、外面が口縁部と胴部をヘラケズリによって処理されており、ヨコナデで消されたものである。

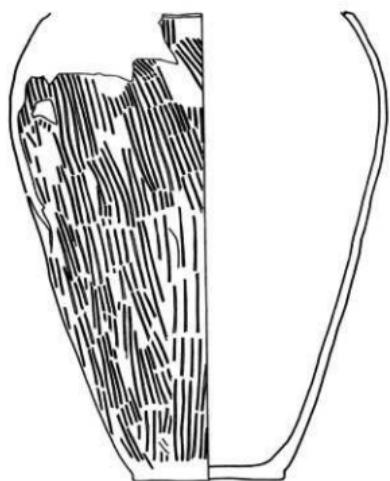
(別図参照)この調査トレンチの範囲は非常に幅が狭いが、出土した土師器も多量に及んだ。(この立会調査は以上により記録保存された。)

も確認されている。

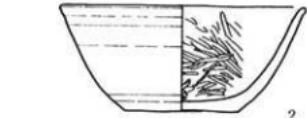
回を改めた翌年の調査において、T47では土師器等の遺物と、プランは不明瞭ながら遺構と思われる箇所が3箇所ほど地表下50cmで確認されており、同様にT48では溝と土坑が地表下35~40cmで確認された。その他ではT58・T59・T62・T63・T65・T66・T70でそれぞれ溝や土坑、焼土と住居跡と思われるものが検出された。一方で、T68・T69では耕作によりかなり深く擾乱を受けており、遺構等は確認出来なかった。しかしその南に隣接する畑では土師器などが表面で確認出来ており、本来はここにも何らかの埋蔵文化財が存在したと思われる。

<野田I遺跡><中居依Ⅲ遺跡>

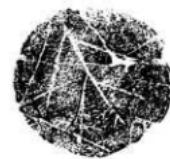
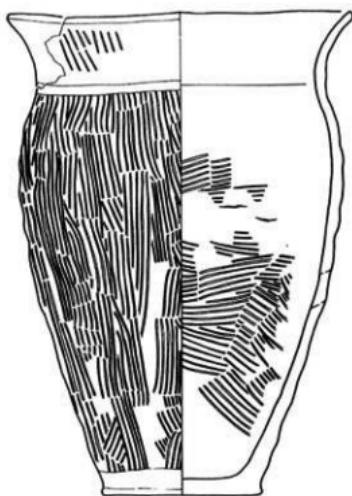
遺跡は、大堰川右岸の自然堤防上に立地している。



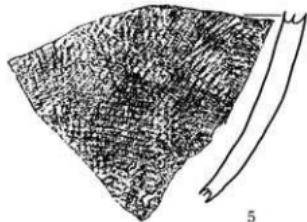
1



2



3

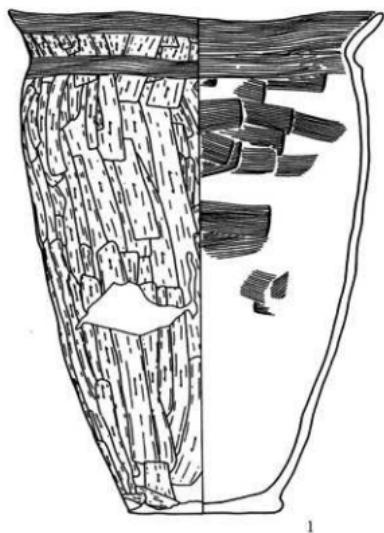


5

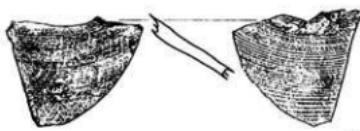


4

第85図 北上市中村・千刈・野田I・中居俵III遺跡出土遺物



1



2



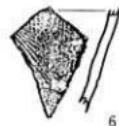
3



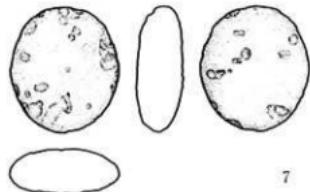
4



5



6



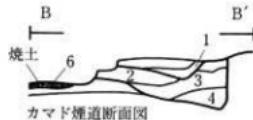
7

第86図 中村・千刈・野田I・中居俵III遺跡出土遺物

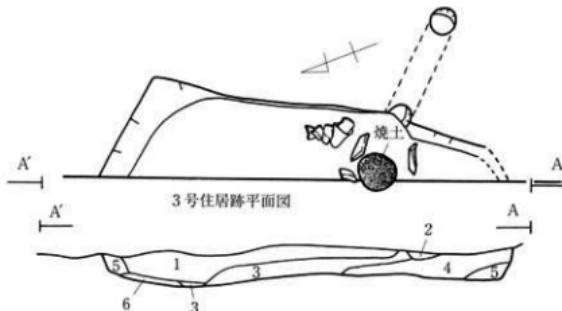


- 1. 表土 (てんばした土) 粘土質シート聞くくなる
- 2. 黒褐色 (30Y R3/2) 粘土質シート ややわらかい
- 3. 黑褐色 (30Y R3/2) 地に (30Y R4/4) のプロック粘土質シート
- 4. 黑褐色 (31Y R3/2) シート 常常に聞くこじます。地土質やや含む
- 5. 黑褐色 (31Y R3/1) ローム粘やや多く含む
- 6. + (31Y R3/2) 固くなる ロームプロック多
- 7. + (31Y R2/2) + *
- 8. + (31Y R3/2) ローム粘含む
- 9. + + ローム粘含む

粘土質シート聞くくなる ローム粘含む



- 1. 黒褐色 (30Y R3/1) シート 粘土プロック含む
- 2. + (30Y R2/3) 粘土質シート ややわらかい
- 3. + (30Y R3/1) シート 粘土プロック多く含む
- 4. + (30Y R2/3) 灰化物粘土プロック含む 粘土質シート ややわらかい
- 5. 余糊 (5 YR 5/8) 砂質シート 地山の熱で変化
- 6. 明小窓 (5 YR 5/8) 固くしまる 硬土



- 1. 黒褐色 (30Y R3/2) 粘土質シート
- 2. + (30Y R3/2) + 固くしまる ロームプロック含む 硬土粒 腐化物わずか
- 3. + (30Y R3/2) + ロームプロック含む
- 4. + (30Y R3/1) + 地土粒 腐化物含む
- 5. + (30Y R3/2) + 固くしまる ローム粒 硬土粒含む
- 6. 黑褐色 (30Y R4/4) 地に黒褐色 (30Y R2/2) 粘土質シート ロームの再堆積

第87図 中村・千刈・野田I・中居俵III遺跡遺構図

29 ほ場整備事業(担い手育成型・区画整理型) 姉妹地区

漆林II遺跡 (NE 37-1182)

本宿迎畠遺跡 (NE 37-1198)

所在地; 水沢市姉妹地内

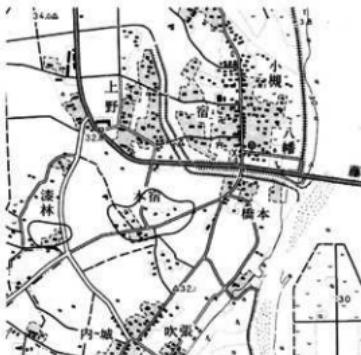
事業者; 水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日; 平成11年6月7日 (漆林II遺跡)

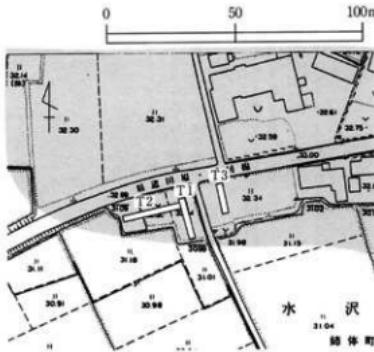
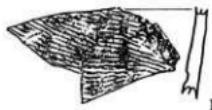
11月8日 (本宿迎畠遺跡)

両遺跡は、北上川右岸の胆沢扇状地の低位段丘(水沢段丘)に立地している。遺跡の現況は水田及び宅地であり、標高31~33mの平坦地である。漆林II遺跡の調査については、設計変更等による埋蔵文化財の現状保存が困難となった部分を調査した。600m²のうち約半分はすべて表土を除去し遺構検出を行った。東側では残存状況は良くなかったが、竪穴住居状の遺構等が確認された。西側では、表土下に認められる遺物を少量含む遺物包含層がやや厚く、遺構面も良好に保護されている部分があった。調査範囲のほぼ中央に幅3m程度の旧河道が確認されている。その他、時期不明の柱穴状の落ち込みが点在しており、陥し穴状遺構も確認された。全体として過去のは場整備による遺構の削平が著しいものの、部分的に竪穴住居跡等の遺構が遺存している状況であった。

本宿迎畠遺跡では、事業予定地内にトレーニングを3箇所(T1~T3)設定し、その結果いずれのトレーニングからも遺構・遺物が確認された。T1では、地表下15cmで、一辺6m程の方形の竪穴住居跡と陥し穴状遺構が1基ずつ確認された。住居跡埋土に土師器・須恵器の破片が含まれており、平安時代前半の遺構と推定される。T2では、トレーニング西隣で、平安時代頃の土坑が1基確認されており、その埋土から須恵器の破片が出土している。この土坑は、トレーニング外に統いており規模は不明である。T3では、地表下20cmで、古代と推定される土坑が1基確認されている。T2の土坑と同様トレーニング外に延びているが、確認面の幅は1.5m程度のものである。この埋土中から、管状の土錘が出土している。(平成12年度本調査予定)



第88図 漆林II・本宿迎畠遺跡位置図



第89図 水沢市漆林II・本宿迎畠遺跡調査区位置図・出土遺物

30 ほ場整備事業（担い手育成・区画整理型）姥沢上野地区

明後沢遺跡群 (N E 36-2175)

所在地：胆沢郡前沢町古城字明後沢地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

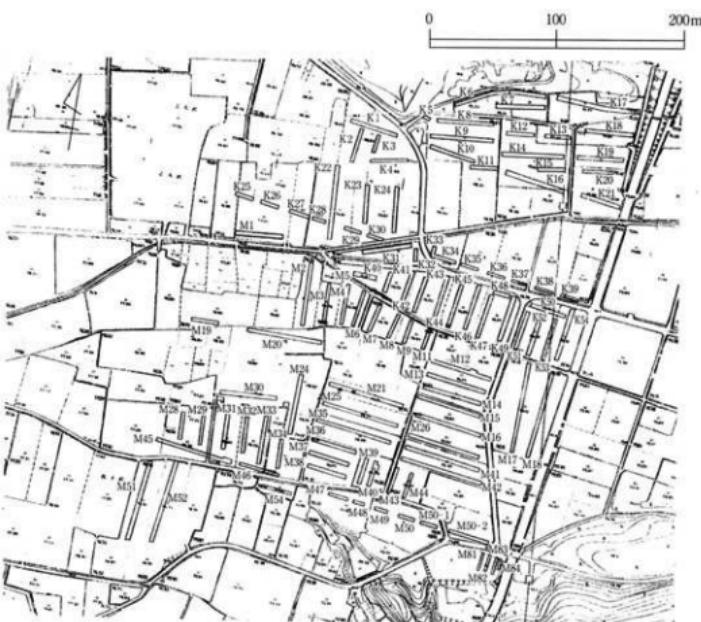
調査日：平成11年11月8日～19日（8日間）

明後沢遺跡群は、北上川右岸の胆沢扇状地の中位段丘（胆沢段丘横道面）の縁辺部に立地し、北側を松ノ木沢川、南側を明後沢川に開析された舌状の台地に位置している。この舌状台地のほぼ全域に埋蔵文化財が確認できる。明後沢遺跡群とは台地内部に含まれる7遺跡（明後沢遺跡・八郎館遺跡・宗角館遺跡・熊野遺跡・鳥子沢遺跡・幅遺跡・前堀遺跡）の総称である。今回の試掘調査では、明後沢遺跡（県指定地以外の部分）とその北側の鳥子沢遺跡が対象となった。

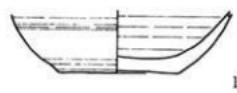
今回の調査は平成10年12月及び平成11年3月の試掘調査を継続したものである。遺跡を南北に走る農免農道西側が平成11年度に面工事に着手する予定範囲であるが、東側水田についても調査を実施し、埋蔵文化財の保護とほ場整備事業との調整を図ろうとしたものである。調査は地元前沢町教育委員会と合同で実施し



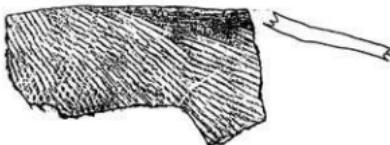
第90図 明後沢遺跡群位置図



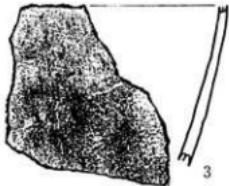
第91図 前沢町明後沢遺跡群遺跡調査区位置図



1



2



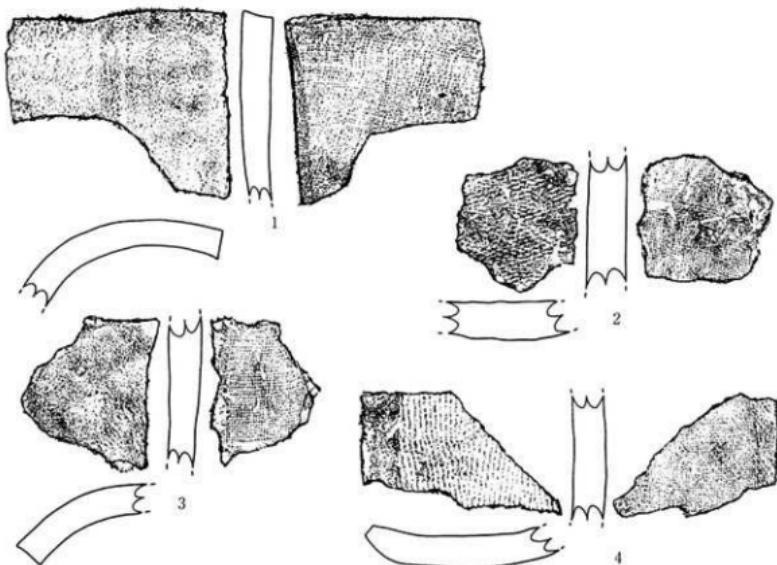
3



4



第92図 前沢町明後沢遺跡群調査区位置図・出土遺物



第93図 前沢町明後沢遺跡群出土遺物

た。段丘の舌状の張出ほぼ中央に、東西に延びる尾根状の高まりが観察され、これに沿って現在農道が走っている。その北側についてKトレンチ、南側についてMトレンチと便宜的に命名した。

調査の結果、Kトレンチ西側は、全体に表土が薄く、表土下の2層暗褐色土層の堆積は不明瞭であったが、3層黄褐色土上面で溝状遺構、陥し穴状遺構等が複数検出された。陥し穴状遺構については、縄文時代の遺構と考えられるが、溝状遺構の所属年代については、古代の可能性がある。Kトレンチ西側では、最西端近くの水路予定部分及び南東方向に予定される道路部分等で古代の堅穴住居跡等の遺構が複数確認されている。

Kトレンチ西側では、最西端近くの水路予定部分及び南東方向に予定される道路部分等で古代の堅穴住居跡等の遺構が複数確認されている。堅穴住居跡が確認されたのは、M32で1棟、M45で2棟である。古代と推定される遺構では土坑と溝跡があるが、古代の土坑が確認されたのは、M58・M60・M61・M62であり、古代の溝跡が確認されたのは、M61・M62・M67・M74・M75である。東側では、中央尾根近くの高い部分で、古代又は中世の掘立柱建物跡が確認されてた他、小柱穴状の遺構も多数確認された。掘立柱建物跡が検出されたのはM75の部分である。古代と推定される柱穴状遺構が確認されたのは、M60・M62・M67・M70・M71・M74である。また、スタンド予定箇所については、M46で古代の埋没水路が認められた他、縄文時代の土坑が確認されている。全体に出土遺物が少なく、県史跡として指定している範囲と内容とは、若干内容を異にしているようである。

今回掲載した4点の瓦については、初めの3点が薬師堂の西畑から表採したもので、あの1点は昨年度

調査のT30から出土したものである。いずれも平瓦の破片であり、これまで県指定地出土瓦と同型式の瓦である。焼成は須恵器質の硬質なものであり、凹面にやや荒い布目、凸面に繩目及びへら割りが施される。瓦の厚さには2種類があり、1cm前後の薄いものと2cm前後のものがある。明後沢や胆沢城跡等の出土瓦から、薄めの平瓦から、薄めの平瓦に瓦当部が接合される場合があり、瓦の厚さにより用途が異なる可能性がある。昨年度調査のT30から出土した瓦片については、出土地点が県指定地に隣接することから、県指定地内からの流れ込みや何らかの関連性が想定される。薬師堂付近は台地の北寄りの縁辺部にあたり、県指定地とはかなりの距離がある。これまで瓦が出土しているのは、県指定地とその周辺の他は、台地北端の熊野神社周辺があるだけである。薬師堂は熊野神社ともある程度距離があることから、明後沢遺跡群のる台地の内部に、瓦出土地が少なくとも3箇所存在する可能性が明らかになった。(平成12年度本調査予定)

31 担い手育成基盤整備事業

大道遺跡（L E 46-0124）

田屋遺跡（L E 46-1121）

所在地；紫波郡矢巾町煙山第14地割西屋敷、第24地割

耳取地内

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査日；平成11年1月25日～26日（2日間）

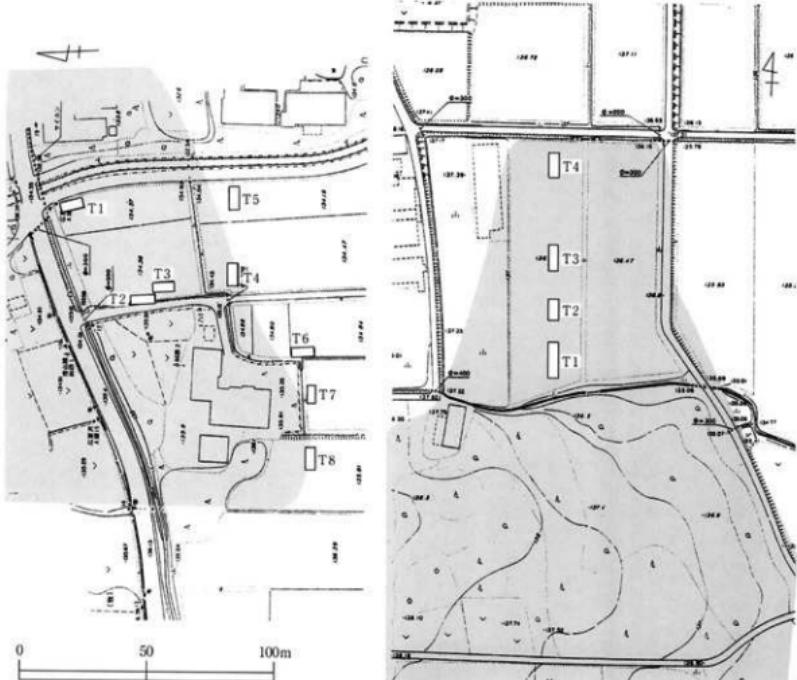
大道遺跡は岩崎川が形成した扇状地内の微高地に立地する。試掘トレンチは事業予定地内に8カ所設定した。試掘の結果、基本層序は次のようになる。1層：耕作土 厚さ15cm、2層：暗褐色土 17cm、3層：黒褐色土で遺物包含層 30cm、4層：褐色土となる。

T 1では、縄文中期の土器が多量に出土した。土層の

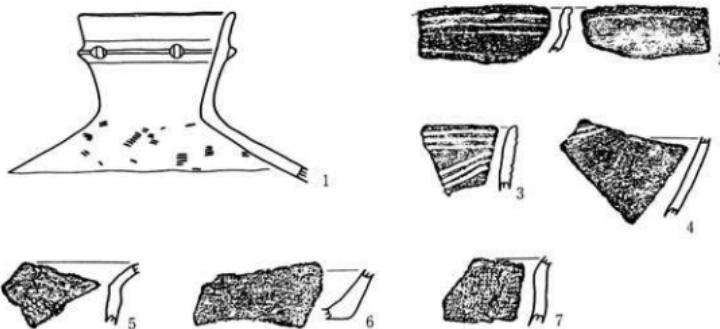
所見から、本来、遺物包含層は南側に向かって傾斜していたものと推定された。集落の主体部は、現在の民家の密集する辺りと考えられた。その他のトレンチでは、遺構、遺物は発見されていない。



第94図 大道・田屋遺跡位置図



第95図 矢巾町大道・田屋遺跡調査区位置図



第96図 矢巾町大道・田屋遺跡出土遺物

田屋遺跡は大道遺跡と同様の立地で、平成9年度の分布調査では、事業予定地外の山林中に土壘状の高まりも発見されている。今回は事業予定地内の掘削予定範囲に4カ所のトレンチを入れた。

基本層序は次のような。1層：耕作土 厚さ15cm、2層：暗褐色土 15cm、3層：黒褐色土 10cmである。3層は炭化材を含む遺物包含層となる。

T 1, T 2では遺物包含層が発見され、弥生時代：山王Ⅲ層式土器が出土した。土層の検討から旧地形は南側の沢に向かって傾斜すると考えられ、この傾斜部分に遺物包含層が形成されたと推定される。T 3では、耕作土直下に褐色地山層が堆積しており、削平を受けている。T 4では、湿地状の堆積物が認められたが、遺物は出土しなかった。遺跡の中心は事業予定地外の山林部分にあると考えられた。

図示した遺物には、壺、高環、鉢、甕がある。1は壺破片で、口頸部が残っているもので、口縁部に断面三角形の隆起が横に巡っている。隆起上には、所々、押圧が施されている。

32 ふるさと農道緊急整備事業下冬部地区関連調査

冬部田屋遺跡（J F51-0157）

所在地：岩手郡葛巻町下冬部地内

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成11年8月2日・10月29日（2日間）

冬部田屋遺跡はJR小島谷駅の南東約6.7kmに位置し、馬淵川右岸の丘陵斜面に立地している。遺跡の標高は287m前後を測り、現況は水田と畑地である。試掘調査は事業予定地に農作物が作付けされていたため2回にわなって行った。

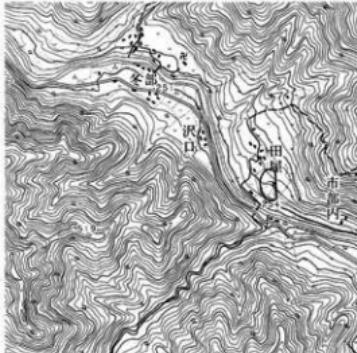
8月に行った調査では、T1～3を設定した。T1・2は斜面がやや急になっている部分で、表土及び遺物包含層と考えられる黒色土は流出が著しく、現在わずかに残る表土直下が黄褐色の地山となり、遺構検出面となっている。

道路工事予定線ほぼ中央に沿って幅1mのトレンチ（T1）を設定したところ、トレンチの東端で長軸約3.8mの陥し穴遺構が1基検出された。そのため、さらにその西側に幅約2mのトレンチを設定したが、ここでは遺構は検出されなかった。T3付近は水田造成による擾乱が著しく、遺物・遺構とも確認されなかった。

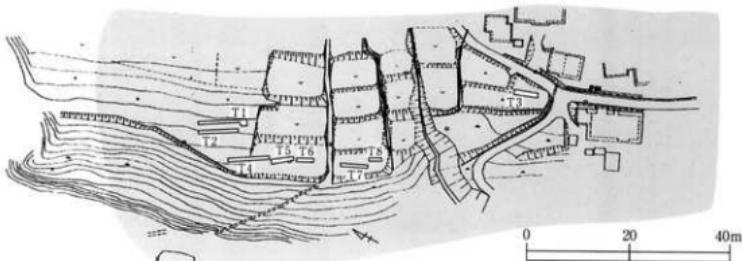
10月の調査では、8月に調査した際に農作物等の作付けによって立ち入ることができなかつた部分を対象に行った。なお、8月調査段階とは道路設計が変更されている。今回は道路が丘陵縁辺部に設計されているが、法面などが北側に入り込み、切土される部分が大きい。

今回はトレンチT4～8を計画道路の中心に沿うように設定し調査を実施した。調査の結果、ほとんどのトレンチでは過去に水田造成が行われていたにもかかわらず、地山が良好な状態で残存し、部分的に褐色土の堆積も認められた。T8では、北側に向かって天地返しされた層が部分的に確認された。

T1では陥し穴が検出されたものの、他のトレンチでは遺構・遺物とも確認されなかつたことから、他の陥し穴が道路敷地内に分布する可能性は低いと考えられる。また、T3とT8の間は沢地形を埋め立てて水田としていることから、遺跡範囲から除外できると考えられる。



第97図 冬部田屋遺跡位置図



第98図 葛巻町冬部田屋遺跡調査区位置図

33 県営中山間地域総合整備事業浅沢地区関連調査

下ノ田館跡（J E 55-1208）

北の城館跡（J E 55-1261）

山口遺跡（J E 55-1192）

所在地：二戸郡安代町浅沢地内

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成11年4月22日、23日

下ノ田館跡および北の城館跡は、いずれも安比川によって形成された河岸段丘縁辺部の平坦地及び緩斜面上に立地し、標高は280~293mほどを測る。今回の調査では、下ノ田館跡で3本、北の城館跡で9本のトレーンチをそれぞれ設定した。

調査の結果、下ノ田館跡では、T 1・T 2で柱穴と思われるピットが多数、T 1で縄文土器（中期）が出土し

ている。ピット（柱穴）については、遺構に関係する遺物が確認できなかったため、館に伴うものかどうかは不明である。また、T 3の南端で竪穴住居跡になると思われる遺構が検出されており、遺構に伴って縄文土器（中期）が出土している。今回の調査部分以外の畑地でも多数の縄文土器を表面採集できることから、

遺跡は広範囲にわたって存在するものと考えられる。

北の城館跡では、T 1~T 4・T 9で、ピット類（柱穴、土坑）が多数、T 6で焼土跡が2基検出されている。柱穴については、遺構に関係する遺物が確認できなかったため、館に伴うものかどうかは不明である。また、T 1・T 2・T 4・T 6で縄文土器（中～後期）が出土している。今回の調査部分以外の畑地でも多数の縄文土器が表面採集できる上、館に伴う堀や郭も明確であり、遺構の存在は広範囲にわたると考えられる。

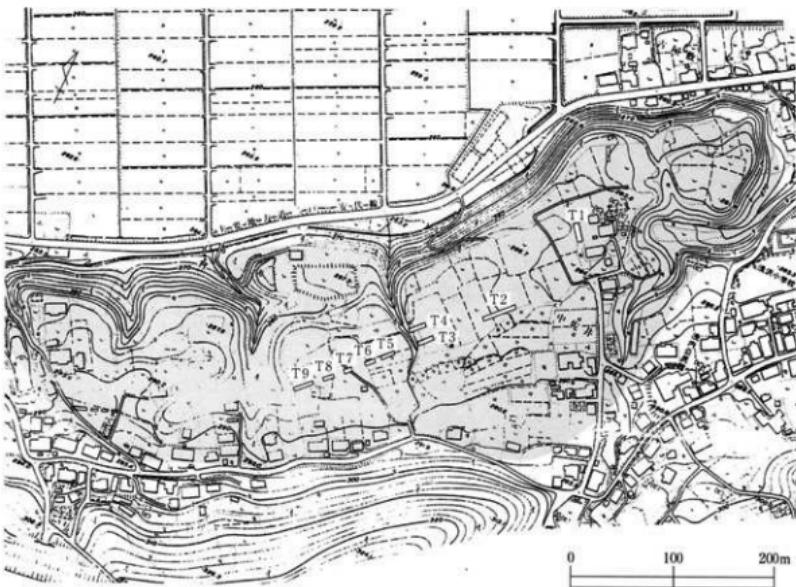
山口遺跡は、丘陵裾部の平坦地及び緩斜面上に位置し、290~300mほどの標高を測る。現況は畑地であるが、斜面上部を削平し沢を埋めて畑地にしているところも見られる。7本のトレーンチを設定したが、T 4ではほぼ東西方向に長軸をもつ陥し穴が1基検出されたのみで、遺物は全トレーンチで確認できなかった。



第99図 下ノ田館・北の城館・山口遺跡
位置図



第100図 安代町下ノ田館・北の城館・山口遺跡調査区位置図



第101図 下ノ田館・北の城館・山口遺跡調査区位置図・出土遺物

34 ふるさと農道緊急整備事業砂川地区

丹内Ⅰ遺跡 (J F66-1368)

丹内Ⅱ遺跡 (J F66-1369)

砂川Ⅲ遺跡 (J F66-1355)

所在地：九戸郡山形村小国地内

事業者：久慈地方振興局久慈農村整備事務所

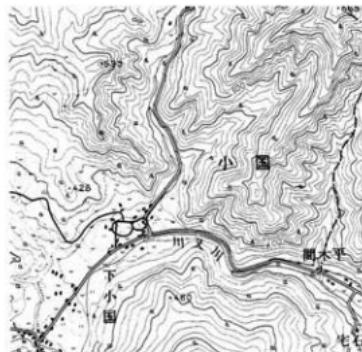
調査日：平成11年9月6日～7日（2日間）

丹内Ⅰ遺跡は、小国川に向かって延びる南向き丘陵斜面に位置する。試掘トレンチは道路の南側に1カ所設定した。その結果、1層：耕作土 厚さ20cm、2層：黒褐色土 30cm、3層：黄褐色土（地山）となり、2層が遺構確認面で、遺物包含層となる。したがって、表土下に黒色土の堆積が厚く認められた。今回は遺構、遺物は確認できなかったが、以前の県立博物館による学術調査時に発見された土層に対応することが判明した。

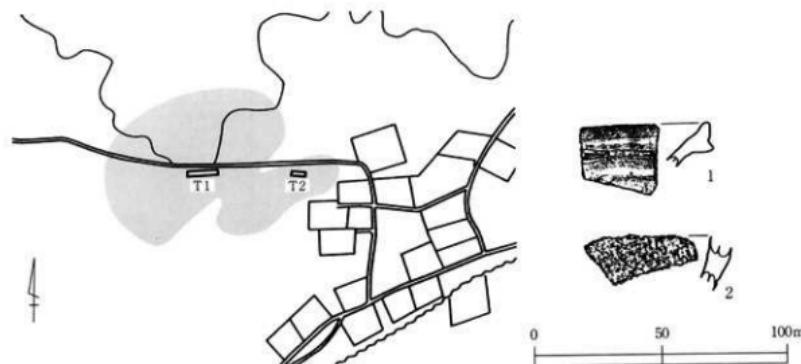
県立博物館の調査では、弥生時代後期の住居跡2棟、土坑4基、時期不明の土坑6基、縄文時代と推定される階穴1基が確認されている。出土した遺物は土器、石器、陶磁器などである。弥生土器は道路に近い斜面部の割と広い範囲から出土したが、包含量は他の時期のものと比較すると少ない。

丹内Ⅱ遺跡は丹内Ⅰ遺跡と同様の立地で基本層位もほぼ同じである。試掘トレンチは1カ所設定した。丹内Ⅰ遺跡と同様、表土直下に黒色土の堆積が認められたが、若干薄く、削平を受けている可能性が指摘できる。1層：耕作土 厚さ20cm、2層：黒褐色土 20cm、3層：黄褐色土（地山）となる。遺構、遺物は発見されなかった。

砂川Ⅲ遺跡は丹内Ⅰ遺跡と同様の立地で、基本層位は1層：耕作土 10～15cm、2層：黄褐色土層となる。道路の南側に試掘トレンチを1カ所設定した。調査の結果、縄文時代前期の土器が出土したが、擾乱中の出土であった。



第102図 丹内Ⅰ・Ⅱ遺跡位置図



第103図 山形村丹内Ⅰ・Ⅱ遺跡調査区位置図・出土遺物

35 ふるさと農道緊急整備事業水沢地区関連調査

上水沢Ⅱ遺跡（J F 07-2188）

所在地：九戸郡大野村字水沢地内

事業者：久慈地方振興局久慈農村整備事務所

調査期日：平成11年9月20日

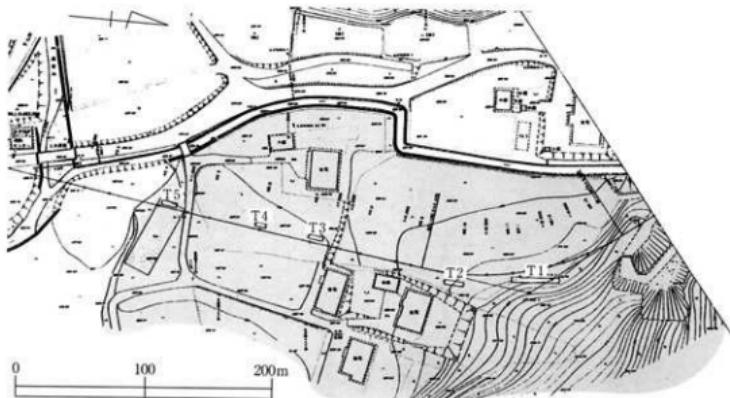
遺跡は西に向かって張り出す丘陵の裾部南向き緩斜面上に立地し、標高は227m～230mほどを測る。調査は農道建設に際し実施したものであり、計画路線内の草地及び畑地となっている部分に任意に5本のトレンチを設定した。

T 1は遺跡東端の丘陵際の草地に設定した。調査の結果、トレンチ北端で崖錐性の礫が見られたものの、中ほどからは見られなくなり、第2層の黒褐色土中でブロック状の十和田a火山灰が確認された。周囲を広げ確認したが、これは遺構に伴うものではないことが判明した。さらに掘り下げるところ、漸移層である第3層の暗褐色土直下で土坑1基と落ち込みを1ヶ所検出した。この落ち込みに伴って縄文土器（後期）が出土しており埋土中に炭化物も混入することから、これは該期の竪穴住居跡になる可能性が高いと考えられる。つづいて南側に設定したT 2においても、第3層中から縄文土器（後期）が出土している。しかし、このトレンチでは遺構は検出されなかったので、徐々に掘り下げ、中振火山灰層を抜いて南部浮石層まで下げ遺構検出を行ったが、遺構は確認されなかった。

T 1・T 2の面より一段下がる面の畑地に設定したT 3～T 5においては、耕作土直下から砂礫層が厚く堆積しており、遺跡西側を南流する河川が流路を変えている区域であることが判明した。（平成12年度本調査予定）



第104図 上水沢Ⅱ遺跡位置図



第105図 大野村上水沢Ⅱ遺跡調査区位置図

36 ふるさと農道緊急整備事業館迫落合地区関連調査

町井 I 遺跡 (ME38-0396)

所在地：和賀郡東和町館迫落合地区地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査日：平成11年7月26日

遺跡は猿ヶ石川左岸の河岸段丘縁辺部に立地し、標高は107m～108mほどを測る。現況は宅地や畠地及び水田である。調査は、遺跡中ほどを通る町道を拡幅して農道とする工事に伴い実施したもので、拡幅部分に任意に4本のトレンチを設定した。

T1・T2は水田造成の際に削平を受けており、第3層の褐色砂質土が見られず、第2層の暗褐色土直下に河川堆積によると思われる砂質土が見られた。調査の結果、T2において第2層中から土師器片や須恵器片が出土し、トレンチと並行する形で溝跡1条が検出され、トレンチ北端で落ち込みが2ヶ所確認された。この落ち込みについて範囲を広げ確認したところ、方形を呈するため、堅穴住居跡の可能性が考えられる。しかし、削平を受けているため、これらの遺構の残存する深さはいずれも20cm前後であった。

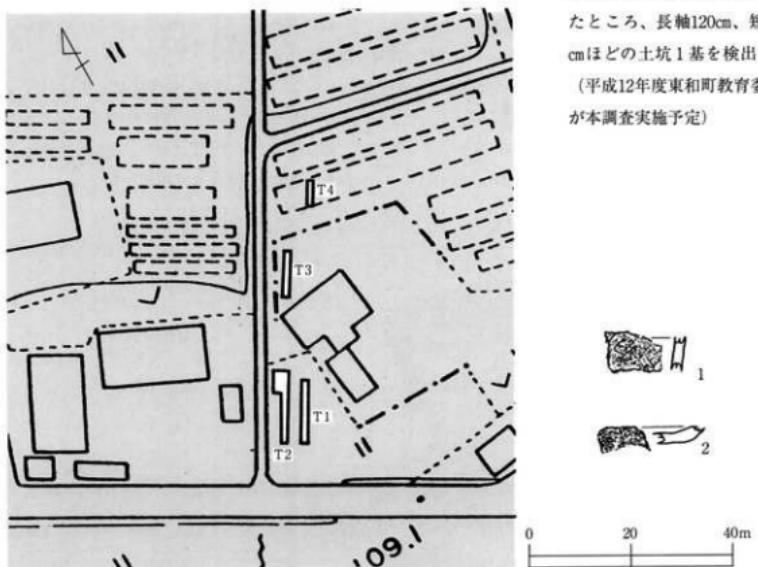
宅地に設定したT3は、自然堆積層が残っており第3層中から土師器片が出土したが、遺構は検出されなかった。また、ビニールハウス跡地に設定したT4は、第3層まで既に削平されており、地山の黄褐色土が

露出していた。遺構検出を行ったところ、長軸120cm、短軸70cmほどの土坑1基を検出した。

(平成12年度東和町教育委員会
が本調査実施予定)



第106図 町井 I 遺跡位置図



第107図 東和町町井 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

37 県営は場整備事業高松第2地区関連調査

楓ノ木Ⅲ遺跡 (ME27-0082)

所在地; 花巻市矢沢地内

事業者; 花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日; 平成11年11月1日～2日（2日間）

遺跡は胡四王山南麓の緩斜面上に立地し、標高は82m～88mほどを測る。現況は河川がつくり出した小扇状地を宅地や水田として利用しており、遺跡の大部分を占める水田によって地形は改変されており、旧地形はほとんど残されていない。調査は、は場整備の計画策定に伴い事前資料を得る目的で実施したものであり、設計上切土になる水田や水路部分及び道路部分に任意に83本のトレーニチを設定した。

調査の結果、遺跡北側から流れ込んでいた河川が二度ほど流れを変え、本来は起伏のある地形をつくり出していたことが分かった。したがって、調査では区域ごとに沢地形と微高地が交互に確認されるような様相であった。

T1～T15の区域では、山裾のトレーニチでは耕作土直下から礫層の堆積が見られたものの、西にいくにつれて湿地的な様相が見られた。調査の結果、この区域ではいずれのトレーニチにおいても遺構・遺物は確認されなかった。

T16～T51の区域では、東側では湿地的な様相であったものの、中ほどから西側では比較的しっかりした黄褐色土の地山が見られ、旧地形では微高地として残っていた範囲であることが分かった。しかし、調査の結果、この区域のいずれのトレーニチにおいても遺構・遺物は確認されなかった。

T52～T83の区域においては、東側で一部湿地的な様相が見られたものの、西側では土層が安定していた。調査の結果、遺跡西端の微高地縁辺部のT67において、地表下25cmで北東から南西方向に伸びる上幅1mほどの溝跡を1条検出した。この溝跡の埋土中から平安時代の土師器片が1点出土しており、該期の遺構になる可能性が高いと判断した。この区域のそのほかのトレーニチからは遺構・遺物ともに確認されなかった。



第108図 楓ノ木Ⅲ遺跡位置図



第109図 花巻市楓ノ木Ⅲ遺跡調査区位置図

38 県営は場整備事業西宮野目地区関連調査

先屋遺跡 (ME 16-1065)

所在地：花巻市西宮野目第8地割地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日：平成11年11月11日

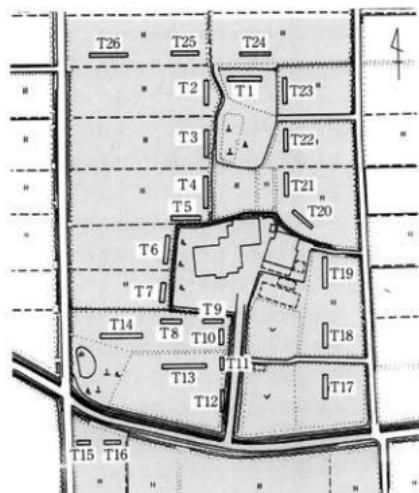
遺跡は北上川支流左岸の河岸段丘縁辺部に立地しており、標高は83m～85mほどを測る。現況は宅地及び水田となっている。本遺跡においては昨年度もは場整備に伴う試掘調査を実施しており、今回の調査区北側で土坑や環濠、陶磁器片等を確認している。そのためこの区域が中世の環濠屋敷跡である可能性が指摘されている。今回の調査もは場整備に伴い実施したものであり、水路部分及び切土になる田面を中心に任意に26本のトレンチを設定した。

水路部分及びパイプラインが入る支道部分には線形に沿って24本のトレンチを設定した。T1～T4及びT22・T23で旧河道の影響によるものと思われる疊層が見られたものの、そのほかのトレンチは土層が安定していた。しかし、調査の結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。

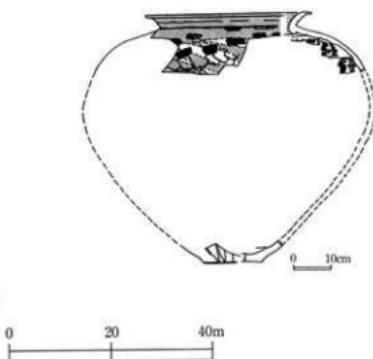
設計上切土となる田面部分には、T13・T14の2本のトレンチを設定した。調査の結果、T14では遺構・遺物が確認されなかったものの、T13において地表より30cm下で径1m前後の土坑2基を検出し、西側の土坑の埋土中より12世紀のものと思われる渥美産の甕の破片が多数出土した。

事業者と協議の結果、田面高の設計変更によりこの遺構は保存することとしたが、これまでの調査例など

から、12世紀の渥美産の甕は経塚で出土することが多く、この出土地点一帯が経塚であった可能性が高いと考えられる。



第110図 先屋遺跡位置図



第111図 花巻市先屋遺跡調査区位置図・出土遺物

39 県営は場整備事業宮野目第三地区関連調査

上似内遺跡 (ME16-0302)

所在地：花巻市似内地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日：平成11年11月11日～12日、12月6日

(3日間)

遺跡は北上川右岸の河岸段丘縁辺部に立地しており、標高は74m～75mほどを測るが、遺跡北端を通るJR釜石線によって南北に分断されている。現況は畑地及び水田となっているが、戦後大規模に水田造成が行われており旧地形はほとんど残っていない。本遺跡は中世城館としても周知されており、地元の人の話では水田造成以前には堀のくぼみが残っていたとのことである。

本遺跡においては、昨年度は場整備実施に伴う基本設計の事前資料入手のために試掘調査を実施しており、JR釜石線の南側で平安時代の土師器を伴う竪穴住居跡1棟を検出している。今年度の調査は、は場整備の設計に基づき主にJR釜石線の北側を中心に、切土になる田面や水路部分及びパイプラインが入る支道部分に任意に39本のトレンチを設定し実施した。

水路部分及びパイプラインが入る支道部分には、計画線に沿って25本のトレンチを設定したが、調査概要是以下のとおりである。

T2～T6はJR釜石線と平行する水路計画ラインに沿って設定したものである。調査の結果、T2は旧地形で低かったところであり、第2層の黒褐色土の堆積が130cmほどと厚くなっていた。東側のT6に向かってだいに傾斜して上がっていくものの、T6においても70cmほどの第2層の堆積が見られた。このラインでは、いずれのトレンチにおいても遺構・遺物ともに確認されなかった。

T7～T11はほぼ南北方向に向かう水路計画ラインに沿って設定したものである。調査の結果、T7北端部で平安時代の土師器壺を伴う焼土跡1基を検出した。黒褐色土中で検出したためプランについては把握できなかったが、該期の竪穴住居跡のカマドになる可能性が高いと考えられる。また、T8で陥し穴になると思われる土坑1基、T9で東西方向に伸びる上幅50cm前後の溝跡1条と複数の柱穴状ピットを検出した。これら



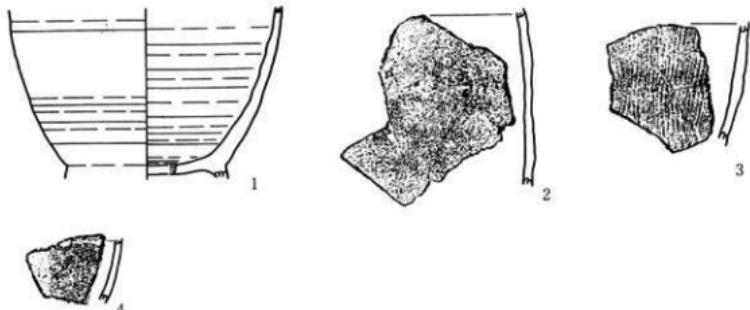
第112図 上似内遺跡位置図



第113図 花巻市上似内遺跡調査区位置図

のトレンチの第2層からは土師器小片が出土している。なお、T10・T11及びこれに隣接する田面に設定したT12は、耕作土直下で地山の黄褐色土が見られ削平されている範囲であることが判明した。

ほぼ南北方向に平行して走るパイプラインが入る支道については、花巻市の都市計画道路の両側に計画されているものである。東側の支道部分については、田面との関係で詳細設計ができているためラインに沿ってトレンチを設定したが、西側の支道部分については、



第114図 花巻市上似内遺跡出土遺物

都市計画道路の詳細設計が決まっていなかったため、田面の調査を兼ねて想定ラインに設定した。

T13～T20は支道計画ラインに沿って設定したものである。調査の結果、T13では遺構は確認できなかつたものの、第2層中から土師器がまとまって出土している。また、T15の第2層中で自然釉のかかった須恵器壺（第114図、1）の破片を伴う焼土跡1基を検出した。プランは把握できなかつたが堅穴住居跡のカマド部分になる可能性が高いと考えられる。T17～T19では遺構は確認できなかつたものの、第2層が土師器の包含層となっていた。なお、田面の調査でも同様の結果が出ているが、T20より北側については遺跡範囲を外れるようである。

T27・T29・T32～T34・T37・T39は支道想定ラインと田面の調査を兼ねて設定したものである。調査の結果、T27・T29については遺構や遺物が確認されず、そもそも遺跡範囲を外れるようである。T32～T34においては遺構や遺物が確認されている。T32においては土師器の包含層、T33においては平安時代の土師器を伴う堅穴住居跡2棟、T34においては複数の柱穴状ピットを確認している。なお、T37・T39については、旧地形が一段低くなり河川堆積による疊層が見られ、遺跡範囲から外れることが判明した。

以上の調査結果を受け事業者と協議したが、水路部分とバイオラインが入る支道部分の遺構や遺物が確認された範囲については、設計変更が難しいため本調査を実施することとした。

切土が計画されている田面部分には計画高にしたがって、JR釜石線の南側に1本、北側に13本の計14本のトレンチを設定したが、遺構や遺物が確認されたトレンチは以下のとおりである。

JR釜石線の南側に設定したT1においては第2層中で土師器の包含層を確認した。前述したとおり南側では昨年度平安時代の堅穴住居跡1棟を検出しておらず、今回の調査結果と併せて南側全面を本調査範囲とした。北側に設定したT22においては、地表下70cmで平安時代の土師器を伴う堅穴住居跡1棟が検出されたが、計画どおり事業を実施しても遺構まで掘削が及ばないため現状保存することとした。また、T26西端の地表下60cmで土師器の包含層、T31の地表下55cmで複数の柱穴状ピットを確認したが、これらの遺構については田面高を調整することで現状保存することとした。

以上の調査結果から、本遺跡は縄文時代には水辺の狩場として、また、平安時代には集落跡として利用されてきたエリアであることが判明した。今回の調査では確認できなかつたが、本調査実施により中世の城館としての様相も明らかなることと思われる。（平成12年度本調査予定）

40 は場整備事業八重畠地区関連調査

宿遺跡（ME17-0110）

宿館（八重畠館）遺跡（ME17-0111）

所在地：稗貫郡石鳥谷町宿地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査日；平成11年12月2日～3日

この地区は、全体が縄文時代の宿遺跡の範囲に当たり、その中に中世の城館跡（宿館遺跡）があるようなので、一括して扱った。遺跡は、北上川が蛇行する部分に面する段丘上に立地している。今回の調査は、は場整備に伴うもので、水路予定部分を中心に、地権者の許可が得られている場所について行った。

調査では、幅1.5m程度のトレンチを13ヶ所入れた（T1～T13）。

その結果、T2、T5、T7、T11、T12から溝状の陥し穴遺構が（T11では4基、T7では2基、他は1基ずつ）、T11では古代の可能性のある溝跡が3条、T3からは中近世と思われる井戸跡が1基、T4からも同じく中近世と思われる掘立柱建物跡が1棟？、T13でも時期不明の円形土坑が1基発見された。遺物の出土は少ないが、T10から土器器の小破片が出土している。なお、地山は、大部分が淡黄色の砂層であった。

本遺跡は、この他、一般県道八重畠小山田線の改良工事（主として拡幅）に関連しても試掘調査している。トレンチは、総延長1,100mのうち拡幅部分に8本設定したが、一部トレンチで流れ込みの縄文土器小片が出土した以外に埋蔵文化財は確認されなかった。



第115図 宿・宿館遺跡位置図



第116図 石鳥谷町宿・宿館遺跡調査区位置図

41 主要地方道一関北上線緊急地方道路整備事業関連調査

館Ⅱ遺跡（ME 66-1237）

所在地：北上市立花第3地割

事業者：北上地方振興局土木部

調査期日：平成11年7月21日、12月10日

遺跡は、北上川左岸の自然堤防上に立地している。標高は58m前後を測る。遺跡の現況は、宅地、畑地、水田で、今回の調査範囲は、畑と宅地であった。

今回の調査は、地方道整備事業に伴うもので（主として歩道敷設）、道路の東側を7月に（T3）、西側を12月に（T1、2）調査した。

道路の東側では、調査範囲が狭く排土を出す場所がなかったため、幅約1.5m、長さ約3mのトレンチを1本入れたのみだが、地表下80cmで遺構が確認された（T3）。

基本層序は、以下の通り。I層：表土（耕作土）35cm、II層：暗褐色土（粘土）40cm、III層：暗黄褐色土（遺構検出面）層厚不明。III層上面で遺構が検出され、試掘トレンチが狭く遺構を避けて掘り下げることができなかっただため、III層以下については確認していない。

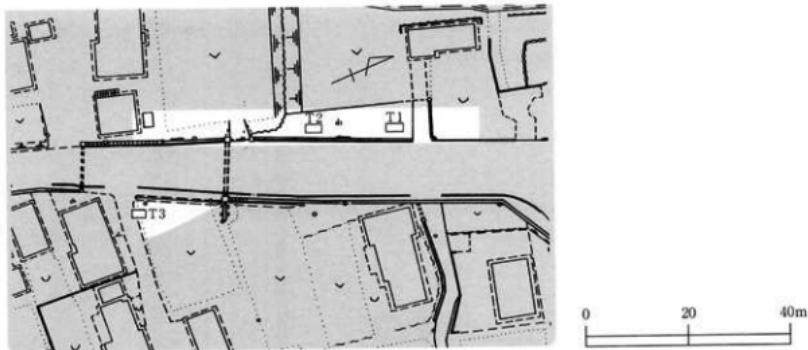
確認された遺構は、トレンチの範囲では全容がつかめず不明だが、その大きさと形から、古代の竪穴住居跡か溝跡と思われ、埋土に多くの炭化物と土器（土師器）片が含まれていることから、竪穴住居跡の可能性が高い。

トレンチの周囲では、地表面にも多くの土器片が散在しているのが認められ、遺構の密度はかなり高いものと推定される。

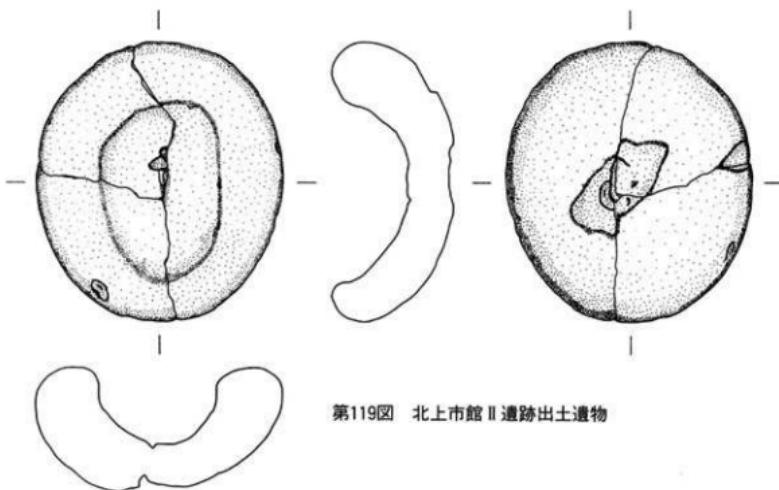
岡の石鉢（？）も、周辺から発見された。3片に割れている。やや不整形で、自然縁に近い。



第117図 館Ⅱ遺跡位置図



第118図 北上市館Ⅱ遺跡調査区位置図



第119図 北上市館Ⅱ遺跡出土遺物

道路の西側では、T 3と同じ大きさのトレンチを2ヶ所入れたが（T 1、2）、いずれのトレンチからも遺構、遺物は発見されなかった。

基本層序は、次の通り。I層：表土（耕作土）10cm、II層：褐色土（盛土）30~50cm、III層：黒褐色土（T 1のみで確認。粘土質）40cm、IV層：青灰色土（T 2でのみ確認。泥炭質）層厚不明、V層：黄褐色土（T 1でのみ確認。地山）層厚不明。

T 2では、IV層を1m以上掘り下げたが、地山を確認する事はできなかった。また、土層の様子から、この地点は湿地であった可能性が高い。

以上の結果、遺構が確認された道路東側部分について、別途本発掘調査を実施することにした。

本遺跡は、以前縄文時代中期の土器が採取されており、縄文の散布地として登録されている。今回は、古代の遺構、遺物、それに中世の可能性のある遺物が発見されたが、本発掘調査では、縄文時代の遺構、遺物が発見される可能性もある。（平成12年度本調査予定）

42 花巻空港整備事業関連調査

大西遺跡 (ME 06-2345)

所在地：稗貫郡石鳥谷町八重畠

事業者：花巻空港建設事務所

調査期日：平成11年11月18日

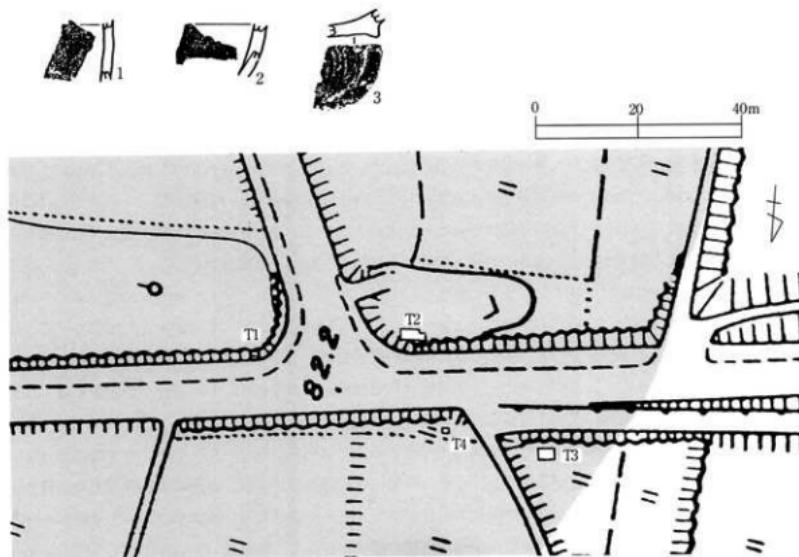
北上川左岸の沖積地上に存在する微高地上に立地する。標高は80m前後を測り、現況は水田・畑地・荒地である。

調査の結果、T 3 は T 1・T 2・T 4 に比べて低位面にあり、かつ暗褐色粘土層の下に暗褐色の砂層が入っていること、T 3 より低位面では水をかぶりやすい地点であるとのことから、暗褐色の砂層はかつての洪水の際に堆積したものと推定される。

遺構は全トレンチで確認することができなかったものの、T 2、T 4 の暗褐色砂質土中より底部糸切りのロクロ成形による土師器が確認されていることから、少なくとも平安時代の遺物包含層の存在が推定される。なお、T 1 部分ではトレンチ設定部分では遺構は確認できなかったものの、T 2、T 4 より高位面であり、さらにT 1 を設定した畑地で縄文土器片を採取していることから、発掘調査が必要な区域であると判断した。(平成12年度本調査予定)



第120図 大西遺跡位置図



第121図 石鳥谷町大西遺跡調査区位置図・出土遺物

43 県営は場整備事業一関第2地区関連試掘調査

里遺跡 (NE 66-2119)

所在地：西磐井郡平泉町長島字里地内

事業者：一関地方振興局一関農村整備事務所

調査日；平成11年10月12日～10月14日

12月6日～12月10日（8日間）

里遺跡は、JR東北本線平泉駅の北北東約2kmにあり、北上川左岸の自然堤防上に立地している。現況は主に水田であるが、北上川遊水地事業以前は宅地も点在していた。遺跡の標高は24mの平坦面であり、北上川寄りの一段低い水田面とは1m弱の比高がある。

今回の試掘調査は、は場整備事業が遺跡範囲全域に及ぶため10月と12月の2期に分け、10月調査では主に遺跡の北半分を、12月調査では遺跡の南半分を対象に試掘調査を行った。

遺跡の層序は自然堤防上の立地のため、砂・シルトを中心とする土層が厚く重なり合う状況であった。表土（1層）は主に水田耕作土であったが、客土により盛土を行っている場所があった。2層は黄褐色砂層で、部分的に2層上部が暗褐色になる地点があり、また中層に古代の遺構検出面があると考えられる。2層下層は、3層黄褐色シルトを挟んで4層の褐色土層となる。褐色土層中には炭化物粒が顕著に含まれていた。5層は層厚1m以上の黄褐色砂層となり、この層の上面が最終的な遺構検出面となると考えられる。

10月調査では、幅1.8m程の細長いトレンチを30箇所設定した（T1～T30）。T2では、地表下150cmの2層黄褐色砂層中に、炭化物を顕著に含む層が検出され、古代の土器（土師器）片も1点出土した。また、T2の北側では4層褐色土層下（地表下210cm）で柱穴状土坑が2個検出された。T5では、地表下20cmの2層黄褐色砂層中で焼土が3基発見され、その周囲から古代の土器片（土師器の壺、須恵器の壺等）が出土している。破片が多く、ある程度まとまった形で出土していることから、本来は完形のままで存在していた可能性が高い。検出された焼土と土器と関係から、焼土については竪穴住居跡に伴う遺構の可能性がある。また、焼土の付近から常滑産の大壺の破片が1点出土している。T28の中央付近では、地表下70cmの2層黄褐色砂層中で、80cm×70cm程の楕円形を呈する黒いしみ状のものが検出された。その黒いしみの中には炭化物・焼土粒が含まれており、土壤の可能性が考えられる。T29では、地表下80cmの2層黄褐色砂層下部で、トレンチを横断する幅40cm程度の溝状の痕跡（塊状の炭化物を含む）が確認された。

12月調査では、10月と同様のトレンチを47箇所設定した（T31～T77）。T42～43付近では、かわらけの大型破片が10点前後出土している。T52では、古代の土器（土師器）の大型の破片が出土しており、この周辺に古代の遺構の存在が想定される。T63では、多量の近世遺物が出土しており、T64～66、T70では柱穴が検出されていることから、この地区に近世頃の掘立柱建物がいくつか存在した可能性が想定される。T76では、縄文晩期～弥生初頭の土器片が出土している。

調査の結果、遺跡北側と南側を中心に遺構面が存在することが明らかになった。2層から4層にかけて、水性堆積による砂層・シルト層が重なるが、それらの間に炭化物層や焼土面、遺構検出面等があり、縄文～弥生時代、古代～中世、近世それぞれの時代の遺構が重なりあって存在しているようである。遺跡内の分布でいえば、北側に縄文～弥生時代、古代～中世、近世の遺構が分布し、南東側（T42～T43とT57～T66）



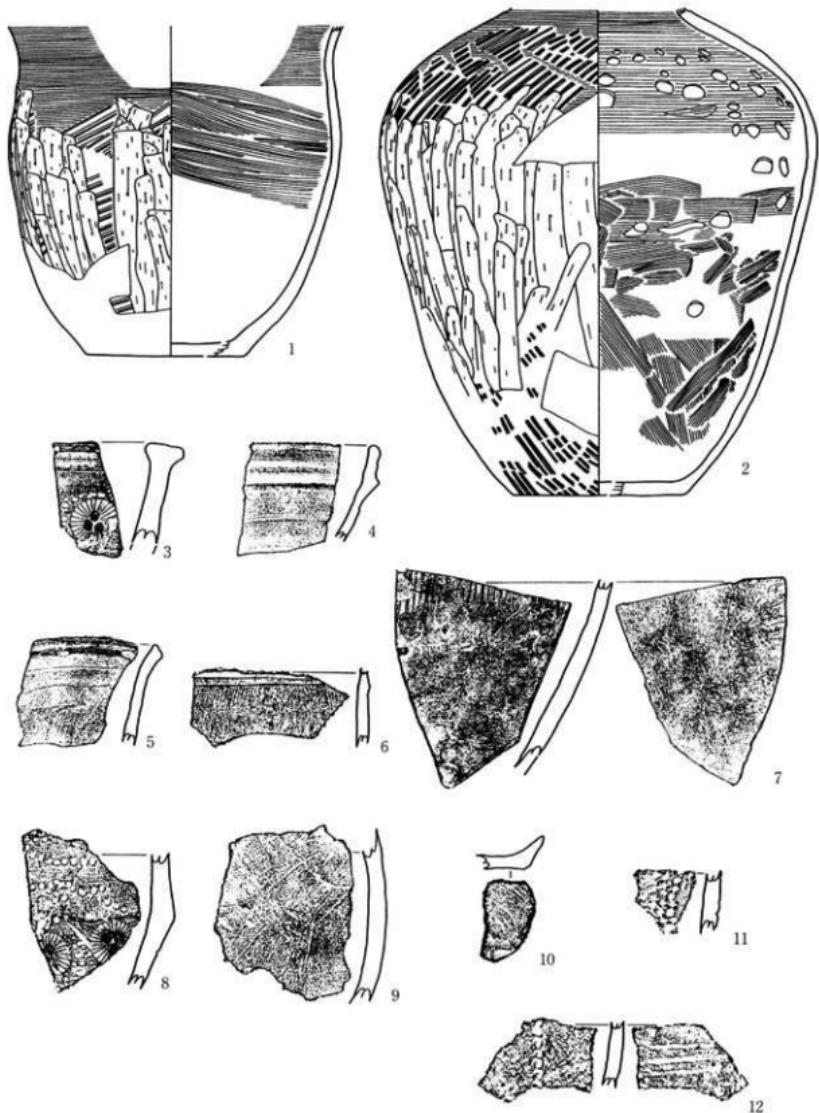
第122図 里遺跡位置図



第123図 平泉町里遺跡調査区位置図

に、古代末から中世初め（12～13世紀頃）と近世の遺構が想定される。北側でもT5付近では12世紀頃の遺構の存在が想定される。

12世紀頃の遺物が確認されていることから、本遺跡の一部地域が北上川対岸の平泉遺跡群との密接な関係が想定される。また、遺跡の南側では近世の掘立柱建物の柱穴が確認されていることから、近世の集落が存在したものと考えられる。（平成12年度本調査予定）



第124図 平泉町里遺跡出土遺物

44 ほ場整備事業猫川左岸地区関連調査

宇南田 I 遺跡 (ME 66-1289)

新規遺跡 (ME 66-1375)

深沢遺跡 (ME 66-2239)

所在地：遠野市上郷町左北内宇南田

事業者：遠野地方振興局遠野農村整備事務所

調査日：平成11年11月4日～5日、

平成12年1月6日～7日

宇南田 I 遺跡は、遠野盆地の東端部猫川の左岸に形成された扇状地上に位置する。現況は水田及び畑地であり、標高は400m前後を測る。

T 1、T 2 は、現地形から旧河道と推定していたが、礫をほとんど含まない層が検出され、それとは異なった

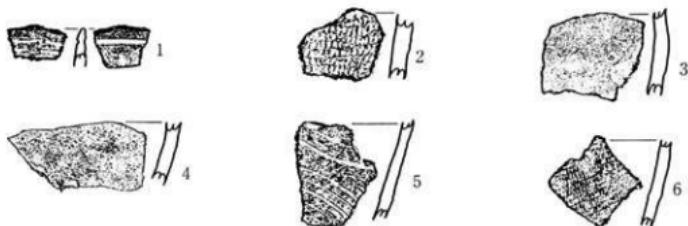
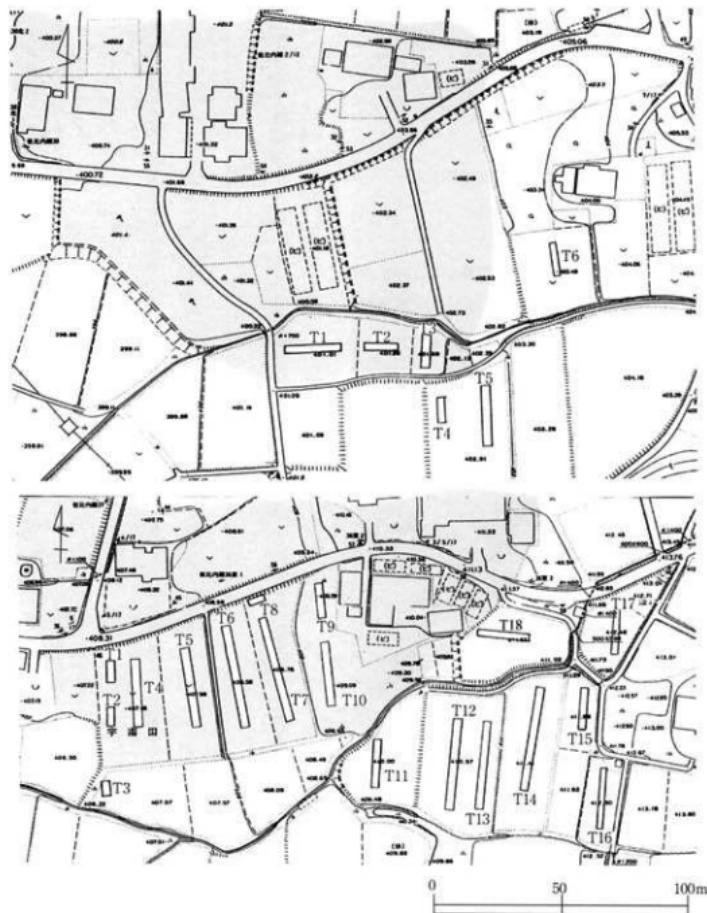


第125図 宇南田 I 遺跡位置図



第126図 遠野市深沢遺跡調査区位置図

ものであることが明らかとなつた。T 2 では、残りは良くないが、径80cmの円形の土坑状遺構が確認され、繩文土器片が出土した。このことから、南側に遺跡が延びる可能性が出てきたため、T 4・T 5 を設定したが、グライ化した土壤が厚く堆積し、遺跡としての立地は認められなかつた。T 6 は畑地内にトレンチを設定したが、やや腐食した第3層（黄褐色砂礫層）が堆積していることが確認された。現在資材置き場として利用されている地域の周辺については、1.2～2m程度の盛土がされていること、黒色土が周辺トレンチよりも厚く堆積していること等から、T 6 までと比べると地山面は低いことが推測され



第127図 遠野市宇南田Ⅰ(上)・ME66-1375(下)遺跡調査区位置図・出土遺物

た。T 7以降については、遺構・遺物は、確認できなかった。

以上のことから、本遺跡の範囲は、現在周知している範囲を中心としていることが明らかとなった。(平成12年度本調査予定)

ME66-1375は、遠野盆地の東端部猫川左岸に形成された扇状地上の微高地に位置する。現況は水田及び畑地であり、標高は410~413m前後を測る。

調査の結果、T 1 ~ T 9では、基本的に表土下に若干の盛土（切り土）が認められ、その下位に遺物を包含する厚さ0~30cmの暗褐色土が確認された。この層は特に現在の田区西側に厚く残る。層中に遺物を多量に含む部分とほとんど含まない部分があるが、T 5、T 7では、黄褐色砂礫層中に本層に近い土質の層が円形に落ち込む箇所が認められるところから、部分的に遺構を形成するものと考えられる。T 1、T 2、T 8においても同様である。T 11~T 15からは、表土中でごく少量の縄文土器の細片が出土するが、直下に遺物包含層である礫混じりの暗褐色土層が確認されず、地山である黄褐色砂礫層上部が削平された状況で、人頭大の礫が多量に含まれる箇所がほとんどである。T 16では、黄褐色の土層（3層の礫を含まないものか）が検出されたが、遺構は確認されなかった。T 17、T 18では、青灰色の砂礫層が表土下80cm堆積し（一部盛土整地層を含む）、遺構・遺物の所在する可能性は低いものと考えられる。T 16、T 17より北東側では、多くのトレンチで礫混じりの暗褐色土層が確認されている。地元の方の話では、山津波がかつてあったということから、確認されている礫混じりの暗褐色土層はその際に堆積したものであると推測される。また、表土直下に泥炭層が確認されており、現況でも水のたまりやすい部分があることから、T 16、T 17より北東側では、遺跡の存在は考えにくいと思われる。

深沢遺跡は、丘陵裾部の東向き緩斜面上に立地する。現況は畑地及び水田であり、標高は407m前後を測る。

現況地形は緩斜面であるが、いずれもトレンチ西半分を削平し、東側に押し出して緩斜面をつくりだしていること、T 16~T 24では、砂礫層や湿地的な様相が見られ、沢が入っていたエリアであることが判明した。

調査の結果、T 3において、表土下25cmで古代の堅穴住居跡が検出された。共伴する遺物が出土していないため、時代については不明であるが、一辺が5m程度で西側に竈をもつものである。また、T 4、T 6、T 11において、それぞれ1基、T 7で2基、表土下40~50cmで陥し穴が検出されている。また、T 6で3基、T 11で1基、表土下50cm前後で径1m前後の円形の土坑が検出された。

遺物については、遺跡内の畑地で多数表探できるものの、T 1、T 2の表土中で摩滅した縄文土器がそれぞれ1点出土したのみである。

以上の調査結果から、遺跡の範囲は西側の国道を越えて丘陵に広がるものと推定される。(平成12年度本調査予定)

45 ふるさと農道緊急整備事業要害地区関連調査

鳥喰Ⅲ遺跡 (N.F91-2244)

所在地：東磐井郡千厩町要害地内

事業者：千厩地方振興局千厩農村整備事務所

調査期日：平成11年12月17日

鳥喰Ⅲ遺跡は、JR千厩駅の東約1.5kmに位置し、北流して千厩川に注ぐ小規模な沢沿いにわずかに張り出した細長い平坦部に立地している。遺跡の標高は143m前後を測り、現況は山林であるが以前は水田として利用されていた時期がある。平坦部の幅は約15mで、自然地形を残す部分と、開田等により平坦に造成された部分がある。

今回の調査では、事業予定区域内に6本のトレンチを設定し、重機及び人力による表土の除去と遺構検出を行った。

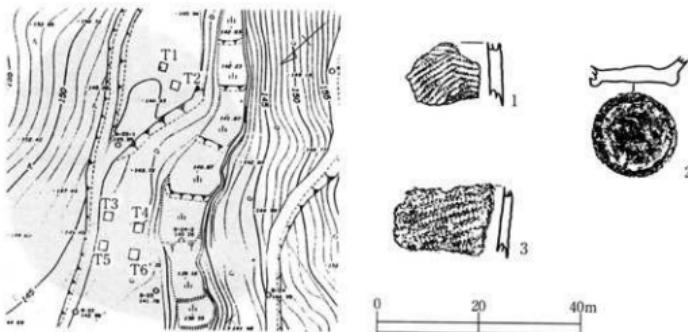
調査の結果、南側に設定したT1・2で縄文土器が出土している。いずれも過去に開田された部分であるが、表土下にやや暗褐色の遺物を包含する層が確認されている。炭化物も認められることから、遺構を形成している可能性もある。この付近では谷地田に面した崖面でも縄文土器が採集できた。

T3～6は、それより一段低い自然地形をそのまま残している山裾部に設定している。この部分では、崖錐性と考えられる人頭大の角礫が多く混入し、黒色土の堆積が厚い。黒色土中には炭化物も含まれず、腐食の様相等も認められないことから、これらの範囲は遺跡から外れるものと判断した。遺跡の範囲はT1からさらに南側に延びるものと予想される。

掲載した遺物は、いずれも粗製の深鉢の破片である。(平成12年度本調査予定)



第128図 鳥喰Ⅲ遺跡位置図



第129図 千厩町鳥喰Ⅲ遺跡調査区位置図・出土遺物

46 町道織笠外山線道路改良工事関連調査

細浦IV遺跡 (MG04-0039)

所在地；下閉伊郡山田町織笠第12地割地内

事業者；宮古地方振興局土木部

調査日；平成11年8月26日

遺跡は山田湾に舌状に張り出した丘陵の尾根部に立地しており、標高は20m~30mほどを測る。現況は山林となっている。調査は町道織笠外山線の道路改良工事に伴い遺跡の一部が消滅するために実施したものであり、尾根突端の平坦部及び頂部に向かう緩斜面に任意に2本のトレンチを設定した。調査に当たっては、分布調査を実施した山田町教育委員会の担当者の立会を得た。

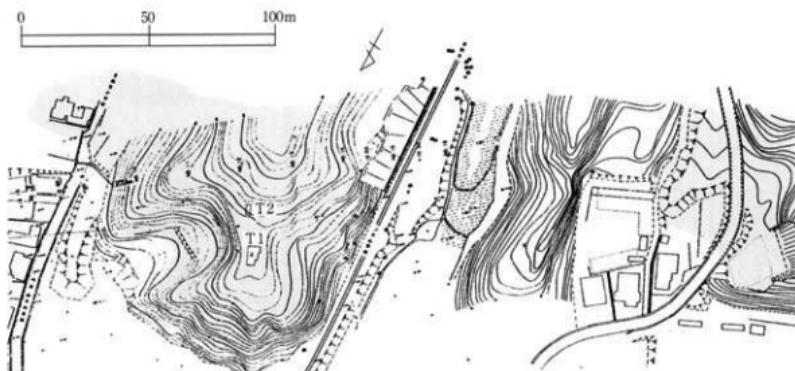
T1は尾根突端の平坦部に設定した。重機で3m×5mほどの範囲を表土から徐々に下げていったところ、表土下で層厚2cm前後の炭化物層が確認された。この炭化物層を重機で取り除いた後、人力で遺構検出を進めたが、長軸2m×短軸1.2mの隅丸方形を呈する炭窯を1基検出した。周囲についても人力で精査したが、遺構はこれのみで遺物については出土しなかった。遺物が出土しなかったためこの炭窯の時期については不明であるが、尾根突端部につくられているという立地を考えると、下閉伊沿岸部のこれまでの調査例から古代までさかのぼる可能性が考えられる。

つづいて古代の遺構を想定し、T1の南側の緩斜面にT2を設定した。重機で第3層の暗褐色土直上まで下げ、その後人力で遺構検出を行ったが、このトレンチでは炭化物等も見られず、遺構・遺物も確認されなかつた。

今回の工事範囲には入らなかったが、調査区南側の標高30mほどの丘陵頂部にも平坦部があり、遺跡の中心はこの平坦部になるものと思われる。(平成12年度山田町教育委員会が本調査予定)



第130図 細浦VI遺跡位置図



第131図 山田町細浦IV遺跡調査区位置図

47 湯舟沢火山砂防事業関連調査

けやきの平団地遺跡隣接地 (KE 85-1261)

所在地：岩手郡滝沢村滝沢湯舟沢地内

事業者：盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成11年6月28日

調査は、事業予定地が周知の遺跡のけやきの平団地遺跡に隣接し、砂防ダム工事に関して新たに埋蔵文化財の分布が確認されたことにより行ったものである。

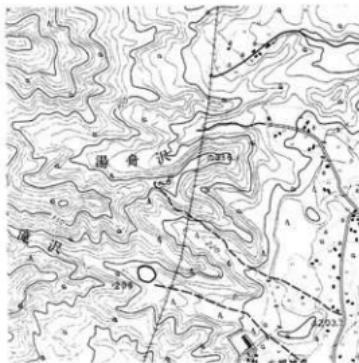
この事業は平成7年から部分的に実施されてきているもので、今回縄文土器が採集出来たのは、工事用道路により開削されてヤードが形成されてきている部分で、図中T4・T6より西側部分を中心としている。

このためダム堰堤から延びる流路口予定の平坦地を遺跡の中心部と想定し、T1～T4を設定したその結果、この範囲では現在の小河川が頻繁に氾濫して形成された疊層が主体となって堆積しており、遺跡立地の条件は認められなかった。

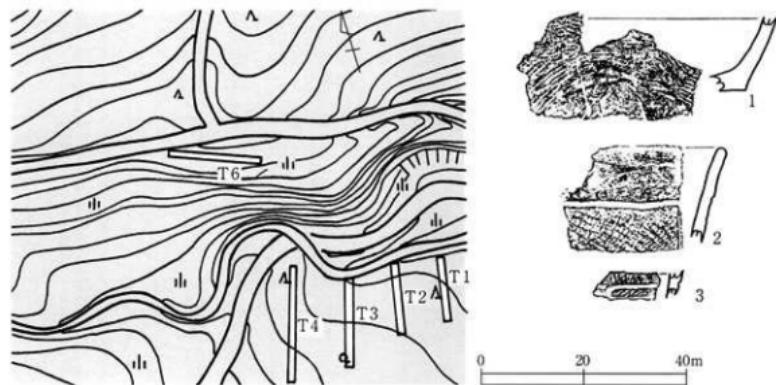
次にT3・T4では南側斜面にトレーニチを延長し、埋蔵文化財の有無を確認したが、同様に埋蔵文化財の出土はなかった。このことからトレーニチからダム堰堤間の平坦地についても同様に判断出来るものと考えられる。

一方、北側斜面については、遺物包含層が予想されたためT5を設定したが、やはり埋蔵文化財の確認はなかった。さらに、北側尾根の張出部分についてもT6を設定したが、ここも同じであった。

なお、縄文土器片が出土したヤード部分の黒色土については、団地西側の斜面より土取りしたものであることが判明したが、現在残っている斜面部分では遺物は確認出来なかった。



第132図 けや木の平団地遺跡隣接地位置図



第133図 滝沢村けやきの平団地遺跡隣接地調査区位置図・出土遺物

48 県単交通安全施設整備事業関連調査

太田VI遺跡（LE 56-1272）

所在地：紫波郡矢巾町太田地内

事業者：盛岡地方振興局土木部

調査日；平成11年1月25日

本遺跡は、北上川右岸の河岸段丘上に立地し、遺跡の北側を五内川が東流している。現況は水田であり、標高は114m前後を測る。

今回のトレンチは、約140mの範囲で事業予定地の東側のエリアに合計5本のトレンチを設定した。

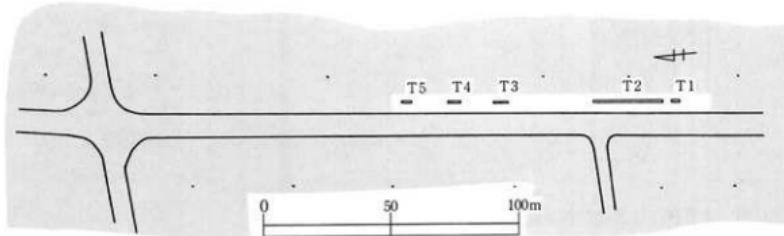
遺跡の基本層序は、まず耕作土である表土が約20cm前後ある。その下に遺構確認面であり、地山でもある黄褐色土がある。さらにその下には青灰色の粘土層があり、河川など何らかの水の影響を受けていたエリアであることが推定される。

調査の結果、T2のほぼ全域で平安時代の土師器及び須恵器が確認されている。しかし、この付近においても近年は場整備が行われていることから、遺物は表土直下の擾乱層からも一部出土している。遺物を含む層は暗褐色を呈していることから、本来は遺構埋土であった可能性が高いと考えられる。一部で焼土も検出されたが、遺存状態が良好な遺構は確認できなかった。は場整備の際に土の移動などで遺存状態が悪くなつた可能性も考えられる。

T3以北では若干地山レベルが下がることから、遺跡の広がりを確認することはできなかった。今回の試掘調査及び、周辺地形の状況などから、本遺跡は舌状に張り出した狭い範囲に形成された集落跡であると考えることができる。（平成12年度本調査予定）



第134図 太田VI遺跡位置図



第135図 矢巾町太田VI遺跡調査区位置図

49 家畜保健衛生所施設整備事業

砂込Ⅲ遺跡（KE76-0172）

所在地；滝沢村滝沢字砂込地内

事業者；岩手県農政部畜産課

調査期日；平成11年10月4日・5日

遺跡は、岩手山を起源とする火山灰台地上に立地する。標高は約260mを測る。

今回の調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地砂込Ⅲ遺跡に隣接して土木工事が予定されていることから、埋蔵文化財の有無について確認したものである。現在、グランドとして整地されているため、地表面では全く観察できない。

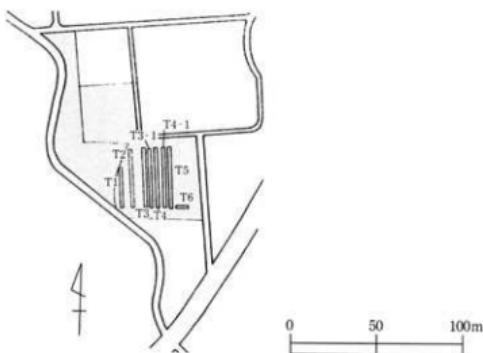
調査は、グランド南北方向に長さ36~71m、幅2mのトレンチを15mの等間隔で設置した。

西端に設置したT1・T2では、地山まで2~2.5mの盛土が施される。中央部付近に設定したT3・T4は、調査区西側と比較して、地山がやや高くなる部分であることを確認した。T4より長楕円形を呈する陥し穴を1基検出した。T5では、一部砂礫層が確認され、遺構の検出はなかった。T6では、表土直下で地山を確認した。

以上の結果、現在の地形は、グランド中央部分に尾根をもつ地形が、南北及び西側に盛土造成されて平坦化されていることが確認された。盛土下の土壤堆積は良好なことから、遺構等が所在した場合は削平部分のみ壊滅したと考えられる。よって、縄文時代の遺構が所在する可能性は高いと判断される。また、土層観察の結果、この地域に分布する生出スコリアや堀切火山灰などの各時期のテフラが良好に見られる。（平成12年度本調査予定）



第136図 砂込Ⅲ遺跡位置図



第137図 滝沢村砂込Ⅲ遺跡調査区位置図

50 平成11年度試掘調査一覧

No	日 期	事 件 名	事 件 案 着	事 件 案 着	地 名	所 在 地
1	平成10年10月12日～平成11年4月26日～27日	国宝馬鹿山山頂貴重水利用権 相い手育成監督権事業子地区	農林省東京農政局山口課時 官 手 令 政 官 手 令 政	官 手 令 政 官 手 令 政	一ノ井町	
2	平成11年1月21日～25日、3月10日～11日、6月12日～23日	相い手育成監督権事業子地区	官 手 令 政 官 手 令 政	官 手 令 政 官 手 令 政	北上町	
3	平成11年2月12日～25日、3月10日～11日、6月12日～23日	相い手育成監督権事業子地区	官 手 令 政 官 手 令 政	官 手 令 政 官 手 令 政	北上町	
4	平成11年2月12日～25日、3月10日～11日、6月12日～23日	相い手育成監督権事業子地区	官 手 令 政 官 手 令 政	官 手 令 政 官 手 令 政	北上町	
5	平成11年2月12日～25日、3月10日～11日、6月12日～23日	相い手育成監督権事業子地区	官 手 令 政 官 手 令 政	官 手 令 政 官 手 令 政	北上町	
6	平成11年3月16日～5月6日～7日	小山谷と農業整備権事業子地区	相い手育成監督権事業子地区	官 手 令 政 官 手 令 政	千厩町	
7	平成11年3月16日～5月6日～7日	小山谷と農業整備権事業子地区	官 手 令 政 官 手 令 政	千厩町		
8	平成11年4月16日	東北新幹線工事	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	岩手町	
9	平成11年4月16日	北上川上流域土木事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	岩手町	
10	平成11年4月20日	中田開発監督事業者認定地区	官 手 令 政 官 手 令 政	田代町		
11	平成11年4月22日～23日	中山間地域合意監督権事業者認定地区	官 手 令 政 官 手 令 政	安代町		
12	平成11年4月22日～23日	中山間地域合意監督権事業者認定地区	官 手 令 政 官 手 令 政	安代町		
13	平成11年4月23日	既存交通全般整備事業	官 手 令 政 官 手 令 政	奥州市		
14	平成11年4月26日	地方特定整備事業今通地区	官 手 令 政 官 手 令 政	釜石市		
15	平成11年4月26日	宮古馬鹿山山頂貴重水利用権 東北新幹線建設以辯成事業	農林省東京農政局山口課時	一ノ井町		
16	平成11年5月11日～12日	主要地方道路和幹線沿線地質改良工事	官 手 令 政 官 手 令 政	一ノ井町		
17	平成11年5月13日	小山谷と農業整備事業者認定地区	官 手 令 政 官 手 令 政	花巻市		
18	平成11年5月13日	地方特定整備事業者認定地区	官 手 令 政 官 手 令 政	田野畠村		
19	平成11年5月19日	中山間地域合意監督権事業	官 手 令 政 官 手 令 政	伊藤町		
20	平成11年5月21日	小山谷と農業整備事業	官 手 令 政 官 手 令 政	静岡市		
21	平成11年5月25日～26日、6月2日	利尻島改良農業 大野地区	官 手 令 政 官 手 令 政	利尻町		
22	平成11年5月27日	宮古馬鹿山山頂貴重水利用権 盛岡圓滑市街地及び市街地公園事業9・7・1号排水渠公園山地公園区整備	官 手 令 政 官 手 令 政	九戸村		
23	平成11年5月28日	既存道路改良事業	官 手 令 政 官 手 令 政	釜石町		
24	平成11年6月4日	既存道路改良事業	官 手 令 政 官 手 令 政	住田町		
25	平成11年6月7日	既存道路改良事業	官 手 令 政 官 手 令 政	船田町		
26	平成11年6月7日、11月8日	相い手育成監督権事業者認定地区	官 手 令 政 官 手 令 政	本沢町		
27	平成11年6月7日、11月8日	相い手育成監督権事業者認定地区	官 手 令 政 官 手 令 政	本沢町		
28	平成11年6月8日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	本沢町	
29	平成11年6月8日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	本沢町	
30	平成11年6月8日	相思久山山麓整備事業	官 手 令 政 官 手 令 政	花巻市		
31	平成11年6月9日	櫛河川流域名所川改修事業	官 手 令 政 官 手 令 政	花巻市		
32	平成11年6月9日	相思久山山麓整備事業	官 手 令 政 官 手 令 政	花巻市		
33	平成11年6月10日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	本沢町	
34	平成11年6月10日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	本沢町	
35	平成11年6月14日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	本沢町	
36	平成11年6月15日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	本沢町	
37	平成11年6月15日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	本沢町	
38	平成11年6月15日、7月5日、16日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	本沢町	
39	平成11年6月15日、7月5日、16日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	官 手 令 政	本沢町	
40	平成11年6月17日	第三種地方整備事業者認定事業	官 手 令 政 官 手 令 政	一ノ井町		
41	平成11年6月17日、10月30日、12月22日、平成12年1月24日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	一ノ井町		
42	平成11年6月18日	第三種地方整備事業者認定事業	官 手 令 政 官 手 令 政	柳沢村		
43	平成11年6月21日	相思久山山麓整備事業	日本資源公团山口課時	大泉町		
44	平成11年6月21日	東北新幹線建設事業	日本資源公团山口課時	遠岡市		
45	平成11年6月22日、9月2日、10月27日、11月19日	第三種地方整備事業者認定事業	官 手 令 政 官 手 令 政	柳沢村		
46	平成11年6月25日	新潟路線改良事業	官 手 令 政 官 手 令 政	九戸村		

No.	調査日	事名	事業者	業種	所在地
47	平成11年6月28日	温泉形火山浴場	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
48	平成11年6月29・30日	中国地城山介護事業者組合	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
49	平成11年6月29・30日	岩手空港管理委託事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
50	平成11年6月29~30日	温泉形宮園施設事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
51	平成11年7月7日	温泉形新良牧業	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
52	平成11年7月7・8日	国土八日町温泉建設事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
53	平成11年7月12日	上條地方道路整備事業会社	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
54	平成11年7月21日	上條地方道路整備事業会社	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
55	平成11年7月21日、10月8日	磐梯町道場温泉	岩手県・木造	温泉形火山浴場	磐梯町
56	平成11年7月21日、11月18日、12月16日	無田特定酒店物販事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
57	平成11年7月21日、12月16日	無田特定酒店物販事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
58	平成11年7月21日、12月16日	上條地方道路整備事業会社	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
59	平成11年7月26日	東北自動車道上り線(大館)付近林道工事	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
60	平成11年7月26日	東北自動車道下り線(大館)付近林道工事	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
61	平成11年7月26日	ふるさと農業生産委員会農業活性化会議	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
62	平成11年7月27日	上條地方道路整備事業会社	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
63	平成11年8月2日	東北新幹線建設事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
64	平成11年8月2日	東北新幹線建設事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
65	平成11年8月2日	ふるさと農業生産委員会農業活性化会議	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
66	平成11年8月2日	ふるさと農業生産委員会農業活性化会議	岩手県・木造	温泉形火山浴場	岩手市
67	平成11年8月17日、11月4日	熱谷は場敷地改修工事	岩手県・木造	温泉形火山浴場	宮守村
68	平成11年8月20日	熱谷は場敷地改修工事	岩手県・木造	温泉形火山浴場	宮守村
69	平成11年8月20日	熱谷は場敷地改修工事	岩手県・木造	温泉形火山浴場	東和町
70	平成11年8月25日	熱谷は場敷地改修工事	岩手県・木造	温泉形火山浴場	石鳥谷町
71	平成11年8月25日	山田代行(温泉改修)事業	岩手県・木造	温泉形火山浴場	宮守村
72	平成11年8月26日	一級河川奥羽山崎川治川防災事業	岩手県・木造	温泉形火山浴場	山田町
73	平成11年8月30日	一級河川奥羽山崎川治川防災事業	岩手県・木造	温泉形火山浴場	山形村
74	平成11年8月31日	山形防除事業	岩手県・木造	温泉形火山浴場	山形村
75	平成11年8月31日	ふるさと農業生産委員会農業活性化会議	岩手県・木造	温泉形火山浴場	金ヶ崎町
76	平成11年9月1日	船橋通人(温泉改修)事業	岩手県・木造	温泉形火山浴場	大野町
77	平成11年9月1日	船橋通人(温泉改修)事業	岩手県・木造	温泉形火山浴場	山形村
78	平成11年9月16~7日	松島温泉事業者組合	岩手県・木造	温泉形火山浴場	山形村
79	平成11年9月17~8日	ふるさと農業生産委員会農業活性化会議	岩手県・木造	温泉形火山浴場	葛巣町
80	平成11年9月17~8日	ふるさと農業生産委員会農業活性化会議	岩手県・木造	温泉形火山浴場	山形村
81	平成11年9月7日~8日	松島温泉事業者組合	岩手県・木造	温泉形火山浴場	山形村
82	平成11年9月10日、10月20日	熱谷は場敷地改修工事	岩手県・木造	温泉形火山浴場	大野町
83	平成11年9月20日	ふるさと農業生産委員会農業活性化会議	岩手県・木造	温泉形火山浴場	山形村
84	平成11年9月20日	一級河川奥羽山崎川治川	岩手県・木造	温泉形火山浴場	本沢市
85	平成11年9月20日	在吉井温泉事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	在吉井
86	平成11年9月21日	急行地盤改良事業(吉野村頭代工)	岩手県・木造	温泉形火山浴場	葛巣町
87	平成11年9月21日	一級農道整備事業(大森地区)	岩手県・木造	温泉形火山浴場	大東町
88	平成11年9月24日	急行地盤改良事業	岩手県・木造	温泉形火山浴場	一口市
89	平成11年9月24日	急行地盤改良事業	岩手県・木造	温泉形火山浴場	一口市
90	平成11年9月23日、10月14日	流城下木の田沢深谷整備事業3~3工事	岩手県・木造	温泉形火山浴場	盛岡市
91	平成11年9月23日、10月12日~10月19日	地方特定酒店物販事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	花巻市
92	平成11年9月24日~25日、10月26日~28日、11月12日	地方特定酒店物販事業者	岩手県・木造	温泉形火山浴場	花巻市
93	平成11年9月24日~25日、10月26日~28日、11月12日	一級河川4号小鳥谷川	岩手県・木造	温泉形火山浴場	花巻市
94	平成11年9月24日~25日、10月26日~28日、11月12日	一級河川4号小鳥谷川	岩手県・木造	温泉形火山浴場	花巻市

年 月 日	事 業 名	事 業 主 管 部 門	事 業 地 點	所 在 地
95 平成11年 9月21日～25日、10月26日～11月22日	輸出酒類(小樽)販賣	建設省東北地方整備局(小樽)	建设省東北地方整備局(小樽)	小樽市
96 平成11年 9月29日	在色々亭整備事業	手 廉 政 部(行政)道路	手 廉 政 部(行政)道路	花巻市
97 平成11年 9月29日～10月4日	城下町水道計画第4～2～4～3工区整备工事	手 廉 政 部(行政)道路	建设省東北地方整備局(大水路跡)	函 沢 市
98 平成11年 9月30日～10月4日	御所ダム建設事業	建设省東北地方整備局(大水路跡)	御 所 利 野 町	
99 平成11年 9月30日～10月4日	御所ダム建設事業	手 廉 政 部(行政)道路	御 所 利 野 町	
100 平成11年 10月4日	中田園地整備事業事務室(刈谷地区)	手 廉 政 部(行政)道路	野 田 村	
101 平成11年 10月4日	中田園地整備事業事務室(刈谷地区)	手 廉 政 部(行政)道路	野 田 村	
102 平成11年 10月5日～6日	御所ダム建設事業	建设省東北地方整備局(大水路跡)	御 所 利 野 町	
103 平成11年 10月5日～6日	中田園地整備事業事務室(刈谷地区)	手 廉 政 部(行政)道路	野 田 村	
104 平成11年 10月5日～6日	中田園地整備事業事務室(刈谷地区)	手 廉 政 部(行政)道路	野 田 村	
105 平成11年 10月5日～6日	中田園地整備事業事務室(刈谷地区)	手 廉 政 部(行政)道路	野 田 村	
106 平成11年 10月5日～6日	中田園地整備事業事務室(刈谷地区)	手 廉 政 部(行政)道路	野 田 村	
107 平成11年 10月5日～6日	中田園地改良合併整備事業事務室(刈谷地区)	手 廉 政 部(行政)道路	野 田 村	
108 平成11年 10月6日	第五施設整備事業(鶴居立山)	手 廉 政 部(行政)道路	北上 市	
109 平成11年 10月6日	主要施設整備事業(原山代役)	手 廉 政 部(行政)道路	花巻市	
110 平成11年 10月8日	利根川源流(利根川貢源)上田原山原山林道整備代行事業	手 廉 政 部(行政)道路	東 和 町	
111 平成11年 10月12日～13日	組合会員、手賃請負整備事業 石巻地区	手 廉 政 部(行政)道路	江 利 場 市	
112 平成11年 10月12日～14日、12月6日～10日	石巻市場整備事業 第1回第2期(石巻地区)	手 廉 政 部(行政)道路	平 原 司	
113 平成11年 10月12日～14日、12月6日～10日	石巻市場整備事業 第2回第2期(石巻地区)	手 廉 政 部(行政)道路	平 原 司	
114 平成11年 10月12日～14日、12月6日～10日	松川道八重里整備事業(小田原駅～宮川14号橋)重要八重里整備(八重里橋)改修工事	手 廉 政 部(行政)道路	石 島 谷 町	
115 平成11年 10月14日～15日、12月6日～3月11日	一般施設八重里(小田原駅～宮川14号橋)重要八重里整備(八重里橋)改修工事	手 廉 政 部(行政)道路	石 島 谷 町	
116 平成11年 10月14日～15日、12月6日～3月11日	上石井村施設事業	手 廉 政 部(行政)道路	呂 望 町	
117 平成11年 10月15日	私用車整備事業	手 廉 政 部(行政)道路	呂 望 町	
118 平成11年 10月15日	私家車整備事業	手 廉 政 部(行政)道路	呂 望 町	
119 平成11年 10月15日	船形山周辺整備事業	手 廉 政 部(行政)道路	松 木 町	
120 平成11年 10月15日	船形山周辺整備事業	手 廉 政 部(行政)道路	松 木 町	
121 平成11年 10月18日	船形山周辺整備事業	手 廉 政 部(行政)道路	松 木 町	
122 平成11年 10月18日	船形山周辺整備事業	手 廉 政 部(行政)道路	松 木 町	
123 平成11年 10月19日	東北空港管理設営事業	手 廉 政 部(行政)道路	岩 手 市	
124 平成11年 10月19日	ふるさと農産物販売整備事業(仙台地区)	手 廉 政 部(行政)道路	岩 手 市	
125 平成11年 10月19～20日	ふるさと農産物販売整備事業(仙台地区)	手 廉 政 部(行政)道路	岩 手 市	
126 平成11年 10月19～20日	14号橋整備事業(仙台、千賀境(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	花 川 市	
127 平成11年 10月19～20日	14号橋整備事業(仙台、千賀境(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	花 川 市	
128 平成11年 10月19～20日	14号橋整備事業(仙台、千賀境(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	花 川 市	
129 平成11年 10月19～20日	14号橋整備事業(仙台、千賀境(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	花 川 市	
130 平成11年 10月19～20日	14号橋整備事業(仙台、千賀境(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	花 川 市	
131 平成11年 10月19～20日	14号橋整備事業(仙台、千賀境(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	花 川 市	
132 平成11年 10月19～20日	14号橋整備事業(仙台、千賀境(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	花 川 市	
133 平成11年 10月21日～12月7日	組合会場整備事業(相馬、手賃請負(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	江 利 場 市	
134 平成11年 10月22日～12月7日	組合会場整備事業(相馬、手賃請負(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	江 利 場 市	
135 平成11年 10月22日～12月7日	組合会場整備事業(相馬、手賃請負(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	江 利 場 市	
136 平成11年 10月22日～12月7日	組合会場整備事業(相馬、手賃請負(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	江 利 場 市	
137 平成11年 10月22日～12月7日	組合会場整備事業(相馬、手賃請負(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	江 利 場 市	
138 平成11年 10月25日	組合会場整備事業(相馬、手賃請負(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	江 利 場 市	
139 平成11年 10月25日	組合会場整備事業(相馬、手賃請負(水門修理))	手 廉 政 部(行政)道路	久 里 町	
140 平成11年 10月25日	主要施設整備取組会議(仙台、舟見川の森の里)事業	手 廉 政 部(行政)道路	久 里 町	
141 平成11年 10月26日	組合会員合併整備事業(仙台市清瀬整備型) 伊豆野地区	手 廉 政 部(行政)道路	花 川 市	
142 平成11年 10月26日	等急歩道整備事業	手 廉 政 部(行政)道路	花 川 市	

No.	調査日	事業名	事業者	地名	所在場所
143	平成11年10月27日	交通安全設備整備事業 緊急停止用警報器取付	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
144	平成11年10月27日	一般施設水栓取付	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
145	平成11年10月27日	一般施設水栓取付	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
146	平成11年10月28~29日	中川地区合意地合意地事業新田原地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
147	平成11年10月28~29日	中川地区合意地合意地事業新田原地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
148	平成11年10月28~29日	中川地区合意地合意地事業新田原地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
149	平成11年10月1日	品宮地区整備事業長池2地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
150	平成11年10月1日	品宮地区整備事業長池2地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
151	平成11年10月~2月	品宮地区整備事業長池2地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
152	平成11年10月~2月	品宮地区整備事業長池2地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
153	平成11年10月1日~9月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
154	平成11年10月1日~9月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
155	平成11年10月1日~9月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
156	平成11年10月2日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
157	平成11年10月2日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
158	平成11年10月2日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
159	平成11年10月4日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
160	平成11年10月4日~5月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
161	平成11年10月4日~5月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
162	平成11年10月4日~5月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
163	平成11年10月4日~5月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
164	平成11年10月5日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
165	平成11年10月5日~10月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
166	平成11年10月8日~9月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
167	平成11年10月8日~9月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
168	平成11年10月8日~9月	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
169	平成11年10月10日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
170	平成11年10月10日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
171	平成11年10月10日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
172	平成11年10月11日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
173	平成11年10月11日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
174	平成11年10月11日~12月9日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
175	平成11年10月11日~12月9日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
176	平成11年10月15日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
177	平成11年10月15日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
178	平成11年10月15日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
179	平成11年10月15日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
180	平成11年10月15日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
181	平成11年10月15日~12月9日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
182	平成11年10月15日~12月9日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
183	平成11年10月15日~12月10日	品宮地区整備事業玉手地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
184	平成11年10月17日	新交規ネットワーク道路整備事業	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
185	平成11年10月17日	新交規ネットワーク道路整備事業	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
186	平成11年10月17日	主要地方道沿線整備事業	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
187	平成11年10月17日	主要地方道沿線整備事業	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
188	平成11年10月18日	在急走整備事業	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
189	平成11年10月18日	内浄化七ノ一通り路面工事	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜
190	平成11年10月19日	強度合意地合意地整備事業田原地区	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜	吉手 朝 喜

51 平成11年度分布調査一覧

一級河川: 宮守川流域地方沿岸箇所 No. 道路コード 1 MF2-1022	地名 十輪谷	時代 平安	事業者 浅野地方振興局・土木部 土木課	備考 所在地 宮守村上原字 斎場
ふるさと農業緊急援助事業 (杉川地区) No. 道路コード 1 JF66-1279 2 JF66-1353 3 JF66-1365 4 JF66-1368 5 JF66-1389	地名 久慈郡 久慈郡 久慈郡 久慈郡 久慈郡	時代 昭和 昭和 昭和 昭和 昭和	事業者 久慈地方振興局・土木部 土木課 土木課 土木課 土木課	備考 所在地 山形町小国4地割 山形町小国4地割 山形町小国4地割 山形町小国4地割 山形町小国4地割
約2年実施地区 No. 道路コード 1 MG70-1068	地名 阿良	時代 昭文	事業者 浅野地方振興局・土木部 土木課	備考 所在地 釜石市引野西4 釜石
ほ場整備事業 (相・手取流等) 大山田地区 No. 道路コード 1 JF28-0255 2 JF28-2289 3 JF29-2081	地名 外原 大原 上原	時代 昭文 昭文 昭文	事業者 久慈地方振興局・土木部 土木課 土木課	備考 所在地 久慈市大山田町19 久慈市大山田町 久慈市大山田町
一般気道花・糸引瀬岸防護地区道路改良事業 No. 道路コード 1 ME57-0171	地名 長坂坂	時代 昭文	事業者 浅野地方振興局・土木部 土木課 土木課	備考 所在地 赤石山郡平良本 赤石山郡平良本
一級河川: 沖立川改修事業 No. 道路コード 1 ME58-0173 2	地名 田光	時代 昭文・平安	事業者 花巻市花巻建設技術研究所 花巻市花巻建設技術研究所	備考 所在地 東和町落合 東和町落合1区
花巻市港整備事業 No. 道路コード 1 ME06-2415	地名 大内	時代 昭文	事業者 花巻市花巻建設技術研究所 花巻市花巻建設技術研究所	備考 所在地 石鳥谷町八重畠15番地
中山間地舗合宿施設整備地区 No. 道路コード 1 ME52-1388 2 ME52-1381 3 ME52-2325 4 ME52-2342 5 ME52-2344 6	地名 田原 大船 吉良 吉良 石引根	時代 昭文 昭文 昭文 昭文 昭文	事業者 北上地方振興局・土木部 土木課 土木課 土木課 土木課 土木課	備考 所在地 北上市柏原町横川日之向 北上市柏原町横川日之向 北上市柏原町横川日之向 北上市柏原町横川日之向 北上市柏原町横川日之向 可能件数)
11土壤整備事業 (田、手作型) 新田地区 No. 道路コード 1 ME25-0121	地名 地蔵	時代 昭文	事業者 花巻地方振興局花巻農耕整備事務所 花巻市花農	備考 所在地 花巻市田

2								可燃性: 有 可燃性: 有 可燃性: 有 可燃性: 有 可燃性: 有 可燃性: 有 可燃性: 有 可燃性: 有	
3									
4									
5									
6	ME25-0994	新田Ⅰ	碑文	石器	时代	遗物	所在地	在兔山新田	
7	ME25-1007	新田Ⅱ	碑文	石器	时代	遗物	所在地	在兔山新田	
8	ME25-1230	中北万ノ山Ⅲ	碑文	石器	时代	遗物	所在地	在兔山中北万ノ山	
注: 地形地名 (括小) 手写件) 等长毫之始区									
No.	通称	通称名	时代	遗物	遗物	所在地	所在地	所在地	参考
1	ME25-0997	古代	土器芯	陶文·磨	时代	遗物	所在地	在兔山久次尻	参考
2	ME24-2018	古代	土器芯	陶文·磨	时代	遗物	所在地	在兔山久次尻	参考
3	ME27-0982	绳文木皿	古代	石器·土器·石器·组合器	时代	遗物	所在地	在兔山久次尻·3施振	参考
4	ME27-1025	绳文	时代	陶文·磨	时代	遗物	所在地	在兔山久次尻	参考
一般遺物類別資料地区									
No.	通称	通称名	时代	遗物	遗物	所在地	所在地	所在地	参考
1	ME28-0170	平内	绳文	陶文·器	时代	遗物	所在地	柏市町平内	参考
2	ME28-1065	平内	绳文	陶文·器	时代	遗物	所在地	柏市町平内字石倉	参考
土地変形点と移動事象割付中段第5・上地(6)									
No.	通称	通称名	时代	遗物	遗物	所在地	所在地	所在地	参考
1	ME24-2060	森久保	近世	土器	时代	遗物	所在地	金ヶ崎周六原	参考
2	ME24-2000	白苦坂	近世	土器	时代	遗物	所在地	金ヶ崎周六原	参考
3	ME24-0012	平安	平安	土器	时代	遗物	所在地	金ヶ崎周六原	参考
4	ME25-2065	北比奈合合	平安	土器	时代	遗物	所在地	金ヶ崎周六原	参考
5	ME25-2156	上大原	平安	土器	时代	遗物	所在地	北比奈合合土人手廻	参考
12地形地名別資料(東部編)C									
No.	通称	通称名	时代	遗物	遗物	所在地	所在地	所在地	参考
1	ME27-1314	金打	古代	土器芯·坛器·有底	时代	遗物	所在地	江町山口合合字金打	参考
2	ME27-1323	中野	绳文	土器	时代	遗物	所在地	江町山口合合字中野	参考
3	ME27-1355	北山	中世	土器	时代	遗物	所在地	江町山口合合字北山	参考
4	ME27-0965	北比奈合合	绳文·古代	土器	时代	遗物	所在地	江町山口合合	参考
緊急多面地事業二田田子線									
No.	通称	通称名	时代	遗物	遗物	所在地	所在地	所在地	参考
1	ME29-0263	塩原倉	绳文·古代	陶文·器	时代	遗物	所在地	二田地方塩原馬土木延	
交通安全地盤整備(歩道)事業									
No.	通称	通称名	时代	遗物	遺物	所在地	所在地	所在地	参考
1	ME29-1375	山内下平園	绳文	土器	时代	遗物	所在地	二田地方塩原馬土木延	
2	ME29-1374	太田向Ⅰ	绳文	土器	时代	遗物	所在地	二田地方塩原馬土木延	
駐車場急勾配整備事業									
No.	通称	通称名	时代	遗物	遺物	所在地	所在地	所在地	参考
1	ME29-1350	塩野坂	中世	土器	时代	遗物	所在地	塩野坂	参考

かんし・相手事業者登録簿	事業者：水元地方振興局水資源整備事務所	登録日：平成11年9月2日
No. 道路コード 通称名 时代	刀子	所在地
1 MESS-1154 乾沢 古代		江戸川市谷汲字吹び沢
緊急地盤整備事業 一般見道矢山西安藤町庄宮地区	事業者：協同地方振興局土木部	登録・検査
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 LES-1294 平安 土砂区		久喜町上宮沢
地方特定道路整備事業 大川松草線	事業者：宮古地方振興局谷汲土木事務所	登録日：平成11年5月11日
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 KF75-232 谷汲11 國文	國文土器	谷汲町金森山字谷汲1
沿岸改良事業 宮古保渠	事業者：宮古地方振興局谷汲土木事務所	登録日：平成11年5月17日
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 KG71-191 馬頭井谷 國文	國文土器	谷汲町下立谷字高木本
干石流対策事業 千石流対策事業	事業者：宮古地方振興局土木事務所	登録日：平成11年5月13日
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 KG72-2001 馬頭井谷 國文	國文土器	谷汲町乙斐御内乙斐の次第
危険移動事業	事業者：上北地方振興局土木部	登録日：平成11年5月14日
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 LG53-1255 土浦 K 國文・古代・中世	國文土器	上北郡新郷村新郷字人森、第6地頭割里
門型地(急傾斜地削除対策事業)	事業者：上北地方振興局土木部	登録・検査
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 ME76-092 土浦 國文・近世	國文土器・埴輪	北上市前川町字門院
電線鉄道上水道管11号 石崎地(其他)交通安全施設整備(燃道1.)工事	事業者：上北地方振興局土木部	登録日：
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 ME74-1329 久田Ⅰ 國文	土師器・石	北上市相川町字久田
2 ME74-0307 久田Ⅱ 國文・平安	國文土器・土師器・瓦也器	北上市谷入田
一般排水用渠網整備 三五橋整備事業	事業者：上北地方振興局土木部	登録日：平成11年10月1日
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 M158-1371 川尻Ⅰ 國文	土師器・石器	南田町川尻
2 M158-1375 上野今 國文	國文土器・瓦・刷毛・刷毛小器	南田町第39地割119番地
私用排水道新設事業	事業者：上北地方振興局土木部	登録日：平成11年9月2日
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 M165-0155 本宿33号 介令・平安	土師器	北上市上本宿字19地原
北上川の羽ヶ根 单独認定之事業	事業者：上北地方振興局土木部	登録日：平成11年9月30日
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地
1 M156-2554 中谷保 國文	土師器	北上市二子町
2 M156-2213 野田Ⅰ 國文	土師器・茶生土器・土師器・須恵器	北上市二子町
中間地盤整備事業 深沢地区、一般農道整備事業 連岡地区	事業者：深澤地方振興局中間地盤整備事務所	登録日：平成11年6月10日。21日、7月1日
No. 道路コード 通称名 时代	通情・植物	所在地

No	MPF41-2282	周文	周文土器(残片)	周文土器(残片)	放生地	百字村周	新发现
13号墓葬修复 金鱼池区 一般骨质编饰 金鱼池区							
No	道路コ-下 道路名	时代	学者著：涿野地方文物与涿野贾村整修事務所 土師器·陶器	学者著：涿野地方文物与涿野贾村整修事務所 土師器·陶器	时代	学者著：平成11年5月24日、6月10日-11日 放生地	参考
1	MPF6-0205 向野	合贝·平安				涿野市上土野字向野	新发现
2	MPF6-0062 海前	平安				涿野市吉田町海前字海前	新发现
3	MPF6-0050 向野	平安				涿野市向野	新发现
4	MPF6-0082 向野	平安				涿野市向野	新发现
5	MPF6-1103 向野	中段				涿野市向野	新发现
13号墓葬修复 金鱼池区							
No	道路コ-下 道路名	时代	学者著：涿野地方文物与涿野贾村整修事務所 陶器·漆器	学者著：涿野地方文物与涿野贾村整修事務所 陶器·漆器?	时代	学者著：平成11年5月17日-19日 放生地	参考
1	MPF6-158 石代(平安)	平安				涿野市上土野字道路	新发现
2	MPF6-260 石代(平安)	平安				涿野市上土野字道路	新发现
3	MPF6-2333 本底	古代				涿野市上土野字道路	新发现
4	MPF6-2365 莲池	陶文·古代				涿野市上土野字莲池	新发现
5	MPF6-2377 向野始	古代				涿野市上土野字向野	新发现
6	MPF6-2388 千土萬(陶器)	陶文·古代				涿野市上土野字千土萬	新发现
7	MPF6-395 阿品船(陶器)	中世				涿野市上土野字阿品船	新发现
8	MPF6-263 下舟貝	古代				涿野市上土野字下舟貝	新发现
9	MPF6-0349 漆文	漆文				涿野市上土野字山	新发现
10	MPF6-0345 向野	古代				涿野市上土野字向野	新发现
11	MPF6-0323 土師器	古代				涿野市上土野字土師器	新发现
12	MPF6-0322 土師器	古代				涿野市上土野字土師器	新发现
13	MPF6-0303 土師器	陶文·古代				涿野市上土野字土師器	新发现
14	MPF6-0322 五叶布纹	中段				涿野市上土野字五叶布	可能性あり
15						涿野市上土野字五叶布	
中山圆池地区介整修事務 金川地区							
No	道路コ-下 道路名	时代	学者著：久慈地方文物与久慈郡村整修事務所 陶器·漆器	学者著：久慈地方文物与久慈郡村整修事務所 陶文·中段	时代	学者著：平成11年9月4日-7日 放生地	参考
1	JG61-012 金川	陶文·中段				野田村大字上川字猪山	新发现
2	JG61-0286 相手平1	陶文				野田村大字相手平8-25地 大河原-長谷園	新发现
3	JG61-022 相手平1	陶文				野田村大字相手平8-17地 新潟坂山北之庭园	新发现
中山圆池地区介整修事務 野田地区							
No	道路コ-下 道路名	时代	学者著：久慈地方文物与久慈郡村整修事務所 陶器·漆器	学者著：久慈地方文物与久慈郡村整修事務所 陶文·中段	时代	学者著：平成11年9月7日-8日 放生地	参考
1	JG61-1001 野田	陶文				野田村野田	新发现
2	JG61-0000 野田	陶文				野田村野田	新发现
3	JG61-0000 野田	陶文				野田村野田	新发现
4						野田村野田	新发现
5						野田村野田	新发现
深川河川改修整修 野田地区							
No	道路コ-下 道路名	时代	学者著：深川地方文物局土木科 陶器·漆器	学者著：深川地方文物局土木科 陶器·漆器	时代	学者著：平成11年7月16日 放生地	参考
1	LE17-1066 断山崩	古代·中世·近世				深川市赤坂2丁目,高野 放生地	新发现
乱交港完全整修整修 乱交港							
No	道路コ-下 道路名	时代	学者著：深川地方文物局土木科 陶器·漆器	学者著：深川地方文物局土木科 陶器·漆器	时代	学者著：	参考
1	KE65-(03) 上川1	陶文				深川村通川字土足	新发现

					満査期日：平成11年 8月31日		
交通安全施設整備事業（宮田生活支援施設）	No. 道路コード 通路名 事業者名 依頃地方法務局土木部	時代 時代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町全部	備考	新規発見
1 L.E57-019 通路名 築文	1 L.E57-019 通路名 築文	古代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町全部	新規発見	新規発見
地方特定道路整備事業	No. 道路コード 通路名 事業者名 依頃地方法務局土木部	時代 時代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町全部	新規発見	新規発見
1 L.E2-2052 通路名 築文	1 L.E2-2052 通路名 築文	古代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町全部	新規発見	新規発見
2 L.E51-016 大中幅	2 L.E51-016 大中幅	中世	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町全部	新規発見	新規発見
道路改修事業（主要地方道 依頃地方法務局土木部）	No. 道路コード 通路名 事業者名 依頃地方法務局土木部	時代 時代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町全部	新規	新規
1 L.E26-105 舟岡田Ⅱ 事業者名 依頃地方法務局土木部	1 L.E26-105 舟岡田Ⅱ 事業者名 依頃地方法務局土木部	古代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字舟岡田	新規	新規
2 L.E26-2004 新井田Ⅰ 事業者名 依頃地方法務局土木部	2 L.E26-2004 新井田Ⅰ 事業者名 依頃地方法務局土木部	古代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字新井田	新規	新規
3 L.E26-2013 新井田Ⅲ 事業者名 依頃地方法務局土木部	3 L.E26-2013 新井田Ⅲ 事業者名 依頃地方法務局土木部	古代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字新井田	新規	新規
舗装新設事業（一般県道依頃地方法務局土木部）	No. 道路コード 通路名 事業者名 依頃地方法務局土木部	時代 時代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町西安波字下郷	新規	新規
1 L.E23-1250 別場Ⅲ 事業者名 依頃地方法務局土木部	1 L.E23-1250 別場Ⅲ 事業者名 依頃地方法務局土木部	古代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町西安波字下郷	新規	新規
大津川（尼串）河川改良工事	No. 道路コード 通路名 事業者名 依頃地方法務局土木部	時代 時代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
1 L.E57-2129 下流 事業者名 依頃地方法務局土木部	1 L.E57-2129 下流 事業者名 依頃地方法務局土木部	古代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
1 L.E57-3004 築文 事業者名 依頃地方法務局土木部	1 L.E57-3004 築文 事業者名 依頃地方法務局土木部	中世	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
北上川河川改良工事	No. 道路コード 通路名 事業者名 依頃地方法務局土木部	時代 時代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
1 K.E57-1001 小幡坂 事業者名 依頃地方法務局土木部	1 K.E57-1001 小幡坂 事業者名 依頃地方法務局土木部	中世	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
三河飯山自動車整備事業	No. 道路コード 通路名 事業者名 依頃地方法務局土木部	時代 時代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
1 M.G2-2022 清山 事業者名 依頃地方法務局土木部	1 M.G2-2022 清山 事業者名 依頃地方法務局土木部	現代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
3 M.G71-2128 何定寺 事業者名 依頃地方法務局土木部	3 M.G71-2128 何定寺 事業者名 依頃地方法務局土木部	現代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
細谷ダム建設事業（ロック材置場開拓工事）	No. 道路コード 通路名 事業者名 依頃地方法務局土木部	時代 時代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
1 N.E21-0274 精合 事業者名 依頃地方法務局土木部	1 N.E21-0274 精合 事業者名 依頃地方法務局土木部	現代	道構・遺物 墓文・看板	所在地 所在地	参考 安流町下郷字森子原本	新規	新規
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							

14						伊丹町石野子幡谷 伊丹町石野子幡谷 伊丹町石野子幡谷	可能性あり 可能性あり 可能性あり
15							
16							
新交規ネットワーク沿線整備事業	No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	NFH-038	無	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月10日	伊丹町西長田小段	
新交規ネットワーク沿線整備事業	No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	NEG-210	無	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町西長田の下	可能性あり
2	NEG-210	無	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町西長田の下	可能性あり
新交規ネットワーク沿線整備事業	No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	MES-100	三の瀬	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町西長田の下	可能性あり
2	MES-100	二の瀬	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町西長田の下	可能性あり
新交規ネットワーク沿線整備事業	No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	IPN-230	上野	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町上野	可能性あり
2	IPN-237	中野	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町中野	可能性あり
3	IPN-235	下野	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町下野	可能性あり
新交規ネットワーク沿線整備事業	No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	JF20-0181	上野	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町上野	可能性あり
2	JF20-1054	田中	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町田中	可能性あり
3	JF20-2008	下野	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町下野	可能性あり
4	JF20-2013	御所野	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町御所野	可能性あり
5	JF20-2125	御所野Ⅱ	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年7月23日	伊丹町御所野Ⅱ	可能性あり
金沢清水西通りアプロード整備事業	No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	K-E3-1132	清水西通り	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年5月18日	松尾村苦木1-1572	
新庄地区道路整備事業	No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	L.G2-206	無	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年5月18日	松尾村苦木1-1572	
新庄地区道路整備事業	No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	L.G2-2388	無	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年5月18日	松尾村苦木1-1572	
新庄地区道路整備事業	No.	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	MF6-1375	太田池	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年5月17-19日、24日	浪野市上郷町北内子海田	
2	MF6-2322	太田池	新庄地区道路整備事業	事業者：人和清地方整備局土木部	平成11年5月17-19日、24日	浪野市上郷町左近北内子海田	

3	MF66-239	编文	编文上唇	食舌地	浅野市上野町细城	新发现
4	MF66-1289	编文	编文上唇	食舌地	浅野市上野町北口一丁目	新发现
5	MF66-1265	麻ノ下口	编文	食舌地	浅野市上野町今森ノ下	新发现
6	MF66-234	麻ノ下口	编文	食舌地	浅野市上野町细城ノ下	新发现
7	MF66-222	平安	编文	食舌地	浅野市上野町林崎	新发现
8	MF66-1188	平安	编文	食舌地	浅野市上野町火见	新发现
9	MF66-1185	平安	十助唇	食舌地	浅野市上野町切跡	新发现
10	MF66-2128	平安	编文	食舌地	浅野市上野町林崎	新发现
11	MF66-2158	编文	编文上唇	食舌地	浅野市上野町	新发现
12	MF66-2164	林崎	编文	食舌地	浅野市上野町今田	新发现
13	MF66-2134	林崎	编文	食舌地	浅野市上野町字大寺	新发现
14	MF66-134	林崎	中页	食舌地	浅野市上野町	新发现
15	MF66-1099	平合音	编文	食舌地	浅野市上野町字屋合	新发现
七、必须鉴定出者 金田 铜地区						
No	通路名	时代	通体物	食舌地	所在地	新发现
1	E59-032	海老田	编文·古代	食舌地	市下水	新发现
2	E59-033	金引田	编文·古代	食舌地	市下水	新发现
直通路名 一般通路名江口内湖						
No	通路名	时代	通体名	食舌地	所在地	新发现
1	K-E59-2181	通路名	编文	食舌地	弓手町田中沢	新发现
主要地方通路名(通路名/所属地/直通路名)						
No	通路名	时代	通体物	食舌地	所在地	新发现
1	ME66-238	编文	编文·古代	食舌地	江利町山田町共井中島	新发现
2	ME66-002	稻引台	土助唇	食舌地	江利町山田町稻引台	新发现
3	ME66-250	五十子敷朴前	编文	食舌地	江利町山田町五十子敷	新发现
4	ME66-023	稻引前	编文	食舌地	江利町山田町稻引前	新发现
5	ME66-0199	稻引	土助唇	食舌地	江利町山田町稻引	新发现
6	ME66-0175	十二	编文·古代	食舌地	江利町山田町十二文字	新发现
7	ME66-0109	古向原	土助唇	食舌地	江利町山田町古向原	新发现
8	ME67-011	宝林	古代	食舌地	江利町山田町宝林	新发现
通路带综合地名表 带姓地名						
No	通路名	时代	通体物	食舌地	所在地	新发现
1	OF10-2135	近世?	编文	食舌地	利町通路表谷	新发现
一般通路带综合地名 大高町地区						
No	通路名	时代	通体物	食舌地	所在地	新发现
1	NF50-2118	大高町	编文·平安	食舌	人来町通人来森	新发现
沿交次良計跡 一般沿交次良跡						
No	通路名	时代	通体物	食舌地	所在地	新发现
1	NG52-0104	通路名	编文	食舌	三泽町通奈来字大平	新发现
通路带综合地名表 野川地区						
No	通路名	时代	通体物	食舌地	所在地	新发现
1	JG70-0196	相叶平野	编文	食舌	野田村三川	新发现

2	JG71-2389	照片 1 号函内	周文	周文上器·石器	周文上器·石器	周文上器·石器	11号?	野田村野田堤井 野田村野田堤井	
3	JG71-2091	照片 Y	周文	周文	周文上器·石器	周文上器·石器	金龟地	野田村野田堤井	
4	JG71-2066	照片 Y	周文	周文上器·石器	周文上器·石器	周文上器·石器	金龟地	野田村野田堤井	
5	JG71-2037	照片 Y	周文	周文上器·石器	周文上器·石器	周文上器·石器	金龟地	野田村野田堤井	
<hr/>									
一般遺物等重要事項 (田野村酒呑塙代行)									
No.	通路コ-1	遺跡名	時代	遺跡・遺物	事業者: 久慈地方施例局久慈町整備事務所	調査期日 : 平成11年7月9日	柱脚	所在地	備考
1	JF6-1044	櫛久保	周文	周文上器·平安	周文上器·石器	山形市十日町3丁目14(松原)	金龟地		
2	JF6-1035	櫛久保 1	周文	周文上器·平安	周文上器·石器	山形市十日町3丁目14(松原)	金龟地		
3	JF6-1036	櫛久保 1	周文	周文上器·平安	周文上器·石器	山形市十日町3丁目14(松原)	金龟地		
<hr/>									
急流地盤整備事業 (田野村酒呑塙代行)									
No.	通路コ-1	遺跡名	時代	遺跡・遺物	事業者: 逸聞地盤整備局木見島免出張所	調査期日 : 平成11年6月28日~7月1日	柱脚	所在地	備考
1	KFO-0322		周文	周文上器等	周文上器等	島原町・金川	金龟地	島原町・金川	可能性あり
2	JF90-1039		周文	周文上器等	周文上器等	島原町・金川	金龟地	島原町・金川	可能性あり
<hr/>									
江戸整備事業 白山地(4)									
No.	通路コ-1	遺跡名	時代	遺跡・遺物	事業者: 本州地方整備局木見島免出張所	調査期日 : 平成11年8月16日~9月3日	柱脚	所在地	備考
1	NE6-2344		周文	石核・石器	石核・石器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
2	NE6-2348		周文	石核・石器	石核・石器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
3	NE6-1033	上林寺境(大庭原里)	古代・中世	绳文・土器	绳文・土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
4	NE6-2347	八幡	周文	绳文・土器	绳文・土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
5	NE6-1375	田舎丘	周文(中期)	绳文・土器	绳文・土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
6	NE6-1936	小林長	周文(中期)	绳文・土器	绳文・土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
7	NE6-1932	富山・野	周文(後期)	绳文・土器	绳文・土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
8	NE6-0064	今野	古代	土器	土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
9	NE6-0078		古代	土器	土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
10	NE6-0045		古代	土器	土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
11	NE6-0042		古代	土器	土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
12	NE6-0047	字空	平安	土器	土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
13	NE6-0063	内原敷	平安	土器	土器	前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	前沢免見
14						前沢町(山)	金龟地	前沢町(山)	可能性あり
<hr/>									
大内池等整備事業 北川地区									
No.	通路コ-1	遺跡名	時代	遺跡・遺物	事業者: 本州地方整備局木見島免出張所	調査期日 : 平成11年12月6日	柱脚	所在地	備考
1	NE64-0090	本免	周文	土器・弦纹・绳文・土器	土器・弦纹・绳文・土器	生糸泽	金龟地	生糸泽	
<hr/>									
令人谷等整備事業 (佐久間)									
No.	通路コ-1	遺跡名	時代	遺跡・遺物	事業者: 逸聞地盤整備局木見島免出張所	調査期日 : 平成11年8月1日~18日、9月2日	柱脚	所在地	備考
1	ME80-0077	浅川原	周文	石核・石斧	石核・石斧	江刺市・新字小曾見	金龟地	江刺市・新字小曾見	
<hr/>									
大内池等整備事業 宮原・佐野地区									
No.	通路コ-1	遺跡名	時代	遺跡・遺物	事業者: 逸聞地盤整備局木見島免出張所	調査期日 : 平成11年10月10日~20日	柱脚	所在地	備考
1	KEG-0178	当ぬ	周文	土器	土器	玉山村・字好摩	金龟地	玉山村・字好摩	
2	KE37-2294	水井ノ谷	古代	土器	土器	玉山村・大木井字鳥木	金龟地	玉山村・大木井字鳥木	
3	KE37-2247	水井ノ谷	古代	土器	土器	玉山村・大木井字鳥木	金龟地	玉山村・大木井字鳥木	
<hr/>									
14. 江戸整備事業 平原・野村地区									
No.	通路コ-1	遺跡名	時代	遺跡・遺物	事業者: 逸聞地盤整備局木見島免出張所	調査期日 : 平成11年7月28日	柱脚	所在地	備考

土地区分販賣監査事務 所在地(区)				農業用平屋、住宅付平屋				農業用平屋、住宅付平屋				
No	通路コード	通路名	時代	No	通路コード	通路名	時代	No	通路コード	通路名	時代	
1	LE13-1773	園ヶ畠N	現文	通路・植物	時代	新規開拓	新規開拓	1	LE13-2257	園ヶ畠(中附)・石畠・スクレーフ…	現文	新規開拓
2	LE13-2257	園ヶ畠N	現文	現文・器	時代	新規開拓	新規開拓	2	LE13-2250	園ヶ畠(中附)・石畠・スクレーフ…	現文	新規開拓
3	LE13-2250	園ヶ畠I	（六明）	フレイタ	時代	新規開拓	新規開拓	3	LE13-0208	イタミ・坂古墳	現文	新規開拓
4	LE13-0208	御所野I	（六明）	フレイタ	時代	新規開拓	新規開拓	4	LE13-2299	御所野II	現文	新規開拓
5	LE13-2299	御所野II	（六明）	フレイタ	時代	新規開拓	新規開拓	5	LE13-2290	御所野II	現文	新規開拓
6	LE13-2290	御所野II	（六明）	フレイタ	時代	新規開拓	新規開拓	6	LE13-2273	御所野II A	現文	新規開拓
7	LE13-2273	御所野II B	（六明）	フレイタ	時代	新規開拓	新規開拓	7	LE13-2268	御所野II A	現文	新規開拓
8	LE13-2268	御所野II B	（六明）	フレイタ	時代	新規開拓	新規開拓	8	LE13-2234	御所野II A	現文	新規開拓
9	LE13-2234	御所野II B	（六明）	フレイタ	時代	新規開拓	新規開拓	9	LE13-2234	御所野II A	現文	新規開拓
10	LE13-2234	御所野II B	（六明）	フレイタ	時代	新規開拓	新規開拓	10	LE13-2234	御所野II A	現文	新規開拓
緊急生産農業用水耕作別事業 小谷地												
No	通路コード	通路名	時代	通路・植物	時代	新規開拓	新規開拓	No	通路コード	通路名	時代	
1	NE35-2002	会原	現文	現文・器	時代	新規開拓	新規開拓	1	NE35-2006	会原長岡	現文	新規開拓
2	NE35-2006	会原長岡	現文	現文・器	時代	新規開拓	新規開拓	2	NE35-2018	上原	現文	新規開拓
3	NE35-2018	上原	現文	現文・器	時代	新規開拓	新規開拓	3	NE35-2018	明山	現文	新規開拓
4	NE35-2018	明山	現文	現文・器	時代	新規開拓	新規開拓	4	NE35-2012	明山	現文	新規開拓
5	NE35-2012	明山	現文	現文・器	時代	新規開拓	新規開拓	5	NE35-2012	明山	現文	新規開拓
住居地耕種事業 茅ヶ崎地区												
No	通路コード	通路名	時代	通路・植物	時代	新規開拓	新規開拓	No	通路コード	通路名	時代	
1	NE26-2423	上原	平安	上物原	時代	新規開拓	新規開拓	1	NE26-2433	上原	平安	新規開拓
2	NE26-2433	上原	平安	上物原	時代	新規開拓	新規開拓	2	NE26-2433	上原	平安	新規開拓
上地改良綜合整備事業 西山1工区篠ヶ崎地区												
No	通路コード	通路名	時代	通路・植物	時代	新規開拓	新規開拓	No	通路コード	通路名	時代	
1	K106-0398	佐田里	現文	通体・植物	時代	新規開拓	新規開拓	1	K106-0405	里内里(所里)	現文	新規開拓
2	K106-0405	里内里(所里)	現文	現文・器	時代	新規開拓	新規開拓	2	K106-1266	所里(所七)	現文	新規開拓
3	K106-1266	所里(所七)	現文	現文・器	時代	新規開拓	新規開拓	3	K106-225	所里	現文	新規開拓
4	K106-225	所里	現文	現文・器	時代	新規開拓	新規開拓	4	K106-2272	所里	現文	新規開拓
木原地塊総合整備事業 津井地地区												
No	通路コード	通路名	時代	通体・植物	時代	新規開拓	新規開拓	No	通路コード	通路名	時代	
1	IE55-2031	日影I	現文	通体・植物	時代	新規開拓	新規開拓	1	IE55-2031	日影I	現文	新規開拓
木原地塊総合整備事業 下原地地区												
No	通路コード	通路名	時代	通体・植物	時代	新規開拓	新規開拓	No	通路コード	通路名	時代	
1	IE51-292	正福寺	現文	通体・植物	時代	新規開拓	新規開拓	1	IE51-005	田原	中世	新規開拓
2	IE51-005	田原	中世	通体・器	時代	新規開拓	新規開拓	2	IE51-005	田原	中世	新規開拓

3		F51-0557	冬都田殿	碑文	碑文上部	碑文下部	放生地	彦兔町田原丁冬都	相模原人		
No.	遺跡名	通称名	時代	事務者	遺物・遺物	遺物	所在地	備考			
3. 津島災害箇所事務											
1	NG41-045	小石浜	碑文	碑文上部(後期)・石器	碑文下部(小字浜)						
相模原合掌造重要選別箇所											
No.	通称-2- y	通称名	時代	事務者	相模地方施設局水俣町整備事務所		耕作地	調査期日：平成11年9月16日			
1	LE65-045	船宿町道口川村	碑文	碑文・石器	碑文		耕作地	所在地			
2	LE65-0237	船宿川	碑文	土器	土器		耕作地	久印町大字船宿山			
3	LE65-030	船宿町松坂木	碑文	土器	碑文上部(中期・大・SSD式)・フレイタ		耕作地	久印町大字船宿山			
4	LE65-032	船宿木	碑文	土器	土器		耕作地	久印町大字船宿第3船宿地苗圃内			
5	LE65-0237	谷地苗圃	碑文	土器・石器	土器		耕作地	久印町大字船宿山第3船宿地苗圃内			
6	LE65-0062	水野	碑文	土器・器	土器		耕作地	久印町大字船宿山字水野			
7	LE65-1527	櫛山船	碑文	土器	土器		耕作地	久印町大字船宿山字櫛山			
8	LE65-1339	町	碑文	(中用)	土器		耕作地	久印町大字船宿第9船宿町			
9	LE65-1341	行切延山西方	古代	須恵器・石器	土器		耕作地	久印町大字船宿第9船宿町			
10	LE66-1673	油田	碑文?	石皿	土器		耕作地	久印町大字北山法寺・油田			
11	LE66-1621	油田	碑文	土器	土器		耕作地	久印町大字北山法寺・油田			
12	LE66-1009	大木	碑文	土器	不明		耕作地	久印町大字船宿山			
13	LE66-0029	大木	碑文	土器	土器		耕作地	久印町大字船宿山			
14	LE66-0144	船山	碑文	土器	土器		耕作地	久印町大字船山19-30			
15	LE66-0124	大須	碑文	土器	土器		耕作地	久印町大字船山第8船宿町大須			
16	LE66-0016	大矢見	碑文	土器	土器		耕作地	久印町大字船山字大須			
緊急生糞施設排水計画特別事業 田沢地区											
No.	通称-2- y	通称名	時代	事務者	相模地方施設局水俣町整備事務所		耕作地	調査期日：平成11年7月13日-14日			
1	NE66-1344	蟹井	古代	土器	土器		耕作地	所在地			
2	NE66-0384	寺船冲	古代	土器	土器		耕作地	久印町大字寺船冲			
3	NE66-132	龜田	平安	土器	土器		耕作地	久印町大字寺船冲			
4	NE66-2224	上ノ台	古代	土器	土器		耕作地	久印町大字寺船冲上ノ台			
緊急生糞施設排水計画特別事業 沼田地区											
No.	通称-2- y	通称名	時代	事務者	相模地方施設局水俣町整備事務所						
1	NE66-1236	沼田	古代	土器	土器	土器	耕作地	所在地			
2	NE66-1218	沼田	平安	土器	土器	土器	耕作地	水俣市在河内字沼田			
3	NE66-1256	沼田	平安	土器	土器	土器	耕作地	水俣市在河内字沼田			
4	NE66-1277	沼田	平安	土器	土器	土器	耕作地	水俣市在河内字沼田			
5	NE66-1294	沼田	平安	土器	土器	土器	耕作地	水俣市在河内字沼田			
6	NE66-2169	大曾根	碑文	古代	碑文上部	土器	耕作地	水俣市在河内字大曾根			
貿易港施設事業 水俣運河地区											
No.	通称-2- y	通称名	時代	事務者	相模地方施設局水俣町整備事務所						
1	NE66-0141	長田	平安	土器	土器	土器	耕作地	所在地			
2	NE68-0164	長田	平安	土器	土器	土器	耕作地	水俣市在河内字長田			
3	NE68-0175	長田	平安	土器	土器	土器	耕作地	水俣市在河内字長田			
4	NEG-0115	丹波山	平安	土器	土器	土器	耕作地	水俣市在河内字下野			
5	NEG-0102	下野	平安	土器	土器	土器	耕作地	水俣市在河内字下野			

调查期日：						
No.	道路名	道路名	时代	特征	所在地	備考
1	NE88-0121 小坂	道路名	平安	土质路	金龟地	一関市鶴来字小坂
1	ME33-0068 田中坂	道路名	平安	土质路	金龟地	北上市吉田坂田中
空港設備事業						
1	ME17-0288 千坂	道路名	古代 - 近世	通情 - 潜物 碑文 : 墓 - 上院 - 石器 - 遗物	桂賀	備考
河川管理署等運送必要事項及び災害防除施設工事						
1	LF73-2292 向川堤	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
一般社道和洋平野橋交通施設工事						
1	NE77-0102 中村 1	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
一般社道25号 多賀渡瀬工事						
1	OE88-250 大余良 1	道路名	平安	通情 - 潜物	桂賀	備考
利根川山事業 桐原沢地区						
1	NF70-0485 八丁船	道路名	時代	通情 - 潜物 土地 - 岩質 - 地切	桂賀	備考
鳴子町(引出山)工事						
1	NF67-0172 八幡前路(高田城)	道路名	時代	通情 - 潜物 王宮 - 前路 - 空堀	桂賀	備考
電気通信販賣事業						
1	M56-1-286 向	道路名	時代	通情 - 潜物	桂賀	備考
農地開拓事業 等代地区						
1	IG83-2-15 里塙 1	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
2	IG83-2-17 下村 1	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
3	IG83-2-18 下村	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
4	IG83-2-189 下村 3	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
5	IG83-2-190 下村 5	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
6	IG83-2-198 黒坂 3	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
7	IG83-2-189 椿相寺	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
8	IG83-2-281 下村 5	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
9	IG83-2-281 下村 5	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
10	KGR-0301 上村 5	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考
11	KGR-0313 上村 5	道路名	時代	通情 - 潜物 碑文	桂賀	備考

12	KG03-0223	上村屋	碑文	碑文土器	時代	平安	施設名	施設地	新代村第1施設子上村	備考
13	KG03-0255	上村屋	碑文	碑文土器	時代	平安	施設名	施設地	新代村第1施設子上村	備考
14	KG03-0256	上村屋	碑文	碑文土器	時代	平安	施設名	施設地	新代村第1施設子上村	備考
15	KG03-0258	上村氏	碑文	碑文土器	時代	平安	施設名	施設地	新代村第1施設子上村	備考
16	KG03-0254	上村氏	碑文	碑文土器	時代	平安	施設名	施設地	新代村第1施設子上村	備考
17	KG03-2435	上村屋	碑文	碑文土器	時代	平安	施設名	施設地	新代村第1施設子上村	備考
18	KG03-2315	上村屋	碑文	碑文土器	時代	平安	施設名	施設地	新代村第1施設子上村	備考
明治-大正-昭和初期の開拓事業者										
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	事業者	新代地方施設局水道計画事務所	種別	所在地	新代町	備考
1	MEST-0277	上田筋	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
2	MEST-0256	上田筋	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
3	MEST-0234	上田筋	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
4	MEST-0257	上田筋	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
5	MEST-2296	上田筋	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
6	MEST-2274	上田筋	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
7	MEST-0223	新田筋	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
8	MEST-1255	新田筋	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
9	MEST-0289	在家の裏園	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
10	MEST-2265	在家の裏園	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
11	MEST-2300	三の岡筋	平安	土器	新代町	新代町	施設地	新代町	新代町	新代町見
12										
13										
14										
交通安全施設整備事業										
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	事業者	新潟地方整備局上本部	種別	所在地	新潟町	備考
1	MES6-1612	平安	平安	土器	新潟町	新潟町	施設地	新潟町	新潟町	新潟町見
交通安全施設整備事業										
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	事業者	新潟地方整備局上本部	種別	所在地	新潟町	備考
1	MES6-1612	平代	平安	土器	新潟町	新潟町	施設地	新潟町	新潟町	新潟町見
ふるさと林道整備整備事業										
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	事業者	久慈地方整備局農林部	種別	所在地	山形村	備考
1	NFG2-1221	八幡ヶ森	中世	土器	新潟町	新潟町	施設地	新潟町	新潟町	新潟町見
郷地整備合意整備事業(施設2施設X)										
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	事業者	千葉地方整備局千葉農村整備事務所	種別	所在地	千葉町大字八幡館	備考
1	OF21-2324	越後筋	中世	土器	新潟町	新潟町	施設地	新潟町	新潟町	新潟町見
2	OF22-2064	越後筋	中世	土器	新潟町	新潟町	施設地	新潟町	新潟町	新潟町見
3	OF22-2226	越後筋	中世	土器	新潟町	新潟町	施設地	新潟町	新潟町	新潟町見
4	OF21-2313	越後筋	中世	土器	新潟町	新潟町	施設地	新潟町	新潟町	新潟町見

令人少人：排水事業

事業者：北上地方振興局北上農村整備事務所

No.	通鑑口一	通鑑名	時代	種類・種特	所在地	備考
1	ME88-2397	茶器	圓文	陶器・白胎・施褐・石頭	北上山口の町字上野田新闢	

花巻市港務事業

(土取港港務施設整備)

事業者：花巻市港湾建設事務所

No.	通鑑口一	通鑑名	時代	種類・種特	所在地	備考
1	ME17-0110	竹	圓文・古代	陶文・土物器	右鳥谷町字八重闢	



III 写真図版





滝沢村 葉の木沢遺跡陥し穴 1



滝沢村 葉の木沢遺跡陥し穴 2



滝沢村 葉の木沢遺跡陥し穴 3



江刺市 前広田遺跡カマド断面



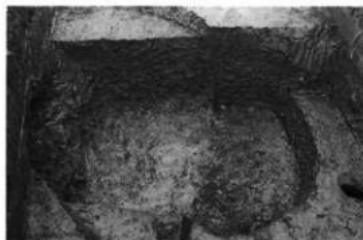
江刺市 前広田遺跡土坑・溝跡



江刺市 前広田遺跡土坑 2 断面



江刺市 前広田遺跡土坑 4・溝跡



江刺市 前広田遺跡土坑 4・溝跡

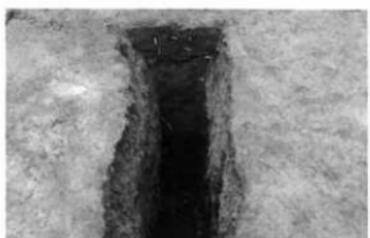
写真図版 1 県内遺跡調査状況



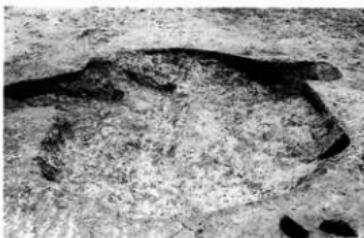
江刺市 前広田遺跡焼土の周土坑断面



胆沢町 八幡堂遺跡陥し穴



胆沢町 八幡堂遺跡陥し穴断面



水沢市 館遺跡竪穴状遺構



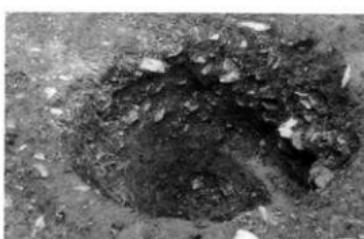
水沢市 館遺跡柱穴群



葛巻町 品井沢遺跡発掘区全景

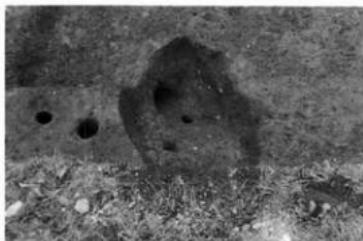


葛巻町 品井沢遺跡土坑 4



葛巻町 品井沢遺跡土坑 2

写真図版 2 県内遺跡調査状況



葛巻町 品井沢遺跡土坑 2



葛巻町 品井沢遺跡土坑 4



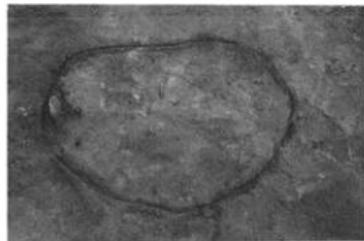
葛巻町 品井沢遺跡土坑 5 断面



葛巻町 品井沢遺跡土坑群



胆沢町 八幡堂遺跡陥し穴



西根町 福田遺跡焼土



一関市 西平遺跡土坑



一関市 西平遺跡土坑

写真図版 3 県内遺跡調査状況



一関市 西平遺跡溝跡



盛岡市 小鳥沢C遺跡発堀区全景



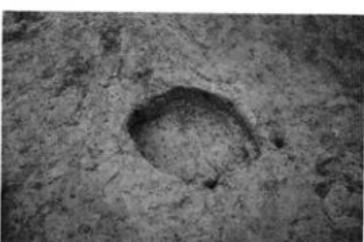
盛岡市 小鳥沢C遺跡土坑



盛岡市 小鳥沢C遺跡土坑断面



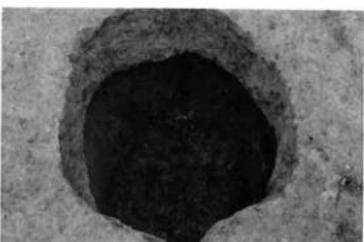
盛岡市 小鳥沢C遺跡土坑



盛岡市 小鳥沢C遺跡土坑



盛岡市 小鳥沢C遺跡土坑



盛岡市 小鳥沢C遺跡土坑

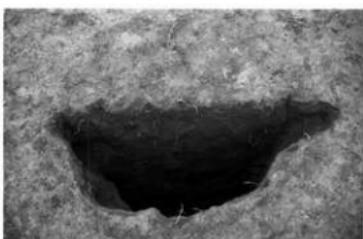
写真図版4 県内遺跡調査状況



盛岡市 小鳥沢C遺跡土坑



盛岡市 小鳥沢C遺跡土坑断面



盛岡市 小鳥沢C遺跡



盛岡市 小鳥沢C遺跡



盛岡市 小鳥沢C遺跡陥し穴



盛岡市 小鳥沢C遺跡陥し穴断面

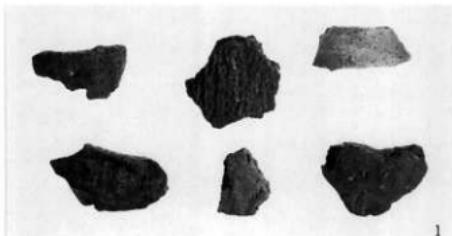


盛岡市 小鳥沢C遺跡陥し穴



盛岡市 小鳥沢C遺跡陥し穴

写真図版 5 県内遺跡調査状況



1

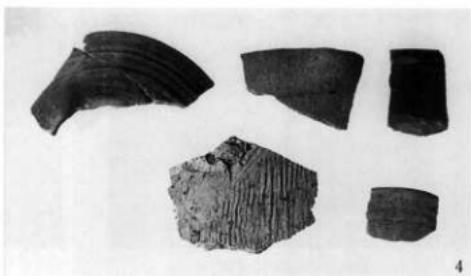
西桜町 福田遺跡



2



3



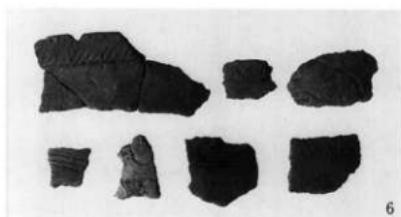
4

2~4 江刺市 前広田遺跡



5

水沢市 館遺跡



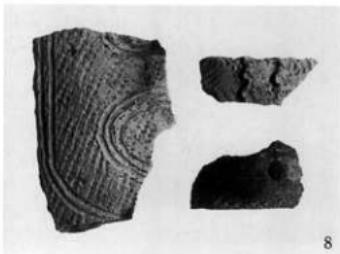
6

葛巻町 品井沢遺跡



7

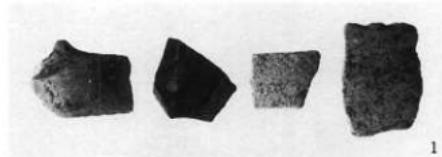
一関市 西平II遺跡



8

千賀町 清田台遺跡

写真図版 6 県内遺跡調査状況出土遺物 1



北上市 相田遺跡



千代町 奥王地区



北上市 鮎島・葛屋敷遺跡



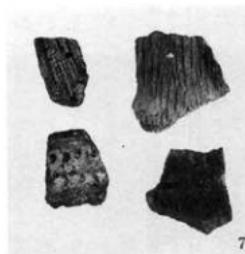
種市町 ゴッソー遺跡



一戸町 道白Ⅱ遺跡



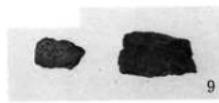
一戸町 五月館・仁昌寺Ⅰ・Ⅱ遺跡



船沢町 大清水・大清水上遺跡



水沢市 北田Ⅱ遺跡



一戸町 川原田平遺跡



鶴沢村 大崎Ⅱ・川前遺跡



住田町 小松Ⅰ・Ⅱ遺跡



大船渡市 丸森Ⅱ遺跡



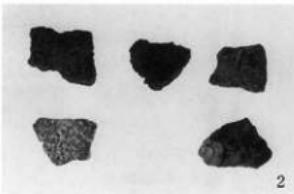
宮守村 上宮守遺跡

写真図版 7 県内遺跡調査状況出土遺物 2



1

遠野市 権現前遺跡



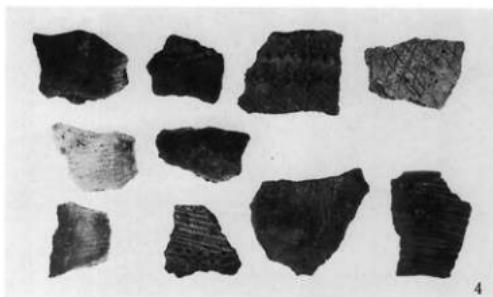
2

二戸市 浅石遺跡



3

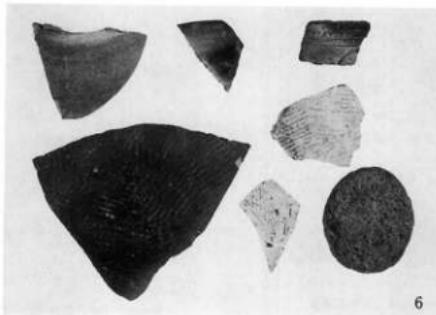
3・4 九戸村 長興寺Ⅰ遺跡



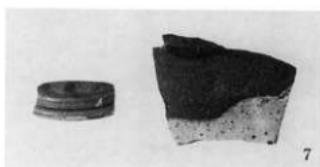
4



5



6



7

5～7 北上市 中村・千刈・野田Ⅰ・中居後Ⅱ遺跡

写真図版 8 県内遺跡出土遺物 3

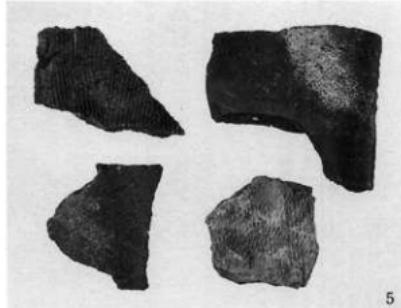


1

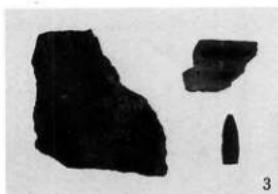
水沢市 森林Ⅱ・本宿迎畠遺跡



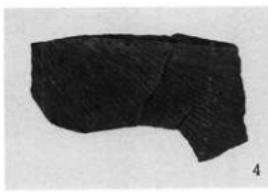
2



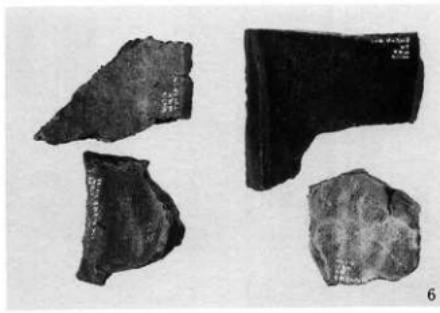
5



3



4



2～6 前沢町 明後沢遺跡群

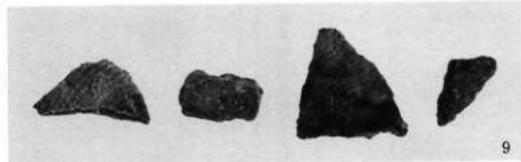


7



8

7・8 矢巾町 大道・田屋遺跡



9

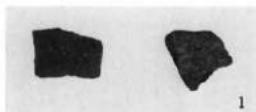


10

山形村 丹内Ⅰ・Ⅱ遺跡

安代町 下ノ田館・北の城館・山口遺跡

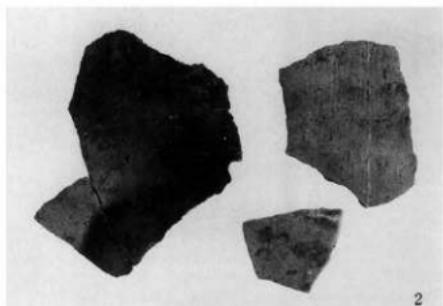
写真図版 9 県内遺跡出土遺物 4



東和町町井Ⅰ遺跡



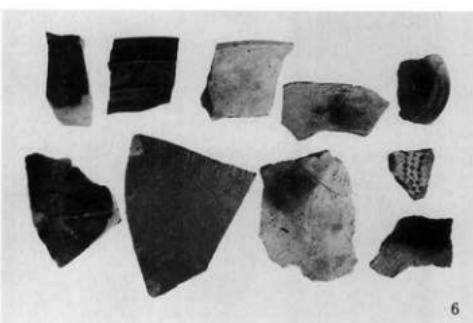
石鳥谷町大西遺跡



花巻市 上似内遺跡



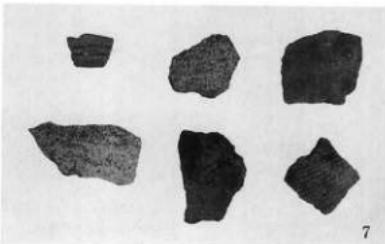
4



6

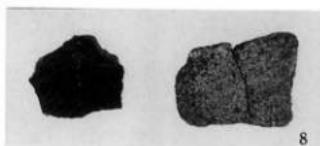


5

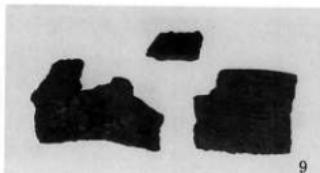


7

遠野市 宇南田Ⅰ遺跡



千厩町 鳥喰Ⅱ遺跡



9

滝沢村 けやきの平団地遺跡・蘭接地

写真図版10 県内遺跡出土遺物 5



1



2

1・2 水沢市 館道路

写真図版11 県内遺跡出土遺物 6



岩手県文化財調査報告第108集
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成11年度）

発行日 平成12年3月

発行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1

編集 岩手県教育委員会事務局文化課

印刷 株 杜陵印刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号

